
ガンダム合戦伝Ⅱ

グリブス戦役からザンスカール戦争まで

株式会社レッカ社 編著



PHP文庫

本表紙図柄||ロゼッタ・ストーン(大英博物館蔵)
本表紙デザイン+紋章||上田晃郷



はじめに

宇宙世紀の 苛烈な戦闘物語

ガンダムシリーズのいちばんの魅了といえる、
モビルスーツの戦闘。これらは、数多くの名
勝負や心に残る戦いを生み出します。

前書の『ガンダム合戦伝』では、「機動戦
士ガンダム」から「機動戦士ガンダム008
3 STARDUST MEMORY」まで

BATTLE

の宇宙世紀6作品をとりあげました。

そこで本書は、その後の宇宙世紀、「機動

戦士Zガンダム」ゼーラ「機動戦士ガンダムZZ」ダブルゼーラ「機

動戦士ガンダム 逆襲のシャア」リベンジ「機動戦士ガ

ンダムF91」リベンジ「機動戦士Vガンダム」の5作品

をとりあげ、代表的な戦闘を紹介しています。

宇宙や地球で行われた宇宙世紀時代の苛烈な戦いを知り、ガンダムの世界をより楽しんでいたただけなら幸いです。

株式会社レッカ社 斉藤秀夫

はじめに

第1章

機動戦士Zガンダム

ガンダムMk・Ⅱの奪取に成功したクワトロ・バジーナ隊
リック・ディアス部隊VS.ティターンズ部隊——14

百戦練磨の女戦士との死闘

ガンダムMk・ⅡVS.ガルバルディβ——18

衛星軌道上で火花を散らす男たちのプライド

ガンダムMk・ⅡVS.マラサイ——22

地球降下部隊を待ち受けるティターンズの恐るべき震

ガンダムMk・ⅡVS.マラサイ——26

シャトル打ちあげをめぐるエースパイロットたちの攻防

ガンダムMk・Ⅱ／VS.アッシマー——30

百式

高機動可変モビルアーマーの脅威

ガンダムMk・ⅡVS.ギアプラン——34

新旧エースパイロットが協力し、難敵を撃破

ガンダムMk・Ⅱ／VS.アッシマー——38

リック・ディアス

ホシコン・シティを恐怖のどん底におとし入れた「破壊の巨人」

ガンダムMk・ⅡVS.サイコ・ガンダム——42

新機体でカミーユ・ビダンを急襲するジェリド・メサ

ガンダムMk・ⅡVS.ガブスレイ——48

バブテマス・シロッコの黒い波動

エウーゴ部隊VS.ドゴス・ギア部隊 ————— 52

残忍な野獣が仕組んだ狡猾な作戦

ZガンダムVS.ギャプラン ————— 56

復讐に燃えるジェリド・メサ、怒りの猛攻

ZガンダムVS.ガブスレイ ————— 60

再び繰り返される悲劇

ZガンダムVS.サイコ・ガンダム ————— 64

レコア・ロンドの悲しき選択

Zガンダム／百式VS.メツサーラ ————— 70

断ち切れない因縁に導かれて戦うふたりの戦士

ZガンダムVS.バイアラン ————— 74

卓越したニュータイプ同士のハイレベルな戦い

キュベレイVS.ジ・O ————— 78

戦いを生む女神に立ち向かうニュータイプ戦士

ZガンダムVS.キュベレイ ————— 82

野獣の機体を新りさくZガンダムの真の力

ZガンダムVS.ハンブラビ ————— 86

己の存在意義をかけた女たちの戦い

ガンダムMk-II VS. パラス・アテネ ————— 90

漆黒の宇宙で火花を散らす黄金と純白の機体

百式VS.キュベレイ ————— 94

人々の魂が集まって訪れた奇跡の瞬間

ZガンダムVS.ジ・O ————— 98

第2章

機動戦士ガンダムZZ

ジウド・アーシタが初めて戦略的に戦った一戦

ZZガンダムVS.ズサ

108

伝説の隕石斬りが炸裂したZZガンダムの初陣

ZZガンダムVS.ハンマ・ハンマ

112

無邪気な少女のわがままにつき合わされたジウド・アーシタ

ZZガンダムVS.キュベレイ Mk・II

116

ジオン公国復興に向けて動き出した砂漠戦のスペシャリスト

ZZガンダムVS.ロンメル隊

120

出世を夢みた武人が大人のプライドをかけて挑んだ勝負

百式VS.ドライセン

124

凄惨を極める殺戮劇に、ジウド・アーシタの怒りが爆発

ZZガンダムVS.ザクIII

128

ZZガンダムの前に立ちちはたかる紫色の巨大な悪魔

ZZガンダム／VS.サイコガンダム Mk・II

132

キュベレイ Mk・II

戦禍に巻きこまれた悲しき強化人間との攻防

ZZガンダムVS.ゲーマルクVS.キュベレイ Mk・II

136

魂を暴走させた狂戦士、最後の戦い

ザクIII改VS.ドーベン・ウルフ

140

呪縛を振りほどけなかった青年の最期

フルアーマーZZガンダムVS.クイン・マンサ

144

ふたりの生き様が激突した最終決戦

強化型ZZガンダムVS.キュベレイ — 148

第3章

機動戦士ガンダム 逆襲のシヤア

再び戦うことになった宿命のライバルの前哨戦

リ・ガズィ VS. サザビー — 156

愛する少女を守れずに散った強化人間

Vガンダム VS. ヤクト・ドーガ — 160

宿命のライバルふたりがすべてをかけた最後の激闘

Vガンダム VS. サザビー — 164

第4章

機動戦士ガンダム F91

「貴族主義」をかけて侵略を開始したクロスボーン・バンガード

クロスボーン VS. 地球連邦軍部隊 — 174

高性能機ならではの緊迫した高速戦

ガンダム F91 VS. ビギナ・ギナ — 178

「悪魔の花」を駆る鉄仮面との戦い

ガンダム F91 VS. ラフレシア
ビギナ・ギナ — 182

第5章

機動戦士Vガンダム

スベシナル少年、ウツソ・エヴィンの初陣

シャッコー VS. ゴロ

192

ウツソ・エヴィンの優れた格闘センスが光る戦い

Vガンダム VS. トムリアット

196

全人類の宝を守り切った女戦士たちの戦い

シユラク隊 VS. メツメドーザ／リカール

200

敵艦隊の裏をかくたロベルト・ゴメスの奇襲作戦

リーンホース VS. スクイード

204

戦士の掟をたたきこまれた「人食い虎」との死闘

Vダッシユガンダム VS. アビゴル

208

憧れの女性が強敵として現れた衝撃の一戦

Vガンダム VS.

コンティオ／
リグ・シャッコー

212

混乱する戦場に熾爽と登場した「光の翼」

V2ガンダム VS. ゲドラフ

216

非道な作戦を阻止するためにオリファ・イノエ決死の突撃

リガ・
ミリティア部隊 VS. モトラッド艦隊

220

巨大タイヤ艦との苛烈な戦いのすえに奪われた母の命

V2ガンダム VS. モトラッド艦隊

224

戦わずして小部隊を無力化させた光の翼の新たな使い方

V2ガンダム VS. ゴロ改

230

戦場に鳴り響く鈴の音を秘策で封印

V2ガンダムVS.ザンネツク

234

火力強化したV2ガンダムを追いつめる「光の刺」

V2バスターガンダムVS.ゲンガオゾ

238

妄執にとらわれた狂戦士との対決

V2ガンダムVS.リグ・コンティオ

242

愛する男を奪われた悲しき女戦士の最期

V2アサルトガンダムVS.ゴトラタン

246

COLUMN

「機動戦士Zガンダム」合戦総括

地球連邦政府の腐敗が招いた

新たな戦乱の幕開け

104

「機動戦士ガンダムZZ」合戦総括

ヤンチャ坊主の甘ちゃん正義が、

大人を正す戦い

152

「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」合戦総括

外交・軍事を駆使した戦いと、

登場人物たちの魂の激突

170

「機動戦士ガンダムF91」合戦総括

「貴族」による地球圏統一をめざした戦争

188

「機動戦士Vガンダム」合戦総括

人類絶滅の野望を阻止した義勇軍

252

第1章

機動戦士⁰

ゼー
ー
タ

Z
ガンダム

BATTLE

宇宙世紀0087年。先の大戦「一年戦争」で受けた戦火の傷跡も癒され、地球連邦政府はすっかり復興していた。

しかし、ジオン公国軍残党を鎮圧する目的でつくられた連邦軍エリート部隊「ティターンズ」が、その目的を逸脱し暴走をはじめた。

このことに反発した一部の連邦軍人とスベール・スノイドは、ティターンズの横暴を止めるべく、反地球連邦組織「エウーゴ」を結成する。

そしてスペース・コロニー「サイド7」にある「グリーン・ノア2」で、ティターンズが新型ガンダムを開発しているとの情報を得たエウーゴは、それを奪取するべく行動を開始する。

そこでクワトロ・バジーナと名を変えたシャア・アズナブルは、ひとりの少年と出会う。

少年の名はカミーユ・ビタン。

Phraseology

■ ティターンズ

ジオン公国軍残党を鎮圧するために結成されたエリート部隊。しかし、その実は組織の提唱者ジャミトフ・ハイマンの私兵組織でスペースノイドの弾圧を目的としている。

■ エウーゴ

ティターンズの横暴を止めるべく、ブレックス・フォーラによって結成された反地球連邦組織。スポンサーであるアナハイム・エレクトロニクス社製の強力な戦艦やモビルスーツを所持している。

■ アクシズ

「一年戦争」後、ジオン公国残党が集結したアステロイドベルトの拠点。そのまま組織の名前となった。

■ 強化人間

薬物の投与や、催眠療法によってつくられた人工ニュータイプといえる存在。しかし、精神的に不安定な人間が多い。

■ 可変モビルスーツ

ムーバブル・フレームなどの導入で誕生した第二世代モビルスーツに、変形機構を組みこんだ第三世代モビルスーツ。可変モビルアーマーとの厳密な違いはない。

■ クワトロ・バジーナ

地球連邦軍の軍籍を手に入れ、エウーゴに参加した「赤い彗星」こと、シャア・アズナブルの偽名。

ガンダムMk・IIの奪取に成功したクワトロ・バジーナ隊

リック・ディアス部隊 VS. ティターンズ部隊

■新兵器への偵察が戦闘に変わる

「一年戦争」から7年。地球連邦軍のエリート部隊、ティターンズが軍事拠点とするスペース・コロニー群「グリーン・オアシス」で、新型のガンダムが開発された。その情報を察知した、反地球連邦軍組織エウーゴのクワトロ・バジーナ（シャア・アズナブル）は、アポリー・ベイ、ロベルトとともに偵察へ向かう。

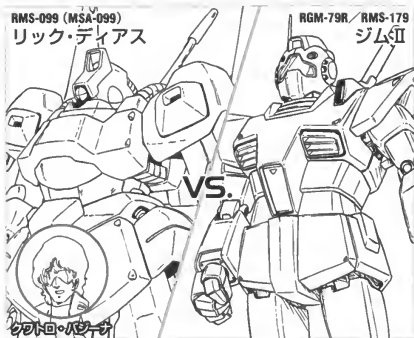
そして、「グリーンノア1」と「グリーンノア2」コロニーで、試験稼動中だった「ガンダムMk・II」の姿を確認。これを奪取するため3人は、グリーンノア1の外壁に穴を空け、「リック・ディアス」で内部に潜入するのだった。

だが彼らの動きは察知され、迎撃の「ジムII」が現れた。「連邦軍は、いつになったらここが地球と地続きでないということがわかるんだ!」。ひとりつぶやくクワトロは、戦闘状態に移行。クワトロ隊は各々手に持つクレイ・バズーカや、腰部背側

第1話
「黒いガンダム」

第2話
「旅立ち」

軍事技術者の息子、カミーユ・ビダン、スペースノイドを威圧するティターンズに反発し、モビルスーツを奪取してしまう。



に2丁装備しているビーム・ピストルを構える。ジムⅡ隊は教本通りの編隊を組み戦闘距離に入るが、戦場慣れたクワトロ隊は、確実に1機ずつジムⅡを落としていく。

また、基本性能が7年分進化しているうえに、一線級モビルスーツのリック・ディアスと二線級のジムⅡでは機動性が違う。ジムⅡのパイロットは叫ぶ。「速すぎる！ まるで赤い彗星だ」。コロニーの大地へ急降下したあと、地表ぎりぎりまで水平飛行に移るクワトロ隊を追っていたジムⅡは、同様の進路変更ができずに大地へと激突した。

戦闘は一般居住区におよび、民家の軒先を超低空でモビルスーツが飛

び回り、撃破されたジムⅡが建物に突っこみ被害が広がる。そしてクワトロ隊は待望のガンダムMk・Ⅱを戦場に引きずり出すことに成功。

激しい機動戦のはてに、カクリコン・カクーラーの乗るガンダムMk・Ⅱを包囲した。

■ガンダムに乗りこんだ少年

カミーユ・ビタンは高校生。港口でティターンズのジェリド・メサと殴り合い、叛乱分子の疑いで憲兵に拘禁されていた。訓練中のジェリドのガンダムMk・Ⅱが不時着したとき、壊れた本部ビルからカミーユは逃走した。そしてクワトロたちの騒ぎに乗じて、放置されていたジェリドのガンダムMk・Ⅱにとりついた。

包囲をされていたカクリコンは、すぐとなりの倉庫の屋根を突き破ってジェリド機が立ちあがったことに安堵し、助勢を求める。しかし返ってきた言葉は予想外のものだった。カミーユはティターンズ士官・憲兵たちを追い払うと、クワトロたちのリック・ディアスに対して「あなた方の味方だ！」と宣言。カクリコンのガンダ



エウーゴのクワトロは、部下ふたりとリック・ディアスによる敵基地偵察を敢行。



カミーユは、ガンダムMk-II 3号機に乗りこみ、カクリコンの2号機を襲撃する。

ムMk-IIに突進する。味方機の突進に戸惑うカクリコン機を押し倒し、半壊したビルに押しつけ、「コクピットを開けるんだ！ さもないと、ビルごとおまえを潰しちゃうぞ！」と強要。やむなくカクリコンはこれに応じた。

カクリコンが降りた無人のガンダムMk-IIをカミーユ機とアポリーのリック・ディアスで抱えて撤退するクワトロ隊は、途中、ジムと戦っていたロベルト機と合流。カミーユは、その戦闘で破壊された我が家に唾然としつつも、エウーゴに身を

寄せる決意を固める。「行きます、連邦軍は嫌いですが、何よりティターンズは嫌いなんです」。

クワトロの予測通り、ティターンズの追撃隊はコロニー外で待ち伏せていた。そのなかには自機をカミーユに奪われ「ハイザック」で出撃したジェリドもいた。だが、クワトロは無策ではなかった。

かねての打合せ通り信号で指示し、エウーゴの母艦、強襲巡洋艦「アーガマ」からメガ粒子砲の援護射撃を得る。

敵艦に燃えるジェリドたちだったが、降り注ぐビームの前に、あえなく撤退するしかなかった。

百戦練磨の女戦士との死闘

ガンダムMk II VS ガルバルディβ

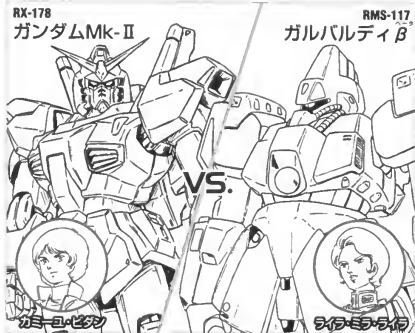
第7話 「サイド1の脱出」

圧倒的な強さを誇るガンダムMk-IIのパイロットが少年であることを知った、ライラ・ミラ・ライラは、その存在に畏怖を感じる。

■歴戦のベテラン女性パイロット

「アーガマの懐は開いているように見えて、近寄ると厚い。ことにガンダムMk-IIは、無手勝流に見えても、ぶつかってみるとその抵抗力は圧倒的に感じるのです」と、地球連邦軍パイロット、ライラ・ミラ・ライラは言った。先の発電衛星の攻防戦で得た彼女なりの戦訓だ。しかし、ティターンズの重巡洋艦「アレキサンドリア」で作戦を指揮するジャマイカン・ダニングンは、この意見を聞き入れず、さらにライラが主張した「アーガマの進路がサイド1である可能性」までも否定した。

そこでライラは、本来の母艦「ボスニア」でティターンズ艦隊と別れ、単艦でスペース・コロニー「サイド1」へ向かう許可をとりつける。ボスニアは、サイド1に進出。スペース・コロニー「30パンチ」に、エウーゴの強襲巡洋艦「アーガマ」が入港するところをとらえた。



反地球連邦のデモがおこった30パンチは、ティターンズの毒ガス攻撃によってコロニーごと全滅させられた。毒ガスこそ分解されたものの、2年後の今もミラーの調節がなされず大量の死体が放置されている、死の世界。

アーガマは、カミーユ・ビダンと新メンバーのエマ・シーンに、ティターンズの横暴を見せるために立ち寄ったのだが、ライラはそうは考えなかった。

「もしや誰も近づかない30パンチにエウーゴの秘密基地が?」。ライラは秘密基地の確証をつかむため、部下ふたりとコロニー内に潜入するのだった。

■ニュータイプ力のまえに散る

コロニー内で部下ふたりと別行動をとったライラは、死の静寂に包まれた街で、クワトロ・バジーナ、カミーユ、エマの3人と出会い、「地球に住む人が、ニュータイプになるスペースノイドを恐れるから虐殺を行ったのだ」という、クワトロの説に激昂する。地球連邦軍の軍人であるライラにとって、ティターンズであつても、そこまで腐りはてた組織には思えなかったからだ。ライラは「地球連邦が第二のザビ家になろうとしているのが、わからないのか!？」と言うクワトロの言葉に衝撃を受けるが、一瞬の隙に乗じて逃亡した。

モビルスーツ戦を仕掛けてくるであろうライラに対し、急ぎ港を離れるアーガンマは、黒から白く塗り替えられたカミーユの「ガンダムMk-II」を前に立てた。接触直後からカミーユは乱戦に突入。ボスニアのモビルスーツ隊は、カミーユのガンダムMk-IIの機動力に翻弄、撃破される。ライラの「ガルバルディβ」も、コロニーのミラー越しにガンダムMk-IIを見失った。



カミーユのガンダムMk-IIの威力は凄まじく、ベテランのライラが、簡単に接近を許してしまう。



ガンダムMk-IIの正確な射撃に、ライラはカミーユの力を思い知る。

このときカミーユは、コロニーの外壁にできた爆発口の大穴に潜りこみ、息を殺してライラが現れるのを待っていた。金属の塊の中のためレーダ探知も避けたガンダムMk-IIは、爆破口の直上を通過するライラのガルバルディβにしがみつく。モビルスーツ同士の肉弾戦のなか、ライラは、ガンダムMk-IIのパイロットが先ほど出会った少年兵だったことを知り、驚き恐れる。「ライラ大尉、あなただつて、さっきのクワトロ大尉の言うことを聞いたでしょ!」「何ごたくを並べて!」。反

発するライラ。

カミーユとライラの戦闘はアレキサンドリアでも観測できたが、ライラに隔意を抱くジャマイカンは援護を出さない。孤立無援のライラ隊は追いつめられ、次々とガンダムMk-IIに撃破されていく。

「ジェリド、油断するな。ヤツは只者じゃない。…そうか、私が今あの子のことを只者じゃないと言った。このわかり方が無意識のうちに反感になる。これが、オールドタイプということなのか!」。

ライラは、カミーユの一撃によって最期をむかえる刹那、クワトロの言葉の意味を理解するのだった。

衛星軌道上で火花を散らす男たちのブライド

ガンダム Mk II VS マラサイ

第11話 「大気圏突入」

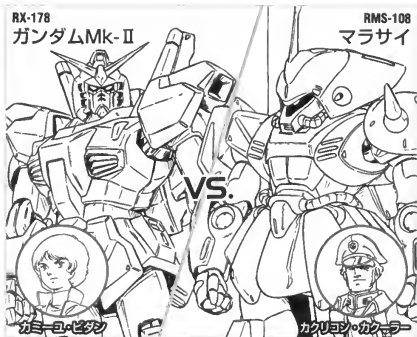
地球連邦軍本部「ジャブロー」をめざすエウーゴ。軌道上で侵攻を阻止するために、ティターンズはモビルスーツ戦を仕掛ける。

■乾坤一擲の地球連邦軍本部強襲作戦

周回軌道上から地表へと降下することは、大変危険のともなうミッションだ。しかしあえてこれを行い、ティターンズの牙城、地球連邦軍本部「ジャブロー」を攻め落とす。これが、エウーゴが立案した地球降下作戦だった。

強襲巡洋艦「アーガマ」のモビルスーツ隊も、一線級パイロット全員を降下隊にくわえていた。だが、ティターンズも手をこまねいて見ていたわけではない。降下するモビルスーツ隊と、支援火器を搭載した母艦の連携が最もとりにくくなる大気圏突入直前のタイミングを見計い、阻止作戦を展開した。

先鋒となったのは、バプテマス・シロッコの「メッサーラ」。防空モビルスーツ隊をものともせず、次々とエウーゴ艦艇を撃墜。降下隊主力であり編隊構成のキーとなっていたエマ・シーンの「リック・ディアス」を誘引して、編隊構成を遅らせる



ことに成功する。くわえてエマ機の右腕をビーム・サーベルの一撃で斬り落とした。

そのころアーガマは、降下部隊の前方に新たな敵部隊を発見。エウーゴに参加し、アーガマの艦長となったブライト・ノアは、モビルスーツ隊を艦隊水平面より下に移動させ、艦砲射撃を開始した。

■大気圏突入直前まで戦う

駆けつけたクワトロ・バジーナの「百式」と、カミーユ・ビダンの「ガンダムMk-II」によって挟み撃ちにあったシロッコは、ティターンズの阻止部隊がエウーゴ降下隊の前方に接触したことを見てとると、

「地球の引力の井戸に引きこまれるのは御免だ。あとは後続に任せる」と言って、悠然と後退した。

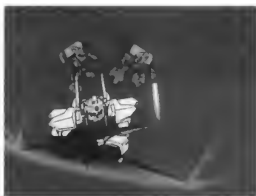
クワトロたちは急ぎ艦隊前方へ出て、同一軌道の先行位置から降下部隊に向かって仕掛けてくる、ジェリド・メサとカクリコン・カクーラーの「マラサイ」をはじめとする阻止部隊と対峙した。

自機の片腕を失っても降下しようと、ジェリドたちとの戦闘に入ったエマだが、大気圏に捕まる危険のあるところまで高度を下げて救出にきたアーガマに拾われ、最終的に宇宙に残ることになった。

一方半球形のモビルスーツ用大気圏突入装置、バリュートが次々と開き、大気層の約100キロメートルの長距離落下に入った敵味方のモビルスーツは、突入中でも戦闘を続ける。

バリュートが破れれば、モビルスーツは燃えながら墜落するしかない。すべてのモビルスーツは、自分が生き延びるため一歩でも二歩でも下に潜りこんで敵のバリュートを撃とうとする。

凄惨なチキンレースが続くなか、大気圏突入前のカミーユはジェリドとカクリコ



2機のマラサイは、執拗にガンダムMk-IIを狙い、大気圏の突入直前までバリュートを開かずに対峙する。



ガンダムMk-IIを果敢に攻め立てたカクリコンだが、予期せずにバリユートが自動展開してしまう。

ンに執拗に追われていた。「あの新型、高度が下がっていることに気づいていないのか、燃えるぞ!？」と、カミーユが怖れを抱くほどに。

自在に飛行するフライングアーマーのガンダムMk-IIに対し、通常のモビルスーツは落下と逆噴射で機動をかけながら戦闘するしかない。それでも落下速度は増していくばかり。ジェリドはついに諦め、突入体制に入った。

だが、カクリコンは「バリユートを展開したら、こちらがやられる」と、なおも

カミーユを追う。

「もう保たないぞ!」と、叫ぶカミーユに斬り掛かるカクリコン。だが、そのとき安全装置が勝手にバリユートを開き、最悪のタイミングでマラサイは突入体勢に入る。開いたバリユートは、交錯したカミーユのフライングアーマー翼端で破られてしまう。

「…アメリカ……」。大気摩擦で自機が発する摩擦熱のなか、カクリコンは地球で待つ女性の名をつぶやき散華した。

バリユートの中からそれを目の当たりにしたジェリドは、友の復讐を誓うのだった。

地球降下部隊を待ち受けるティターンズの恐るべき翼

ガンダムMk・II vs. マラサイ

■ 壮絶なジャブロー攻防戦

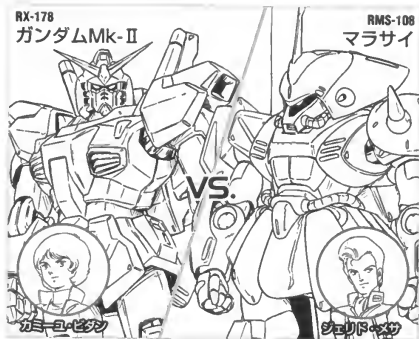
大気圏突入用の減速・耐熱バルーン、バリユートの自動装置は、一定高度に達すると再減速バラシユートを開き、バリユートとモビルスーツを引き離す。ここからはモビルスーツ自身がホバーで着地するのだ。

入り乱れて降下したエウーゴと、ティターンズの両軍は、再び戦闘状態にはいる。「マラサイ」に搭乗するジェリド・メサは、すかさず、カミーユ・ビダンの「ガンダムMk・II」を探した。バラシユートの分離直後から索敵を開始したマラサイのコクピットで「俺は神の存在を信じるぜ」と、叫ぶジェリド。「カクリコンの仇はとらせてもらう!」。高い機動力を活かして一足先に低空に達していたガンダムMk・IIを、スクリーンで確実にとらえる。

アマゾン川流域のジャングルに降り立ったエウーゴのジャブロー攻略隊と同様に、

第12話 「ジャブローの風」

地球連邦軍本部「ジャブロー」に降り立ち戦う、エウーゴ部隊。だがそれは、ティターンズの恐るべき翼だった。



衛星軌道から降下した阻止隊に現地
の防衛隊をくわえたティターンズ
は、乱戦に入った。

カミーユは、防空戦闘機「TIN
コッド」との空戦に勝利し、作戦指
揮をとるクワトロ・バジーナからの
集合指示を受けていた。そこに木陰
からジェリド率いるモビルスーツ隊
が襲撃をかける。しかし、フライン
グアーマーを利用して次々と敵を撃
破するガンダムMk・II。

「どうした？ ここは地球だぞ。エ
ウーゴよりも俺たちのほうが有利な
はずだ」。地球生まれでエリート意
識剥き出しのジェリドは、フライン
グアーマーのホバー機能で水面上を
走るガンダムMk・IIを上空から撃

ち下ろす。しかし、カミーユはジェリドたちの追撃を振り切り、クワトロとの合流を果たす。

■恐ろしい罠にはめられたジャブロー攻撃部隊

集結したエウーゴ部隊は、ガルダ級超大型輸送機が停泊する滑走路から地下へと侵攻した。しかしクワトロは、「妙だな。ジャブローの抵抗はこんなものではない」と不審感を抱きはじめる。

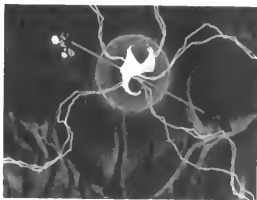
状況は捕虜尋問で明らかになった。ティターンズはすでにジャブローから本部機能を移転。さらには侵攻してくるエウーゴ部隊に置き土産を残していた。

捕虜の少佐は「この司令が起爆装置にスイッチを入れるのを見たんだ。もう時間がない!」と、核爆弾の存在を明かす。作動は35分後。クワトロは、自軍と捕虜をガルダ2機に乗せて脱出することを決意した。

一方、状況を知り脱出を提案する一団と別れたジェリドのマラサイは、ガンダム Mk・IIと「百式」に遭遇。市街戦から発展した戦いは、未整備の巨大洞窟へと雪崩れこんだ。迷路のごとき洞窟内で再びガンダム Mk・IIと対峙するジェリド。



フライングアーマーは、地上ではホバー機能をもち、ガンダムMk-IIをサポートした。



戦友たちの仇を討つため、ジェリドはガンダムMk-IIを追いつけ、地下空洞で戦闘を展開した。

一瞬早く撃ったガンダムMk-IIに、マラサイは左腕を吹き飛ばされる。だが、エネルギー切れをおこしたガンダムMk-IIを、地下の深い縦穴に追いこむことに成功する。しかし、マラサイの死角に入ったガンダムMk-IIが、わずかな隙にエネルギーカートリッジをとり替え、バーニアで急上昇して反撃。ジェリドはビームがぶつかり合うことで起こった激しい爆風に吹き飛ばされて、機体を失う。

カミーユは無人のジャブロー深部で、偵察のために先行して地球に下りていたレコア・ロンドと、協力者のカイ・シデンを救出。

ふたりをガンダムMk-IIの手のひらにのせたカミーユは滑走路を走り出したガルダに引き渡した。クワトロは、いまだ攻撃を続けるティターンズの「ハイザック」を排除するため、滑走路での戦闘を開始。援護に戻ったガンダムMk-IIとともに目標を足止めし、バーニア全開のジャンプで輸送機にとりつき、脱出に成功する。

その後方ではガルダがまだ高度を十分あげ切らぬうちに、核の業火があたりを包んだ。

シャトル打ちあげをめぐるエースパイロットたちの攻防

ガンダムMk II / 百式 VS. アツシマー

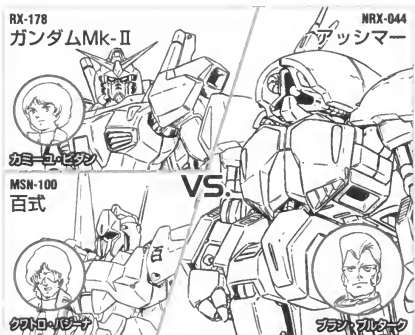
第13話 「シャトル発進」

カラバのハヤト・コバヤシによってパイロットたちを宇宙に返すシャトルが用意されるが、発射直前に敵の襲撃を受けてしまう。

■宇宙へのパイロット帰還作戦

エウーゴによる地球連邦軍本部「ジャブロー」への襲撃は空振りに終わり、クワトロ・バジーナ以下のエウーゴ攻撃隊は、2機のガルタ級大型輸送機「アウドムラ」と「スードリ」で脱出。エウーゴの支援組織カラバの協力で、ケネデイスペースポートへ向かった。ケネデイスペースポートはカラバの制圧下であり、旧式ながら2機のシャトルを保持している。このシャトルを使って、エウーゴのパイロットたち約40名と3機のモビルスーツ（クワトロの「百式」、カミーユ・ビダンの「ガンダムMk II」、ロベルトの「リック・ディアス」）を宇宙へ帰そうというのだ。

スペースポートへ到着した一行は軌道上の強襲巡洋艦「アーガマ」と連絡をとり、早速シャトルの発射準備を開始する。目立つ大型輸送機を着陸させた以上、連邦軍の追撃があると考えたカラバは、同時にスペースポートから移動する準備もはじめ



た。アーガマとの合流に最適なシャトルの打ちあげ時間まで40分。それまで、ティターンズの追撃隊が現れないことを祈るしかない。

■可変モビルアーマーの脅威

エウーゴのパイロットたちをシャトルに乗せ、発射準備を急ぐカラバだったが、シャトルの発射時間がくるまえに、ブラン・ブルターク率いる追撃部隊が現れる。そして、スペースポートにけたたましく警報が鳴り響くなか、迎撃体制をとる間もなく、モビルスーツを搭載する予定のシャトルが破壊されてしまった。

シャトルを破壊されたからには、モビルスーツの打ちあげは諦めるし

かない。しかしエウ・ゴのパイロットたちが乗りこんでいるもう1機のシャトルは、なんとしても守る必要がある。

クワトロは百式でカミーユのガンダム Mk・IIとともに出撃。リック・ディアスでシャトルへ向かっていったロベルトと迎撃を開始した。

スペースポートを襲撃したティターンズの追撃隊の編成は、ブランの可変モビルアーマー「アッシマー」とベースジャバーに搭乗した「ハイザック」が数機。戦いに慣れたクワトロたちにとつて、ハイザックやベースジャバーなど脅威ではなかったが、アッシマーだけは別だった。

重力が働く地球上では、空中でのモビルスーツの機動性は大きく制限を受けてしまう。モビルアーマーとモビルスーツ、ふたつの形態を使い分けつつ自在に飛び回るアッシマーは、クワトロの百式をもつてしても苦戦を強いられた。

アッシマーの機動性に翻弄されながらも、必死に防戦する百式。その様子をブランクは「醜いな!」と嘲笑う。しかし、余裕が油断に繋がったのか、百式のビーム・



アッシマーは圧倒的な機動性で、ケネディスペースポートからのパイロット帰還作戦を妨害する。



クワトロの機転で、百式とガンダムMk-IIの加速力を合わせ、アッシマーを追撃する。

ライフフルがアッシマーを捉える。ブランは思わぬ一撃に、今度は離れた場所で交戦していたガンダムMk-IIへアッシマーを向ける。

完全に不意を突かれたガンダムMk-IIだったが、間一髪ロベルトのリック・ディアスが応援に駆けつける。しかし、高速移動のアッシマーを見失った刹那、ビームの一撃がうしろからリック・ディアスを貫き、ロベルトは散った。

ロベルトのリック・ディアスが爆散するなか、ようやくシャトルは発進するが、これに気づいたアッシマーはシャトルを追撃する。

「カミーユ、百式の肩に乗れ!」。クワトロは百式の肩にガンダムMk-IIを乗せ、モビルスーツ2機の推進力を合わせて急上昇。空中で百式の肩から飛び立ったガンダムMk-IIが、さらなる加速をかけてアッシマーを攻撃し、なんとかシャトルの撃墜を阻止することに成功した。

その降下中、変形の間を突いたガンダムMk-IIのビーム・ライフフルが、アッシマーを捕らえる。しかし、撃墜にはいたらず、アッシマーは飛び去ってしまうのだった。

高機動可変モビルアーマーの脅威

ガンダムMk-II vs ギャプラン

第14話
「アムロ再び」

第15話
「カツの出撃」

ロザミア・バダム隊との交戦直後、プラン・ブルターク隊が超大型輸送機「アウドムラ」に再度攻撃を仕掛けてくる。

■高機動可変モビルアーマーの波状攻撃

ケネデイスペースポートで宇宙へ帰り損ねたクワトロ・バジーナとカミーユ・ビダン、エウーゴの支援組織カラバのメンバーとともに、ガルダ級大型輸送機「アウドムラ」でヒッコリーを目指していた。

クワトロは、ケネデイスペースポートを襲った地球連邦軍が、残してきたアウドムラと同型の「スードリ」を接收して追ってくるだろうと予想していたが、それより先に思わぬ敵と遭遇する。それは、プラン・ブルタークと合流すべくオーガスタのニュータイプ研究所から出撃した、強化人間のロザミア・バダム率いる部隊であった。

民家上空ということで、アウドムラからの出撃はサブ・フライト・システム「ド・ダイ改」に乗せたクワトロの「百式」だけにとどめ、残ったモビルスーツは格納庫



のハッチから迎撃することになる。しかし、ロザミアが駆る可変モビルアーマー「ギャプラン」が、高い機動性を発揮して百式の脇をすり抜けると、アウドムラを急襲。アウドムラは、格納庫内を被弾する。

この状況を黙って見ていられないカミーユは、ガンダムMk-IIをド・ダイ改に乗せると勝手に出撃する。しかし、「ゲタ履きのモビルスーツと、ギャプランでは違うんだよ!」と言うロザミアの嘲笑通り、ガンダムMk-IIは攻撃を当てるところか反撃を避けるので精一杯となってしまう。

カミーユは交差する瞬間、ギャプランに飛びかかるという予想外の行

動で一時的に優位にたつも、急制動をかけたギャブランからあつさり投げ出され、逆に窮地におちいる。そこへ割って入った百式が援護射撃を行うと、クワトロの気迫にプレッシャーを感じたのか、ロザミアは引きあげてスードリへと向かった。

■英雄アムロ・レイの復活

ロザミア隊を退けてほっとしたのも束の間、今度はブラン隊がアウドムラを襲う。

クワトロとカミーユは、百式とガンダムMk・IIで出撃。散弾を発射するハイパー・バズーカで迎撃するものの「アッシマー」を撃ち落とすまでにはいかない。逆にアッシマーの銃口がアウドムラの艦橋へ向けられ、万事休すかと思われたそのとき「下がっている、シャア!」という言葉が聞こえてきた。

突如として地球連邦軍の監視下から抜け出してきたアムロ・レイの小型輸送機が、猛スピードでアッシマーに体当たりを敢行したのだ。

予期せぬ攻撃に不意を突かれたブランは、部隊とともに撤退していく。最前線に



アムロは機動性に乏しい小型輸送機を巧みに操り、アッシマーに体当たり攻撃をかける。



そのときカツには、崖の向こうから出てくるギャプランがはっきりと見えていた。

英雄アムロ・レイが復活した瞬間だった。

■カツ・コバヤシの苦い初陣

プラン隊を退けたアウドムラだったが、スードリの追撃はなおも続いており、サフランシスコ上空で再びロザミアのギャプランに襲撃される。アムロとともに合流したカツ・コバヤシは、戦う決心がつかず煮え切らないアムロへの苛立ちから、

勝手にガンダムMk・IIに乗りこんで出撃。

「僕だって戦えるはずだ」と出撃したカツだったが、機体の性能すらろくに把握していない状態で戦えるはずもなく、敵を撃墜するどころか金門橋の残骸に激突するという醜態をさらしてしまう。

一方、ギャプランは遅れて現れた百式と交戦を開始するが、気配を感じたカツのガンダムMk・IIに足を撃ち抜かれ、バランスを崩したところを百式とリック・ディアスによってとどめを刺された。

敵をしとめるきつかけこそつくれたものの、カツにとってはほろ苦い初陣となった。

新旧エースパイロットが協力し、難敵を撃破

ガンダムMk II / リック・ディアス VS. アッシマー

第16話 「白い闇を抜けて」

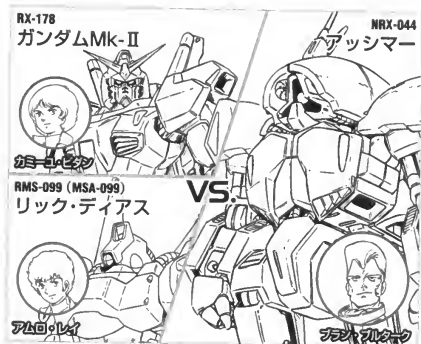
宇宙への帰還用シャトルを
発射するため、超大型輸送
機「アウドムラ」は濃霧の
なか、パイロットたちと搭
乗機を地上へとむかわせる。

■濃霧を利用した、二度目の宇宙帰還作戦

「この霧を利用して、カミーユとクワトロ大尉だけでも、宇宙に戻してあげなければね」と、ベルトーチカ・イルマは言う。超大型輸送機「アウドムラ」は濃霧のなかを低く飛び、伝書鳩でヒッコリー基地に到着を知らせた。

返信は滑走路のドラム缶の焚火と信号弾。電波をティターンズ側に察知されないためだ。しかし、それは超高空を巡航していた敵の超大型輸送機「スードリ」に発見されてしまう。

クワトロ・バジーナの「百式」とカミーユ・ビダンの「ガンダムMk II」は、サブフライトシステム「ド・ダイ改」で地表のシャトルを目指した。パイロット候補生となったカツ・コバヤシは、同じく宇宙にあげる「リック・ディアス」を運ぶアムロ・レイのコクピットに同乗した。だがアムロは発進直後、ブラン・ブルター



クの「アッシマー」が出撃してきた
気配を悟り、単機、ド・ダイ改で上
昇する。

一方、ベルトーチカの複葉機は、
クワトロとカミーユをヒッコリー基
地へと誘導した。クワトロはアムロ
機があとについてこないことを不審
に思うが、とにかくシャトルへモビ
ルスーツを載せる。

そのころ上空では、アッシマーが
アウドムラと交戦していた。「降下
だ。ただし、ヒッコリーには近づく
なよ」と、視界をさえぎる濃霧を利用
して、あくまでもシャトル発射か
ら敵の目を引き離そうとするハヤ
ト。しかしブランは「モビルスーツ
が出てこない」ということは、やはり

下ろした？」とその意図を見透かす。

■アムロ・レイの目を見張る戦い

アムロの腕は、昔とまったく変わらない。「ハイザック」を一撃で撃破し、雲を利用してアッシマーを翻弄する。一方、アウドムラは、無人のモビルスーツをド・ダイ改で発進させて、ブラン隊を攪乱。すべてがシャトル打ち上げのために動いていた。

地上では、発射まで5分を切ったためシャトルに百式を固定し、次はガンダムMk・IIの番だったが、カミーユは「もうひとり、宇宙にあげたいのがいるんだ。迎えに行ってくる」と、再び空へとあがった。

アムロは、ベルトーチカの複葉機をハイザックから守り、発射直前のシャトルにカッを送り届けた。援軍で出撃しようとするクワトロに、「守ってみせる。クワトロ大尉は、宇宙でやるのが山ほどあるはずだ」とアムロ。

再び舞いあがったアムロは、ド・ダイ改を落とされアッシマーに翻弄されるカミーユを援護。「カミーユ君、気合がはけているぞ、聞こえているか!」「アムロさん、



経験したことのないレベルの戦いに、カミーユはアムロとの圧倒的な実力差を感じた。



アムロとカミーユが協力しなければ倒せなかったブランのアッシマーは、かなりの難敵だった。

カッ君は？」「宇宙に帰す！」。アムロのド・ダイ改に降り立つカミーユ。戦場の勘をとり戻したアムロは、濃霧の向こうにアッシマーを感じる。「正面や下、バズーカだ……もつと下だ！」。アムロの指示通りに撃ったカミーユの散弾がアッシマーに命中。アムロは、ハイザックのランドセルだけを狙い、後退させる。まだカミーユにはできない芸当だ。逆にハイザック撃破に気をとられすぎてアッシマーにうしろをとられ、アムロに助けられる。「うしろにも目をつけるんだ！」。

ベルトーチカを回収しアウドムラは海へ。ド・ダイ改を降りたカミーユたちの戦闘も、すでに海面近くまで降下していた。カミーユに致命弾をくらったアッシマーが最後の力でガンダムMk-IIに組みつき、「死に土産をいたたくー」と、高くビーム・サーベルを振りあげた。だが、その右腕を斬り落とすアムロ。そのとき、シャトルが轟音をあげて発射した。

隙を衝いてガンダムMk-IIが飛び退いた直後、突進したアムロが海面ギリギリの高度でアッシマーにとどめを刺した。

ホンコン・シティを恐怖のどん底におとし入れた「破壊の巨人」

ガンダムMk II VS. サイコ・ガンダム

第17話
「ホンコン・シティ」～

第19話
「シンデレラ・フォウ」

ティターンズ基地を討つべく、補給を求めニューホンコンのルオ商会を頼った超大型輸送機「アウドムラ」。しかし追撃は続いていた。

■ニューホンコンに現れた圧倒的火力の巨大兵器

ヒッコリーの戦場で指揮官のブラン・フルタークを失った「スードリ」では、後任となったベン・ウッダーが日本のニュータイプ研究所、ムラサメ研究所に増援を要請。スードリの格納庫に納まらないほど巨大な可変モビルアーマー「サイコ・ガンダム」と、強化人間パイロット、フォウ・ムラサメを部隊にくわえ、アウドムラのあとを追っていた。

一方、ヒッコリーでの戦場でブランを討ちとったものの、カミーユ・ビダンとガンダムMk IIはまたも宇宙へ帰ることができず、ガルダ級大型輸送機「アウドムラ」と行動をとみにしていた。しかしそこへ、カイ・シデンからニューギニアにティターンズの基地があるという情報をもたらされる。

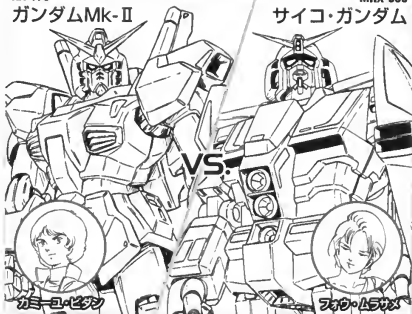
アウドムラの艦長ハヤト・コバヤシとアムロ・レイは、この基地を襲撃してシャ

RX-178

ガンダムMk-II

MRX-009

サイコ・ガンダム



トルを奪取しようと考えた。そしてルオ商会と接触して戦闘に足りない物資を補給するため、ニューホンコンへと向かう。

ニューホンコンに到着したアウドムラは、ルオ商会との交渉にアムロとベルトーチカ・イルマを派遣する。しかし、そのさなかにサイコ・ガンダムが来襲したため、アウドムラからカミーユがガンダムMk-IIで出撃する。

ところが、サイコ・ガンダムにはビーム攻撃がまったく通用せず、広範囲に発射されるメガ粒子砲によって街が容赦なく破壊されていく。

サイコ・ガンダムはさらにモビルスーツ形態へと変形すると、防戦一

方となったガンダムMk・Ⅱに詰めよって暴れ回り、街の被害は拡大の一途をたどる。

「ははは。何がモビルスーツか、何がMk・Ⅱだ。所詮人形じゃないか、あんなもの」。サイコ・ガンダムで高笑いをするフォウの言葉通り、ガンダムMk・Ⅱはまったく打つ手がなく、援護に駆けつけた2機の「ネモ」もあつさりと撃退された。

だが、それでもあきらめないカミーユは、ガンダムMk・Ⅱとともに再びサイコ・ガンダムへと斬りかかる。ビーム・サーベルの一撃は、サイコ・ガンダムの装甲をわずかに溶解させただけだったが、カミーユの放った強烈な意志の力は、強化人間であるフォウの精神に不快感を与えた。フォウはこの不快感に耐え切れず、撤退するのだった。

■ベン・ウッダーの暴走でホンコン・シティは火の海に

サイコ・ガンダムがニューホンコンに現れた翌日、ベン・ウッダーは強襲巡洋艦「アーガマ」の艦長ブライト・ノアの妻子を人質に、アウドムラの引渡しを要求。従



サイコ・ガンダムが放つ拡散メガ粒子砲が、街を次々と廃墟に変えていく。



敵として出会ったフォウとカミーユだが、互いの抱えた思いや苦しみを知り、急速に惹かれ合っていく。

わない場合は、ホンコン・シティに対して無差別攻撃を開始すると宣言した。そこでカミーユとハヤトは、アウドムラが降伏すると見せかけて油断を誘い、その隙を突いて敵モビルスーツを撃破して窮地を脱する。一方カミーユはこの騒動中に、街なかでフォウと出会うのだった。

昼間の人質騒動を受けて、ホンコン市庁からアウドムラへ当日中の退去命令が出される。12時までは今日のうちとハヤトは補給物資の搬入を続行するが、カミーユ

は無断でアウドムラを抜け出してフォウに会いにくく。

ニュータイプのカミーユと強化人間のフォウ。常人とは異なる能力をもつ者同士引き合うものがあるのか、ふたりは再会を果たし、つかの間の時間を過ごす。

そんなさなか、ホンコン市街上空にスードリが飛来して、日中の宣言通り無差別爆撃をはじめ。ベーンもまた、操縦系統を改造したサイコ・ガンダムで出撃していたが、これを見たフォウはカミーユの制止を振り切ってひとり駆け出す。そしてカミーユも

またアムロのリック・ディアスと接触し、アウドムラへと戻るのだった。

■モビルスーツを降りて命がけの説得

カミーユがアウドムラへ戻ったそのころ、サイコ・ガンダムのコクピット内では、ベンが困惑していた。突然サイコ・ガンダムが操縦を受けつけなくなり、勝手に移動をはじめたからだ。

ベンがどうにかしようと必死にあがいていたところ、サイコ・ガンダムの向かう先にフォウがいることに気づく。なんとサイコ・ガンダムは、フォウの意志により、彼女のもとへと向かっていたのである。

「わかったよ。サイコ・ガンダムは強化人間のものだってことだろう?」。フォウとサイコ・ガンダムを繋ぐシステムの存在に気づいたベンは、大人しくサイコ・ガンダムを降りると、そのままフォウにコクピットを明け渡す。

一方、アウドムラへ戻ったカミーユは、そのままガンダム Mk・II に搭乗。アムロのリック・ディアスとともに、サイコ・ガンダムのもとへ向かった。



カミーユは、サイコ・ガンダムを人気のない港湾区に誘導しつつ、コクピットのフォウを説得し続ける。



アムロに攻撃を止めさせたカミーユは、サイコ・ガンダムにとりつき、フォウを説得しようと試みる。

戦場で敵として相まみえるカミーユとフォウ。「戦っちゃいけない!」とカミーユはフォウへ呼びかけるが、カミーユの出現はフォウにさらなる悲しみを呼び起こし、彼女は感情のおもむくまま街を破壊していく。

カミーユはサイコ・ガンダムを海へと誘導するが、リック・ディアスが攻撃をくわえたことで、サイコ・ガンダムは海に落ちて動きが止まってしまふ。意を決したカミーユがコクピットから出てフォウに語りかけると、フォウもまたハッチを開き、

ふたりは顔を合わせて対話する。

しかし、フォウはなくした記憶をムラサメ研究所が戻してくれると信じており、カミーユの説得に応じない。逆に「敵になるのをやめて、私に優しくしてよ!」と言われ、返す言葉がないカミーユ。

結局、カミーユの説得も空しくフォウはサイコ・ガンダムを再起動する。

サイコ・ガンダムはシステムを止めようとしたアムロのリック・ディアスから攻撃されるが、「ハイザック」の援護を受けて撤退していくのだった。

新機体でカミーユ・ビダンを急襲するジェリド・メサ

ガンダム Mk II vs. ガブスレイ

■宇宙にあがったカミーユ・ビダンの新たな局面

超大型輸送機「アウドムラ」は、ニューホンコンからニューギニアをめざして飛び立った。カミーユ・ビダンが本来所属する、エウーゴの強襲巡洋艦「アーガマ」が一両日中、周回軌道でカミーユの帰還を待っている。そこで、ニューギニアのティターンズ基地を襲ってシャトルを奪い、カミーユを宇宙に返す作戦だ。

一方、アウドムラを追うベン・ウッターは、「サイコ・ガンダム」以外のすべてのモビルスーツを失っていた。覚悟を決めた彼は、サイコ・ガンダムが敵モビルスーツ隊を引き寄せた隙に、母艦である超大型輸送機「スードリ」で、アウドムラに突攻する作戦に出る。しかしサイコ・ガンダムのパイロット、フォウ・ムラサメは戦闘のさなか、自身の命を捨ててもカミーユ・ビダンを宇宙に返すことを決意する。彼女の命をかけた思いに送られ、カミーユは燃えるスードリから空へと飛び立った。

第21話 「ゼータの鼓動」

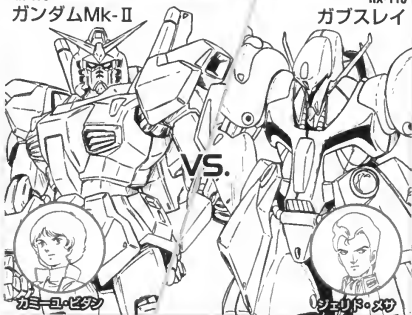
ティターンズの拠点から艦隊が動き出した。その目的を探る強襲巡洋艦「アーガマ」に、バブテマス・シロッコの部隊が襲いかかる。

RX-178

ガンダムMk-II

RX-110

ガブスレイ



カミーユを回収したアーガマは、その帰路、地球と月間での索敵活動に入った。

拠点とする衛星宇宙基地「ルナ・ツー」宙域から、ティターンズの大艦隊が発進したという情報を得たものの、艦隊の向かう先がわからない。スペース・コロニー「サイド2」、もしくは月面都市「グラナダ」、どこを狙っているのか。

アーガマのコースは、新しく編成された部隊の能力査定という名目でティターンズ本体から離れ、単独行動をとるパプテマス・シロッコの戦艦「ドゴス・ギア」の経路と交錯していた。

シロッコ隊に組み入れられたジェ

リド・メサと、彼の女性パートナー、マウアー・フアラオは、新しい可変モビルスーツ「ガブスレイ」を与えられ、訓練を終えようとしていた。

そしてシロッコはジェリドに「ブレッツシャーを感じた」として、ある空域の索敵を命じた。

■ジェリド・メサ、新機体でガンダムMk・IIを蹂躞

アーガマは、単独で接近してくる敵を不審に思いながらも、カミーユのガンダムMk・IIと、エマ・シーンの「リック・ディアス」を出す。急接近するガブスレイにエマ・シーンは身構えるが、ジェリドは「無駄だ！ 接近戦だってできるって！」と、モビルスーツ形態に変形。リック・

ディアスの頭部機銃カバールをパンチで吹き飛ばした。

すかさず高機動形態で回りこみ、「この距離ならば、当たるー」とメガ粒子砲でエマ機を破壊。「新型だからって！」と叫ぶカミーユに、「何？ この声……カミーユか!?」。ジェリドは仇敵にめぐり会えた幸運を喜ぶ。カミーユは、エマの脱出ポッドを僚機「ネモ」に託して戦闘を継続。



ガンダムMk-IIの背後をとったジェリドは、あえて仕留めず、コクピットを潰しにかかる。



パイロットとなったファの乗るモビルスーツ・キャリアと、アポリーのZガンダムが駆けつけた。

しかし、マウアー機も出撃し、戦場は混乱しはじめる。「背中を見せるのか」と、背後からガンダムMk-IIに組みつくジェリド。「なぶり殺しにしてやる」と、メガ粒子砲でガンダムMk-IIの腕を吹き飛ばす。だがそのときカブスレイに予想外の方
向からビームが命中し、ガンダムMk-IIは解放される。

「まったく違う方向から火線が走った」とマウアー。それは別働隊の新型戦闘機とモビルスーツ・キャリアだった。アポリー・ベイとファ・ユイリイが、新しく完成した可変モビルスーツ「Zガンダム」をアーガマに運んできたのだ。

解放の際、ガンダムMk-IIのリニアシートが誤動作し、カミーユはガブスレイの爆発のショックで、開いたハッチから宇宙へと放り出されてしまう。

宇宙空間に投げ出されて死を覚悟したカミーユだったが、モビルスーツ・キャリアに乗る幼馴染みのファに助けられる。

アポリーはそのまま、ウェイブライダー形態のZガンダムでジェリド機を破壊。脱出したジェリドとマウアーは後退した。

パプテマス・シロッコの黒い波動

エウーゴ部隊 VS. ドゴス・ギア部隊

第23話 「ムーン・アタック」

エウーゴとティターンズのあいだで起こった初の本格的艦隊戦は、ひとりの男の手のひらの上で踊らされたものだった。

■本格的な進行を開始したティターンズ

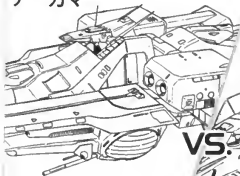
「アポロ作戦」。それは月面都市「フォン・ブラウン」を制圧し、軍事基地化して地球と宇宙の両面に睨みをきかせようと考えた、ティターンズの作戦である。

この作戦を成功させるため、ティターンズは「木星帰りの男」と呼ばれたニュータイプ、パプテマス・シロッコに新造の巨大戦艦「ドゴス・ギア」を預けその指揮をまかせた。

さらにティターンズの拠点「グリプス」から、ジャマイカン・ダニンガンが指揮する重巡洋艦「アレキサンドリア」も発進し、その艦隊戦力にくわえる。

一方のエウーゴも、このティターンズの動きを事前にキャッチしていた。エウーゴの中枢でブライト・ノア艦長が指揮する強襲巡洋艦「アーガマ」はもちろん、ヘンケン・ベツケナーが艦長を務める戦艦「ラーディッシュ」もティターンズのアポ

強襲巡洋艦
アーガマ



フイト・フ

大型戦艦
ドゴス・ギア



バテス・シロッコ

VS.

■シロッコの描いたシナリオ

ロ作戦を阻止するため、フォン・ブラウン市へと急ぐ。

こうして、エウーゴとティターンズはじめて大規模な艦隊戦を行うことになる。

アポロ作戦は開始され、ティターンズ艦隊はシロッコの指揮のもと、まずフォン・ブラウン市の周辺に威嚇射撃として、ビームの雨をあびせた。そこへアーガマとラーディッシュが到着する。

そしてカミーユ・ビダンの乗る可変モビルスーツ「Zガンダム」や、クワトロ・バジーナの「百式」をはじめとする、モビルスーツ隊を次々

と発進させる。

これに応戦すべく、ティターンズ艦隊も、迎撃のために次々とモビルスーツ隊を出撃させる。

こうして戦いは、艦砲戦から、モビルスーツ同士の接近戦へと移っていった。

だが、シロッコの指揮するドゴス・ギアだけが、モビルスーツを発進させることなく、単独でフォン・ブラウン市へと進軍。制空権でモビルスーツ隊を発進させ、フォン・ブラウン市を守備するモビルスーツ隊との戦闘に入った。

ようやく出番を迎えたジェリド・メサは、可変モビルスーツ「ガブスレイ」を発進させ、守備隊のモビルスーツを次々と撃破していく。このドゴス・ギアの突出に気づき、あとを追ったカミーユやクワトロだったが、守備隊を血祭りにあげていたジェリドが行く手に立ちふさがる。

カミーユへの復讐心から、闘志をみなぎらせて戦うジェリドは、クワトロさえ圧倒する動きを見せ、ドゴス・ギアへのモビルスーツ隊の接近を阻止した。

一方シロッコはこのジェリドの獅子奮迅の活躍に援護攻撃もせず、ドゴス・ギア



シロッコはドゴス・ギアのみモビルスーツを温存し、単艦でフォン・ブラウン市に進軍する。



まるでゲームのように戦いを進めるシロッコ。その悪意を感じたカミーユたちは戦慄を覚えた。

をひたすらに前進させる。

「ジェリドがああ2機を引きつけてくれているのは非常にありがたい、よくやってくれる」。そう言いながら、満足そうに笑みを浮かべるシロッコ。そして、ドゴス・ギアを強引にフォン・ブラウン市へ着陸させてしまう。

このシロッコの黒い波動に、戦闘中にもかかわらず、カミーユ、クワトロ、さらには味方であるジェリドでさえ、一瞬動きを止めてしまう。そしてシロッコは、フ

オン・ブラウン市を盾に、エウーゴへ停戦を要求する。この行動に、アーガマをはじめとしたエウーゴ艦隊は、なすすべもなく後退するしかなかった。

こうしてシロッコがはじめて指揮をとった作戦は、敵も味方も盤上の駒のように扱われる、不快感の残る幕引きで終わる。

「決められた役割を演ずるというのはむずかしいものだ」。その独断に怒ったジャマイカンから殴られながらもシロッコは、己のシナリオが完遂できたことに満足気だった。

残忍な野獣が仕組んだ狡猾な作戦

Zガンダム VS. ギャブラン

第25話
「コロニーが落ちる日」

第26話
「ジオンの亡霊」

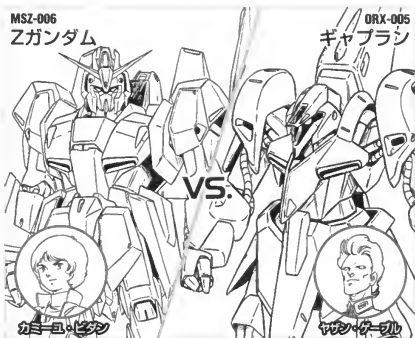
新たに最前線へと投入されたティターンズのヤザン・ゲブルは、ニュータイプをしのぐ野獣のような戦士だった。

■ニュータイプをも凌駕する脅威の戦闘力をもつ男

ティターンズの重巡洋艦「アレキサンドリア」へ、ひとりのパイロットが着任した。その男ヤザン・ゲブルは、オールドタイプであるにもかかわらず、ニュータイプと同等以上の戦闘力をもつ戦士だった。それゆえ、自分の意にそぐわなければ上官であろうと従おうとしない、野獣のような男だった。

ビーム・ライフルとシールドが兼用された可変バインダーにより、攻防に変幻自在な動きを見せる可変モビルアーマー「ギャブラン」を操るヤザン。

彼は「まだ子供の問合いだな」と、カミーユ・ビダンの乗る可変モビルスーツ「Zガンダム」をも翻弄する。だが、ギャブランは調整不足で、真下に死角をもつという弱点があった。その弱点をカミーユに衝かれ、ヤザンはあと一步まで追いつめながら、撤退を余儀なくされる。



■敵味方も関係ない野獣の真の目的

撤退中にもかかわらず、ヤザンは戦闘配備さながらの準備をしていた。この勝手な行動に怒った艦の責任者ジャマイカン・ダニンガンだったが、ヤザンの強行的な態度が手におえず出撃を許可する。出撃の許可を得たヤザンは、部下にエウーゴのモビルスーツをアレキサンドリアまで呼びこむよう指示した。

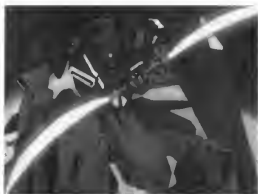
その行動を不審がる部下に対してヤザンは、「今まで、戦艦の戦力を有効に使えなかったからだ」と説明する。だが、これにはヤザンの思惑が隠されていた。

ヤザン隊の強襲に、迎撃にでたエ

マ・シーンの「ガンダム Mk・II」。ヤザン隊は攻撃を仕掛けつつも、徐々に戦線を後退させる。そして戦いは、ヤザンの計算通りアレキサンドリアを巻きこんだものとなった。ここから逆襲を開始したヤザンにエマは苦戦するが、そこへカミーユのΖガンダムが救援に駆けつける。

ヤザンの相手をカミーユにまかせ、エマはカツ・コバヤシの支援戦闘機「Gディフェンサー」とガンダム Mk・II を「スーパードガンダム」に変形合体させる。火力と機動性をアップさせたスーパードガンダムによって、ヤザン隊のモビルスーツは次々と撃破されていく。

「戦い慣れしているようだが、精神的プレッシャーは感じない。ただ強いだけだ、しかし……」。冷静にヤザンの実力を分析しながら、カミーユはビーム・ライフルによる射撃戦を続ける。だが、ほぼ同時にΖガンダムとギアブランの残弾が切れてしまう。そこでカミーユは、この戦場に流れてきた大型戦艦の残骸へと入っていく。閉鎖された空間で、ビーム・サーベル同士の斬り合いにもちこめば、パワーに勝るΖガ



残骸のゲルググから、ビーム・ナギナタを借用するヤザン。その状況判断の速さはさすがである。



動きを止めて、敵の攻撃を誘うギャプラン。腕に自信がなければ、到底不可能な行動だ。

ンダムのほうが有利だと思ったからだ。

しかし、この不利な状況でも、ヤザンは猛然と戦い、逆にZガンダムを追い詰めてしまう。だがそこへ、残骸と思われていた「ゲルググ」から、援護射撃の一撃が放たれた。この戦艦の中へ潜入していたカツが放ったものだった。

この不意の一撃で右腕を失うギャプランに、カミーユはさらに攻撃をくわえ、ビーム・サーベルでその左腕を斬り落とす。

戦闘力をそがれたギャプランは、一目散に戦闘宇宙域を離脱する。しかし、そのあとをエマのスーパーガンダムが追撃。動きを止めたギャプランに向けて、必殺のロングライフルが放たれた。その攻撃を寸前でかわすギャプラン。代わってその一撃はジャマイカンのいるアレキサンドリアの艦橋へと命中する。「ここは戦場だからな」。それを見たヤザンは、ほくそ笑む。ヤザンがアレキサンドリアを戦いに巻き込んだ理由は、邪魔なジャマイカンを始末するためだったのだ。ヤザンにとって、自分に邪魔な存在は、たとえ味方であっても許されないのである。

復讐に燃えるジェリド・メサ、怒りの猛攻

Zガンダム VS. ガブスレイ

■綿密に仕掛けられた罠

重巡洋艦「アレキサンドリア」から発進していくヤザン・ゲープル率いるモビルスーツ隊。だが、そこにはジェリド・メサとマウアー・ファラオの可変モビルスーツ「ガブスレイ」の機影はなかった。

そのころジェリドとマウアーは、アレキサンドリアの艦長ガディ・キンゼーに呼ばれ、ヤザンには内密で、ひとつの作戦を実行するよう指示されていた。

それはヤザン隊を囫にしてエウーゴのモビルスーツ隊を敵艦から引き離し、その隙にアレキサンドリア隊が砲撃。エウーゴの強襲巡洋艦「アーガマ」と戦艦「ラーディッシュ」をコロニーの残骸付近まで追いこみ、そこを潜んでいたジェリドとマウアーが叩くという作戦だった。

母艦さえ沈めれば、その動揺からカミーユ・ビダンの「Zガンダム」も落とせる

第30話 「ジェリド特攻」

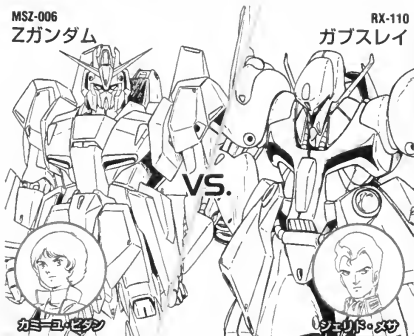
カミーユ・ビダンとの決着に闘志を燃やすジェリド・メサ。そのジェリドを守るため、マウアー・ファラオとともに戦う。

MSZ-006

Zガンダム

RX-110

ガブスレイ



とガディに言われ、ジェリドは作戦の遂行に気合を入れる。そんなジェリドに、マウアーは心配そうに言う。「ジェリド、覚えておいてね。あなたのうしろにはいつも私がいるって」。

そして、ヤザン隊の接近を知ったアーガマとラーディッシュは、順次モビルスーツを発進させていった。

比較的早い段階でヤザン隊の接近に気づいたブライト・ノアは、艦に近寄るまえに迎撃シフトをとった。だが、これはガディの迷惑通りであった。ブライトが、モビルスーツをすべて発進させたことを見届けると、ガディは別方向から艦隊を侵入させ、一斉射撃を行う。

この予想外の動きに翻弄されたブライトは、態勢を整えるべく、近くにあるコロニーの残骸へと身を隠すべく進んだ。それがガディの作戦だと気づかないままに。そしてこの好機に、今まで身を潜めていた2機のガブスレイが動き出した。

■限界を超えて戦うジェリド・メサ

ガブスレイの奇襲によって、直撃を受けたアーガマ。だが、この危機にカミーユが駆けつけた。

すぐにアーガマの護衛にまわったカミーユだったが、いつも以上の気迫でせまるジェリドに押されるように引き離されてしまう。

一方、カミーユの隙をついたジェリドも、ビーム・ライフル同士がぶつかった衝撃で、ガブスレイのコントロールを失ってしまふ。そこへ容赦ないカミーユの二射目が発射される。もはやこれまでかと思つたジェリドが見たものは、自分の身代わりとなつて被弾したマウアーのガブスレイだった。

「守ってみせるつていつたろ、ジェリド……」。そう言つて、火球となるマウアーのガ



暗礁宙域で、ひたすらアーガマがくるのを待つふたり。作戦は成功するかに思えた。



一心不乱に攻撃を仕掛けるジェリドのガブスレイ。
その猛攻は、またしてもカミーユに阻まれる。

ブスレイ。「なんで、おまえはいつも!」。またひとり大事な人を失って、ジェリドは激昂のあまり、不用意にZガンダムへと斬りかかった。だがカミーユは、ビーム・ライフルで冷静にガブスレイの脚部を狙い、その衝撃で再びコントロールを失ったガブスレイは何処かへと飛ばされてしまう。

そして、現実とも涅槃^{ねはん}とも思える空間で、ジェリドは死んだはずのマウアーの声を聞く。「生きのびること、戦うこと、あなたにとって今はそれが正しい」。

そのマウアーの言葉に力をもらったかのごとく、ジェリドは再び闘志をみなぎらせる。その勢いはすでに並みのパイロットでは止めることができず、ジェリドは護衛に戻ってきたモビルスーツ隊を次々とけちらし、一心不乱にアーガマをめざす。だが、その勢いは、ロウソクの最後の灯火だった。ジェリドの執念を撃ち砕くように、またしてもカミーユのビーム・ライフルがガブスレイをとらえる。

吹き飛ばされたガブスレイのコクピットで、マウアーの名を呼ぶジェリドの叫びが、ただむなしく宇宙にこだまするのだった。

再び繰り返される悲劇

Zガンダム VS. サイコ・ガンダム

第35話
「キリマンジャロの嵐」

第36話
「永遠のフォウ」

地球へと降下したカミーユ・ビタンは待っていたのは、死んだと思っていたフォウ・ムラサメだった。

■カミーユ・ビタンは再び「破壊の巨人」を目撃する

ティターンズの地球最大の拠点基地「キリマンジャロ」。このキリマンジャロ攻略作戦を開始したエウーゴの地上支援組織カラバのサポートをするため、強襲巡洋艦「アーガマ」は、衛星軌道上からミサイル攻撃をすることになった。

だが、この支援行動を妨害するべく、ヤザン・ゲールは新たな乗機である可変モビルスーツ「ハンブラビ」で、アーガマへと攻撃を仕掛ける。

この戦いのなか、ハンブラビの新装備、海へビの発生する電気ショックをくらったクワトロ・バジーナの「百式」は、制御不能に陥り、地球の重力に引かれてしまう。「打ち所が悪いとこんなものか、意外と早いものだな……」。無防備に大気圏へと落ちながら、クワトロはあきらめともとれる言葉を、自嘲気味にもらす。

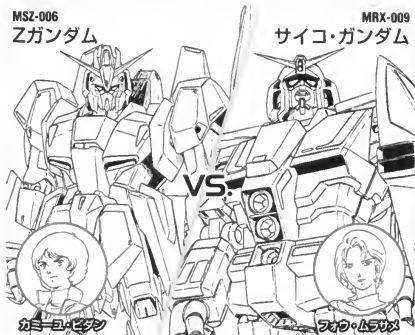
その百式を救うべく、カミーユ・ビタンは「Zガンダム」を大気圏突入可能なウ

MSZ-006

Zガンダム

MRX-009

サイコ・ガンダム



エイブライダー形態へと変形させた。そして制御不能の百式を搭載して、ウェイブライダーをそのまま地球へと降下させる。

キリマンジャロの戦場へと到着したカミーユは、思いがけない機体を見て、激しく動揺した。その機体、可変モビルアーマー「サイコ・ガンダム」は、かつての戦いで、カミーユの思い人であるフョウ・ムラサメが搭乗したものだっただからだ。

サイコ・ガンダムの姿を見てカミーユは、死んだと思っていたフョウが生きているという、ニュータイプの直感とも、ただの願望ともいえるほのかな期待を胸にいだいた。

そして、キリマンジャロ基地内へ

クワトロとともに潜入したカミーユは、ついに生きていたフォウとの再会をはたす。だが、フォウは以前にも増して精神を強化されていた。

カミーユがどんなに必死に語りかけても、その言葉はフォウの耳に届かない。

カミーユの説得もむなしく、サイコ・ガンダムに乗りこんでしまうフォウ。まるで小型要塞のように乱射されるビーム砲の前に、カラバの指揮をとっていたアムロ・レイは、態勢を整えるために、全軍をキリマンジャロ基地から撤退させるのだった。

カミーユとフォウのいきさつを知るアムロは、「あなたにはわかっていないはずだ、もう一度同じことを繰り返させるつもりなのか？」と、クワトロⅡシャア・アズナブルに非難めいた言葉をあびせる。

カミーユは、再会でできた喜びもつかの間、再びフォウと戦うことに涙した。

■束の間の安らぎ

カラバの総攻撃がはじまるまえに、フォウを救出しようと考えたカミーユは、無



アムロとシャアであっても苦戦するサイコ・ガンダム。その戦闘力の高さがわかるというものだ。



お互いに惹かれ合うカミーユとフォウ。戦いがなければ、こんな風に幸せだったのかもしれない。

謀にも単身でキラマンジャロ基地内に潜入する。そこでカミーユは、戦闘から解放され正気をとり戻したフォウと再会をはたした。以前のように、明るく年相応の顔を見せるフォウ。

しかし、安らぎの時は長くは続かなかった。突然の頭痛に襲われたフォウに薬を与えようと私室を出たカミーユの前に、怪我の治療のため地上に降りていたジェリド・メサが現れる。執拗なジェリドの追跡から逃れて、なんとか基地の外へと脱出したカミーユとフォウであったが、そこへカラバの

キラマンジャロ攻撃が再開された。

そして、この戦闘が始まったことで、フォウに異変が起こる。またしてもカミーユのことを忘れ、強化人間本来の姿ともいえる戦闘マシンのようになってしまったのだ。そんなフォウに対して、懸命な説得を試みるカミーユだが、その言葉はもはや届かない。フォウはサイコ・ガンダムを呼び出すと、そのコクピットへと乗りこんでしまった。

ほどなく、Zガンダムを運んできたクワトロに、カミーユは戦いに参加するようお願いされる。

「戦いのなかで人を救う方法もあるはずだ、それを探せ!」というクワトロに、「あるわけないだろう!」と毒づくカミーユ。だが、ほかに方法があるわけもなく、カミーユはフォウを助けだすために、Zガンダムに乗りこんだ。

■繰り返される悲劇

まるでフォウの苦しみを吐き出すかのように、サイコ・ガンダムはビームを乱射する。そのビームの雨をくぐりぬけながら、カミーユはフォウに対して必死に説得を続けていた。

だがそこへ、開発段階の試作モビルスーツ「バイアラン」に乗りこんだジェリドが、カミーユを狙って攻撃を仕掛けてくる。こうして激しい戦いが続くなか、カラバの突撃部隊がキリマンジャロ基地へと潜入、内部での破壊工作を成功させ、大きな爆発が起こった。

この爆発のショックなのか、それともカミーユの必死の説得が届いたのか、ついにフォウが正気を取り戻す。それに気づいたカミーユはすぐさま、フォウにサイコ・



カミーユをかばって、ビーム・サーベルを受けるサイコ・ガンダム。悲劇は繰り返された。



フォウの死がカミーユを変え、クワトロにシャアとしてダカールに立つことを決意させた。

ガンダムのコクピットから降りるよう指示する。

しかし、この隙を狙っていたかのごとく、ジェリドの乗ったバイアランのビーム・サーベルが、Zガンダムをとらえていた。そのZガンダムを救うため、盾となるサイコ・ガンダム。そしてバイアランのビーム・サーベルは、まるで吸い込まれるようにサイコ・ガンダムをつらぬく。

フォウはカミーユの目の前で散った……。

いまだ爆発のやまぬキリマンジャロで、フォウの亡きがらにすぎるように、ただ泣きじゃくるカミーユ。それを見ながらアムロとクワトロは、7年まえに自分たちに起こった悲劇を思いだしていた。

またしても止めることのできなかつた悲劇を前にして、「人は同じ過ちを繰り返す」と吐き捨てるように言うアムロ。「同じか……」とつぶやくクワトロ。ふたりはただ、自分たちの無力さを呪うしかなかった。

今のふたりにできることは、泣き続けるカミーユを連れて帰ることだけだった。

レコア・ロンドの悲しき選択

Zガンダム／百式 VS. メッサーラ

第40話
「グリプス始動」

第41話
「目覚め」

戦死したと思われていたレコア・ロンドは、ティターンズの兵士として戻ってきた。その事実、カミーユ・ビダンに知られる。

■レコア・ロンドの思いがけない再会

動きだしたティターンズの拠点スペース・コロニー「グリプス2」を、コロニーレーザーだと考えたエウーゴは、強襲巡洋艦「アーガマ」に偵察任務を与えた。

アーガマから偵察のため発進したカミーユ・ビダンの「Zガンダム」は、グリプス2に接近する途中、可変モビルアーマー「メッサーラ」と遭遇する。それを見たカミーユは、以前、知りあった敵パイロットのサラ・ザビアロフだと思いこみ、戦闘中にもかかわらず言葉をかけた。そして、カミーユはビーム・サーベルでメッサーラの左腕を斬り落とし、宇宙空間にただよう残骸へとたたきつける。

すると、動きを止めたメッサーラのコクピットが開き、中からひとりの女性パイロットが降りてきた。

その姿を見たカミーユは、驚愕の表情を見せる。なんとそれは、以前の戦いで死

MSZ-006

Zガンダム



カミー・ビデ

MSN-100

百式



クワトロ・バニーヤ

VS.

PMX-000

メッサーラ



レオ・ランド

んだと思っていたアーガマのクルー、レコア・ランドだったからだ。思いがけない再会に、カミーユは動揺しながらも、レコアの行動に自分なりの理由をつけて納得しようとする。だがレコアは、そんなカミーユの優しさを拒絶して、自分がティターンズの一員として、敵になったことを宣言した。

そんなレコアを涙ながらに説得するカミーユ。「残酷なくらい優しい子なのね」と、レコアはその気もちに心を揺り動かされながらも、カミーユにグリプス2がコロニーレーザーだと教えてティターンズへ帰ってしまう。

そのうしろ姿を見ながら、カミー

ユはレコアを再び失ってしまった喪失感に、ただその名を叫ぶしかなかった。

■かつての仲間たちとの決別

ティターンズ入りをはたしたレコアの忠誠心を試すため、バスク・オムは、スペース・コロニーに毒ガス「G3」を流しこむ非道な作戦を命令する。

作戦を開始したレコアは、メッサラのメガ粒子砲で守備隊のモビルスーツを次々と撃破し、順調に毒ガス注入の準備を整えてしまう。

最後まで、アーガマが妨害にきてくれることを祈っていたレコアだったが、その望みはかなうことなく、毒ガスはコロニーへと流れこみ、多くの住民の命が奪われた。そこへようやくアーガマのモビルスーツ隊が到着。「遅い、遅かったわ、アンタたち」。そうつぶやくレコア。

G3のコンテナを見てカミーユは非道な作戦が行われたことを知り、怒りの表情を見せた。そして、そこにレコアがいたことを知り、怒りにまかせてZガンダムはハイパー・メガ・ランチヤーをビーム・サーベルに変えて斬りかかる。



サラだと思い、言葉をかけるカミーユ。だが、レコアの登場にカミーユの心は激しく揺れる。



アーガマへの決別のため、悪びれた態度をとるレコア。彼女なりの最後の思いやりなのだろう。

一方のレコアも、自分のやるせない気持ちを、遅すぎたアーガマ隊へと責任転嫁して戦う。そして「死んだら許すも許さないもないだろ、坊や」と、悪びれた言葉をカミーユに投げかける。レコアは、己の迷いを振り切るように、ビーム・サーベルでZガンダムに応戦した。

そんなレコアの前に、今度はクワトロ・バジーナの「百式」が現れる。「せめて私の手で、その業をはらわせてもらおう!」。そう言ってビーム・ライフルを連射するクワトロ。それをかわしながらレコアも「世界が自分を中心に動くと思うなシヤア!」と反撃を開始する。だが、正確なはずのクワトロの射撃は、レコアにかすりもしない。

「私に、ためらいがあるのか?」というクワトロに、「私がアナタを倒すのだよ、シヤア!」と、レコアは完全に敵として言葉を吐く。

こうして作戦終了したレコアのメッサーラは撤退していった。主義主張ではなく、ひとりの女として生きることを決めたレコア。それは悲しい選択だった。

断ち切れない因縁に導かれて戦うふたりの戦士

Zガンダム VS. バイアラン

第44話
「ゼダンの門」

第45話
「天から来るもの」

いかなる戦いの場においても、カミーユ・ビダンをひたすら狙うジェリド・メサ。そして因縁の戦いは、またひとり犠牲者を生んだ。

■カミーユ・ビダンをひたすら追い求めるジェリド・メサ

ジオン公国軍の残党組織アクシズと、打倒エウーゴのためにかりそめの同盟を結んだティターンズだったが、本来相容れぬもの同士、ついに袂を分かつときがやってきた。その結果、アクシズの旗艦である大型戦艦「グワタン」を撃沈させるため、ティターンズのモビルスーツ部隊がせまる。

この部隊を指揮するのは、ティターンズ最高司令官ジャミトフ・ハイマンの側近となつたジェリド・メサの「バイアラン」だった。「邪魔だ!」と言いながら、ジェリドはグワダンの護衛である可変モビルスーツ「ガザC」をビーム・サーベルで斬りきくと、艦の懷に飛びこむ。この行動にグワタンで指揮をとっていたアクシズの実質的指導者ハマーン・カーンは、ブレッツシャーを覚えた。

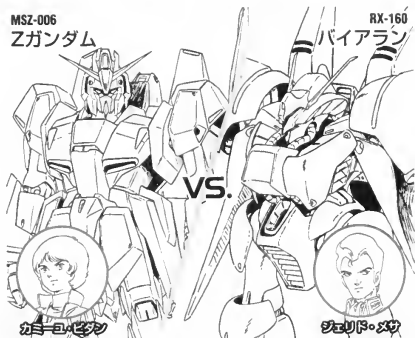
だがそこへ、新たにアクシズと同盟を結んだエウーゴのモビルスーツ隊が護衛に

MSZ-006

Zガンダム

RX-160

バイアラン



駆けつける。そのモビルスーツのなかに、因縁の相手であるカミーユ・ビダンの「Zガンダム」を見つけたジェリドは、これまでの決着をつけようと攻撃を仕掛ける。カミーユもまた、ジェリドの存在を感じて、これを迎えうつ。

だが、指揮官として戦場に立ったジェリドは、いつものようにカミーユに固執するだけではなかった。本来の標的であるグワダンの動きを止めるべく、攻撃をくわえることを忘れない。そのうえで、カミーユへもビーム・サーベルで攻撃するジェリド。そして、トラバールにより動きを止めてしまったカミーユに気づいたジェリドは、ついにZガンダムをメ

ガ粒子砲の照準にとらえた。

しかし、カミーユはこの危機を、寸前で飛びこんできたカツ・コバヤシの可変モビルスーツ「メタス」に救われる。メタスの攻撃でバーニアに被弾したジェリドは、やむを得ず全軍に撤退を指示した。

■断ち切れない因縁の鎖

アクシズは、ティターンズへの報復として、その最大の拠点「ゼタンの門」（元宇宙要塞ア・バオア・クー）に、自分たちの拠点である小惑星基地「アクシズ」をぶつけるといふ作戦を敢行した。ティターンズ全艦隊は必死に脱出準備を整える。

この脱出を阻止して、ティターンズ艦隊の数をそごうと、エウーゴも艦隊を投入した一大作戦にでた。「どこからでも来い！ 近づくヤツはみんな灰にしてやる！」と言いつつ、ティターンズ艦隊の脱出ルートを確保するため、ジェリドはエウーゴ艦隊相手に八面六臂の働きを見せる。だが、宿敵カミーユの気配を感じたジェリドは、今度こそ因縁の戦いに終止符を打つべく、その場所へと向かった。



本来は地上用のバイアランを、宇宙でも使用したジェリド。基本スペックの高さゆえだろう。



ビーム・サーベルで激闘を繰り広げるZガンダムとバイアラン。だが、決着はここでもつかなかった。

カミーユを執拗に狙うジェリドに対し、ファ・ユイリイのメタスが必死にしがみつ়く。しかし、それは無謀な行動であった。「そんなに落とされたいのか!」と、メタスをふりほどき、かまえるジェリドのバイアラン。

そのファを助けようと、今度はアポリー・ベイの「リック・ディアス」が、バイアランの前へと出る。だが、それを照準にとらえたバイアランのメガ粒子砲は、リック・ディアスを火球へと変えた。その光景を見て、激昂するカミーユに「これが戦争だろうが!」というジェリド。そう、こうしてふたりがお互いの大切な人たちの命を奪っていくのも、戦争ゆえの悲劇なのだ。

怒りにふるえるカミーユに反応するかのよう、Zガンダムのビーム・サーベルがさらなる威力を発揮した。その変化に驚きながらも、ジェリドはこの場を引き下がない。どちらかが倒れるまで終わらないかに見えたふたりの戦いだったが、アクシズがゼダンの門に衝突したことで起こった隕石雨と、クワトロ・バジーナの「百式」の援護が、ふたりの戦いに幕を下ろした。

卓越したニュータイプ同士のハイレベルな戦い

キユベレイ VS. ジ・O

■偽りの会談が歴史を動かす

アクシズの旗艦である大型戦艦「グワダン」で、アクシズの摂政ハマーン・カーンは、ティターンズのなかで独自の動きを見せるバプテマス・シロッコと会談をもつことを決める。

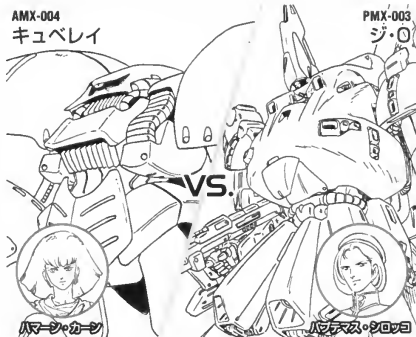
そのことを知ったティターンズ総帥ジャミトフ・ハイマンも、その会談に参加するべく、グワダンへと向かう。

さらには、そんな会談が行われることを知らないエウーゴのクワトロ・バジーナもグワダンに乗りこんでいた。こうしてハマーンの計略によって、各組織のトップがグワダンに集められ、偽りの会談がはじまった。

会談は当然のことながらうまくいくわけもなく、シロッコがハマーンを暗殺しようとしたそのとき、飛びこんできたクワトロの拳銃の弾が、シロッコの右腕に命中

第46話 「シロッコ立つ」

ついに動き出したバプテマス・シロッコが、ハマーン・カーンとの勝負にでる。それは、三つ巴の最終決戦の幕開けでもあった。



する。その次の瞬間、格納庫に待機していたサラ・ザビアロフはシロッコの危機を察知、搭乗していた「ポリノーク・サマーン」のビーム砲を会談場へと発射した。これにより会談は強制的に終了となる。

混乱した会談場に残った、シロッコとジャミトフのふたり。この好機に、その本性を表したシロッコは、ジャミトフを射殺してしまう。

その後、「ジ・O」で、グワダンを脱出したシロッコは、全ティターンズ艦隊に対して、ジャミトフが暗殺されたことを伝え、それがハマーンの仕業だと伝える。そしてジャミトフの弔い合戦として、グワダンへの攻撃を指示するのだった。

■常人の能力をはるかに超える精神戦

グワダンの艦外で待機していたレコア・ロンドの「プラス・アテネ」と合流したシロッコは、「狙いはキュベレイ機だ!」と、護衛のいないハマーンの「キュベレイ」を、サラとレコアで包囲した。だが突然、予想外の方向からビームが飛んでくる。キュベレイのほこるサイコミュ兵器、ファンネルだ。

ファンネルの動きに対応できないサラとレコア。だが、シロッコは違った。神経を集中させ、「見えた!」とファンネルの動きを自身のニュータイプ能力で読みきり、ジ・Oのビーム・ライフルで次々と撃ち落としていく。

「シロッコ、奴がこれほどの男とは!」。ハマーンは、今度はニュータイプ能力によるブレッツシャーともいふべき精神攻撃でシロッコを直接狙う。しかし、シロッコも「なんというブレッツシャーだ」と言いつつ、同じ精神攻撃で応戦する。こうして戦いはモビルスーツ戦ではなく、ニュータイプならではの精神戦へと移っていった。

はたから見れば、まったく動きが止まってしまったかに思えるジ・Oとキュベレ



かつてのアムロのようにファンネルを次々と撃墜するシロッコ。その技量の高さがうかがえる。



まるで超能力者のように戦うシロツコとハマーン。
卓越したニュータイプならではの戦いである。

イ。この隙だらけの状態に気づいたカツ・コバヤシが、支援戦闘機「Gディフェンサー」でシロツコのジ・Oを狙う。だが、彼の放ったロング・ライフルの一撃は、シロツコを守ろうと盾となったサラのポリノーク・サマーンを直撃した。

「サラ、そんな……」。目の前で爆発するポリノーク・サマーンを見て、カツは自分の手でサラを殺したことに驚愕する。カツはサラと何度か戦いのなかで出会い、敵ではあるが好意をもっていたのだ。「貴様か、サラをまどわせたのは！」。シロツコは、

普段は見せない憤怒の表情でカツに照準を向けた。

しかし、そこにサラの残留思念が現れ、カツを許すようにシロツコに言う。そうサラに言われても、怒りが収まらないシロツコ。そこへカミーユ・ビダンの「Zガンダム」をはじめ、エウーゴのモビルスーツが次々と駆けつける。

そしていつもの冷静さをとり戻したシロツコは、レコアをともなつて戦場をあとするのだった。

この顛末を傍観していたハマーンが嘲笑する。「私が出なくとも勝手につぶし合ってくれそうだな」と、つぶやきながら静かに戦場を去っていった。

戦いを生む女神に立ち向かうニュータイプ戦士

Zガンダム VS. キュベレイ

第47話 「宇宙の渦」

アクシズの摂政ハマーン・カーンを倒し、戦争を終結させようとするカミーユ・ビダン。だが、ふたりのあいだに共通が起こる。

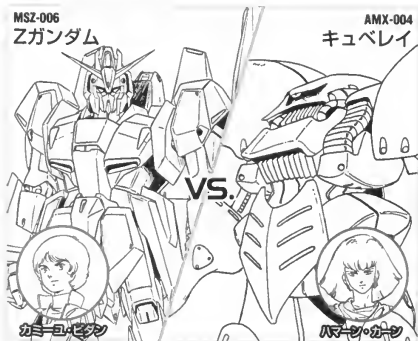
■ いにしれぬプレッシャーの正体

アクシズに占拠された、コロニーレーザー「グリプス2」を奪取するべく、エウゴは「メールシュトローム作戦」を実行する。

メールシュトローム作戦とは、渦巻状にグリプス2を包囲して、コロニーレーザーの使用を困難にさせようというものであった。戦力的にはアクシズ側が絶対有利だったが、手練の多いエウゴの動きに苦戦してしまう。

部下の不甲斐ない戦いにしびれを切らしたアクシズの摂政ハマーン・カーンは、自ら「キュベレイ」の発進準備を命令して、ブリッジから飛び出した。

だが、そのハマーンの前に、ザビ家唯一の生き残りであり、アクシズの象徴的指導者ミネバ・ザビが現れる。驚くハマーンに、ミネバはいにしれぬプレッシャーを感じていることを伝える。そしてそれはハマーンも感じていたものだった。



誰かの視線を感じながら発進したハマーンを一闪のビームが襲う。カミーユ・ビダンの「Zガンダム」のものであった。カミーユこそがハマーンとミネバにプレッシャーを与えていたものの正体だったのだ。

■ わかりあえるはずだったふたり

今回の作戦のカミーユの目的は、キュベレイを撃墜することだった。

そのためZガンダムは本隊から離れ、ハマーンの近くに潜伏していた。「ハマーン・カーン、おまえは戦いの意思を生む源だ！ 生かしてはおけない！」。ビーム・ライフルを連射しながら、カミーユはキュベレイに襲いかかる。

ハマーンはZガンダムの登場に驚きながらも、キ
ュベレイの最大の武器であるファンネルを射出する。

オールレンジ攻撃と呼ばれる全方位からのビーム
の雨をよけられるのは、人並み外れたニュータイプ
だけだ。この攻撃に、カミーユは果敢にも接近を試
み、互いにビーム・サーベルで斬り合える間合いま
で近づいた。そして次の瞬間、カミーユとハマーン
のあいだに不思議な現象が起こる。

コクピットにいたはずのふたりは、現実とは思え
ない空間で生身の姿でたどっていた。そしてふた
りはお互いの姿に、心許せるものたちの姿を重ね合
わせていく。これがニュータイプの共振といわれる現象である。

この現象を通じて、人はわかりあえると感じるカミーユだったが、逆にハマーン
は自分の心をのぞかれたことに怒りの表情を見せた。「貴様はたしかに優れた資質を
もっているらしいが、無礼を許すわけにいかない!」。そういつてハマーンはビー
ム・サーベルでZガンダムに斬りかかる。その猛攻にカミーユは、防戦一方になる。
そこへ援護としてカツ・コバヤシの支援戦闘機「Gディフェンサー」と、ファ・



ファンネルとは、「一年戦争」時に開発されたモビル
アーマー「エルメス」のビットが発展したものだ。



聞こえてきた声に反応し、とどめをさせなかったカミーユ。この行動で歴史は大きく変わった。

ユイリイの「メタス」がやってきた。だが並みの機体では、キュベレイにかなうはずもなく、2機は返り討ちにあう。その光景を見たカミーユの表情が、先ほどまでの穏やかなものから怒りに満ちたものへと変わった。「ハマーン・カーン、わかった！ おまえは生きていてはいけない人間なんだ！」。

そう言うときカミーユは、ビーム・サーベルを投げつけて牽制。対キュベレイ用に腕部のグレネード・ランチャーを改造したワイヤーを使って、キュベレイの動きを止め、ビーム・サーベルで斬りかかる。

その瞬間であった。「人はわかりあえるんでしょ」。その声にカミーユの決心がにぶる。

そして振りあげられたビーム・サーベルはキュベレイに直撃することなく、その左肩を斬りさくにとどまった。

このまま戦いを続けることを無意味だと判断したハマーンは、態勢を整えるべく全軍を撤退させた。

戦いが終わり、自室で今後のビジョンを考えていたハマーンはひとつの結論を出す。「倒すべき敵はカミーユ・ビダン、そういうことか……」。

野獣の機体を斬りさくZガンダム、真の力

Zガンダム VS. ハンブラビ

■多くの命が消えていく戦場で

コロニーレーザー「グリブス2」をめぐって、三つ巴の戦いはじまった。グリブス2を死守しようとするエウーゴと、それを奪い返そうとするティターンズ、そしてアクシズの3つの勢力の争いである。しかし、ただひとり、この戦いを楽しむ男がいた。可変モビルスーツ「ハンブラビ」を駆るヤザン・ゲーブルである。

ただひたすら、目の前の敵を倒すことに喜びを感じるヤザンにとって、この戦場こそ、自らの存在意義を確かめることができる場所なのだ。

すでに腹心の部下であったダンケル・クーパーとラムサス・ハサはエマ・シーンの「ガンダム Mk・II」に撃墜されていたが、ヤザンもその戦場でカツ・コバヤシの支援戦闘機「Gディフェンサー」を撃墜。さらにエマをかばったヘンケン・ベツケナーが艦長を務める戦艦「ラーディッシュ」を撃沈させる。ひたすら獲物を追い

第49話 「生命散って」

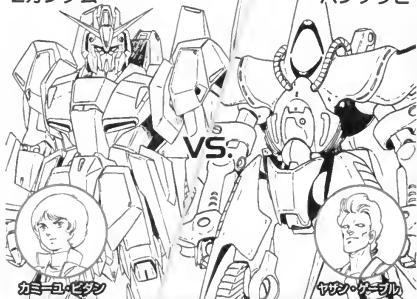
ついにはじまった三つ巴の最終決戦。カミーユ・ビダンとヤザン・ゲーブルは、異なる思いを抱きながら最後の戦いのぞんだ。

MSZ-006

Zガンダム

RX-139

ハンブラビ



求める野獣のように、ヤザンは戦場を駆ける。

一方、「Zガンダム」を駆るカミーユ・ビタンも、因縁深きジェリド・メサの乗った可変モビルアーマー「バウンド・ドック」を撃墜する。「カミーユ、貴様は俺の……」という断末魔を残して、あれほど執拗だったジェリドはあっけなく宇宙に散った。だが、カミーユは何の感慨もなく、ただ人が次々に死んでいくこの戦場に息苦しさを感じる。

そう、真空である宇宙空間で、ヘルメットのバイザーを開けてしまうほどに……。

この戦場に対し、異なる思いをもつふたりの戦士の激突は、もはやさ

けられなかった。

■カミーユ・ビダンの怒りの心にシンクロしたバイオセンサー

レコア・ロンドの「パラス・アテネ」と戦うΖガンダムを発見したヤザンは、正面からの陽動をレコアにさせて、背後からカミーユを襲った。

その特殊武器、海へびの電気ショックにより、苦しむカミーユ。

そこへ急ごしらえの整備を受けた、エマのガンダム Mk・II が駆けつける。エマの指示でパラス・アテネをまかせ、カミーユはハンブラビと戦う。

そして、そこでレコアとの決着をつけたエマだったが、ふいにコクピットから飛び出してしまふ。そこへ発射されるハンブラビのビーム砲。エマはその衝撃で飛び散った残骸にぶつかり、宇宙空間へと跳ねとばされてしまふ。

それを見たカミーユが、ヤザンに対して「貴様、人が死んだんだぞ！ いっぱい人が死んだんだぞ！」と叫ぶ。そんなカミーユに、ヤザンはビームを乱射しながら「おまえもその仲間に入れてやろうってんだよ！」と答える。



最終決戦で、カツ、ヘンケン、エマと、次々にその毒牙にかけていくヤザンのハンブラビ。



真紅のオーラに包まれたZガンダム。その能力はマッシュのスペックをはるかに超えたものだった。

ヤザンのその言葉を聞いたカミーユが「遊びでやってんじゃないんだよ!」と叫んだ次の瞬間、その怒りの心にシンクロするかのように、Zガンダムの周囲を真紅のオーラのようなものがまとった。これこそがZガンダムに極秘に搭載されていたバイオセンサーによって発動した、ニュータイプの真の力である。

ハンブラビの放つビーム・ライフルを、まるでバリアーのように、すべてはじき返すZガンダム。それを見たヤザンは、野獣の本能ともいべき直感にしたがい、この場を逃げだす。

しかし、これまでのヤザンの行動を許せないカミーユは、「貴様のような奴はクズだ! 生きていちゃ、いけないような奴なんだ!」と、ハンブラビを追いかける。

そしてZガンダムの機体と同じように真紅に輝くビーム・サーベルを、まるでムチのように伸ばし、ハンブラビを真つぷたつに斬りさいてしまふ。

こうしてヤザンとの決着をつけたカミーユだったが、戦いで消えていった命が戻ることはないことを、痛いほど理解していた。

己の存在意義をかけた女たちの戦い

ガンダムMk II vs. パラス・アテネ

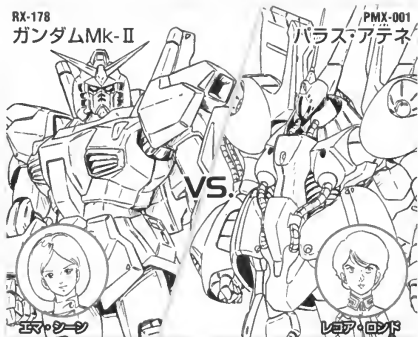
第49話 「生命散って」

三つ巴の戦いが激化するなか、エマ・シーンとレコア・ロンドは互いの信じるもののために女として戦い、悲劇的な結末を迎える。

■数々の死を目の当たりにし、混乱するエマ・シーン

コロニー・レーザー「グリプス2」の周辺で繰り広げられる最終決戦に、エマ・シーンは「ガンダムMk II」で出撃。カツ・コバヤシの支援戦闘機「Gディフェンサー」とともに、ヤザン・ゲール率いる可変モビルスーツ「ハンブラビ」部隊の襲撃を受け、交戦状態となる。

この戦いで、Gディフェンサーと合体したガンダムMk IIは、ラムサス・ハサとダンケル・クーバーのハンブラビを撃破する戦果をあげた。しかし、戦場から離脱することを拒んだカツが戦死。ヤザンの猛攻にさらされたガンダムMk IIのエマを救おうとした戦艦「ラーディッシュ」も撃沈され、艦長のヘンケン・ベツケナーとクルーたちが散っていく。目の前でもとに戦ってきた仲間や大切な人を立て続けに失ったエマは、激しい怒りと悲しみを募らせていくのだった。



■ 独白対決の末に

混迷を深める最終決戦は熾烈を極め、資源探掘大型艦「ジュピトリス」からはバブテマス・シロッコとレコア・ロンドが「ジ・O」と「バラス・アテネ」で出撃。レコアは決戦の地で「Zガンダム」に乗ったカミーユと再会する。

かつての仲間を前にカミーユは攻撃をためらうが、エウーゴを裏切つてまでシロッコに賭けたレコアに迷いはない。駆けつけたヤザン・ゲールのハンブラビが、特殊武器、海ヘビでZガンダムの動きを封じたのを見たレコアは、一撃でZガンダムをしとめようと狙いを定めた。

レコアのバラス・アテネがZガンダムを撃ち抜こうとした瞬間、突如として右腕のビーム・ガンが吹き飛ばされる。思わぬ攻撃に驚き振り返ったレコアが目にしたのは、応急修理を終えただけの状態で駆けつけた、エマのガンダム Mk・II だった。

カミーユのためらいを見てとったエマは、ヤザンのハンブラビを追うように指示を出すと、レコアのバラス・アテネと対峙。

かつてティターンズにしながらエウーゴへ身を投じたエマと、エウーゴにしながらティターンズへ走ったレコアによる女同士の戦いがはじまった。

応急修理をしたとはいえ、ガンダム Mk・II の左腕はハンブラビに破壊されたままで直接シールドがとり付けられており、また背面のバーニアも損傷しているため、サブ・フライト・システムの「シヤクルズ」に頼らざるをえないありさま。

そんな状況下で戦いながら、エマはレコアにカツやヘンケンの戦死を告げると、最後の説得を試みる。「あなたが死んでも誰も泣いてくれないんじゃない？ それでいいの？」と訴えかけるエマに対し、レコアは「誰もいなくていい。それが私の選



カツの死を伝えることで、レコアを説得しようとするエマ。だが、その言葉はレコアに届かない。



もはやわかり合うことは不可能。譲れない思いを胸に抱き、エマとレコアは対決する。

んだ道よ！」と突っぱねる。なおも説得を続けるエマに、レコアはバラス・アテネのハンド・キャソンを撃ちこみシャクルズを破壊する。それでも説得を重ねるエマだったが、レコアの決意は固く戦意が衰える様子はなかった。

エマはついに説得を断念。ビーム・ライフルの銃口をバラス・アテネに向けるが、バラス・アテネはビームをかいぐつてガンダムMk-IIに肉薄。ビーム・サーベルを振りかぶるバラス・アテネに対し、同じくビーム・サーベルを突き出すガンダムMk-II。相打ちかに見えた勝負だったが、ガンダムMk-IIの突きがわずかに早くバラス・アテネのコクピットを貫いていた。

「男たちは戦いばかりで、女を道具に使うことしか思いつかない。もしくは、女を辱めることしか知らないのよ!」。レコアの散り際の告白に動揺したエマは、思わずレコアを助けようとコクピットから外へ出る。そこへハンブラビからの射撃で爆発したバラス・アテネの残骸が直撃し、エマは致命傷を負う。エマとレコア、信じるもののために戦ったふたりの女の結末は、ともに死という悲劇的なものとなった。

漆黒の宇宙で火花を散らす黄金と純白の機体

百式 VS. キュベレイ

■ふたりから狙われるクワトロ・バジーナ

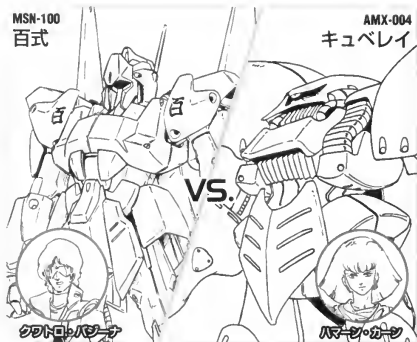
コロニー・レーザー「グリプス2」の攻防戦でクワトロ・バジーナは、己が倒さなければならぬ最大の敵をアクシズのハマーン・カーンだと考えていた。クワトロの愛機である黄金の「百式」が、まるで漆黒の宇宙を照らす光のごとく、地獄の戦場を駆ける。

一方のハマーンもまた、クワトロⅡシヤア・アズナブルとの過去の因縁に決着をつけるべく、花嫁のウェディングドレスのように純白の「キュベレイ」で出撃した。ハマーンは、まずバプテマス・シロッコの「ジ・O」と対峙するが、そこへひとすじの閃光が輝く。百式専用の武器、メガ・バズーカ・ランチャーだ。この攻撃でアクシズの可変モビルスーツ「ガザC」部隊は、ほとんど撃破されてしまう。

続けて攻撃を仕掛けようとしたクワトロだったが、キュベレイのファンネルが、メ

第50話 「宇宙を駆ける」

過去を清算するためにクワトロ・バジーナは、ハマーン・カーンと戦う。だが、因縁に決着したいという思いはハマーンも同じだった。



ガ・バズーカ・ランチャーを破壊した。自分には通用しない武器とはいえ、これ以上、アクシズ軍に犠牲を出すわけにはいかないからだ。

こうしてはじまった、百式、キュベレイ、ジ・Oの三つ巴の戦い。しかし、キュベレイもジ・Oも、まずその標的を百式に絞りこんだ。あきらかにポテンシャルの低い百式を、最初に行動不能にしようというのだ。まさしく弱肉強食の世界。

キュベレイのビーム・サーベルが、ビーム・ライフルごと百式の右腕を斬り落とした。「こんなところで朽ち果てる己の身を呪うがいい」と、余裕の表情で言うハマーン。

そしてジ・Oのビーム・ライフル

が、百式の右足を吹き飛ばす。「貴様のようなニュータイプのならそこないは肅清される運命なのだ」と、余裕のシロッコ。しかしクワトロの闘志は潰えることなく「まだまだ、まだ終わらんよ!」と、満身創痍の百式で再び戦おうとする。

■黄金の騎士は漆黒の宇宙に消えた

ハマーンとシロッコの追撃をかわすため、クワトロは百式を降りて、グリプス2内部にあった劇場へと身を隠す。だが、そこも安全な場所ではなかった。

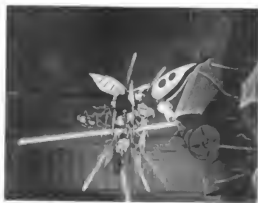
先回りしていたハマーンとシロッコに、またして

もクワトロは追いつめられる。そこへ駆けつけてきたカミーユによって、窮地を救われたクワトロ。カミーユの増大していくニュータイプの力を感じ、あとをまかせられると判断したクワトロは、ハマーンとの決着に全力を尽くそうとする。

グリプス2のコロニーレーザーが発射され、ティターンズ艦隊がほぼ全滅したことを見たハマーンは、この戦いの決着がついたことを悟る。そして、クワトロ個人との決着をつけるべく、単身残り、再び戦いがはじまる。



ジ・Oとキュベレイという強敵に挟まれながらも、一歩も引かない百式。「赤い彗星」の面目躍如か。



「一年戦争」でのアムロとの最終決戦を彷彿とさせる捨て身の行動だが、ハマーンには通用しなかった。

戦いの最中に百式の内蔵火器の残弾が底をついてしまう。執拗なファンネルの攻撃を回避しながら、戦艦の残骸へと身を隠す百式。余裕の表情でそれを追うハマーンだが、その隙を衝いてクワトロは、百式をキュベレイの背中へと密着させた。「これであの武器は使えまい!」。そう叫んだクワトロをあざ笑うかのごとく、精密なファンネルの射撃は、百式に残された左腕と左足までをも奪ってしまふ。

四肢を完全に失い、文字通り、文字通り、手も足も出ないクワトロに「これで終わりにするか? 続けるか?」と問うハマーン。だが、クワトロは、ここで最後の賭けにでた。

百式の残された最後の武器である頭部バルカン砲で、クワトロは戦艦のシヨートしかかった部分を誘爆させたのだ。やがて連鎖的に爆発をはじめた戦艦は、あとかたもなく吹き飛ぶ。動けない百式は、当然、その爆発に巻きこまれていく。

いち早く脱出して、その爆発を見ていたハマーンが、はじめて本音をもらす。「シャア、私ときてくれれば……」。ハマーンは、ただ後悔だけを胸に自分の戻るべき場所へと帰っていった。

人々の魂が集まって訪れた奇跡の瞬間

ZガンダムVS.ジ・O

■エマ・シーンとの永遠の別れ

いまだ激しく続く、コロニーレーザー「グリプス2」をめぐるエウーゴ、ティターンズ、アクシズの三つ巴の戦い。

だが、カミーユ・ビダンも戦うこともせずに、撃沈して廃棄された戦艦の中にいた。それは、先の戦いで重傷をおったエマ・シーンを休ませるためである。

しかしエマは、自分がもう手遅れであることをわかっていた。

エマは、カミーユが先の戦いで「Zガンダム」に秘められた力を発動させたことを見ていた。その力こそ、この泥沼のような戦争を終結に導くことができる力だと直感したエマは、自分の死期を悟ってカミーユに最後の言葉をたくす。

「私の命を吸って！　そして勝つよ！」。エマは、最後の最後までカミーユを叱咤し、その短い生涯に幕を下ろした。

第50話 「宇宙を駆ける」

ティターンズとの決着をつけるため、カミーユ・ビダンは、バブテマス・シロッコに全身全霊をかけて戦いを挑む。

MSZ-006

Zガンダム

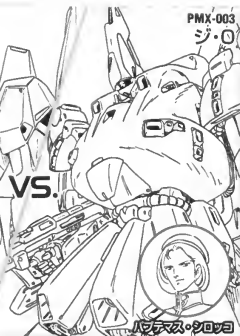


カミーユ・ビダン

PMX-003

ジ・O

VS.



パプテマス・シロッコ

■戦いを終結させた閃光

その死に絶叫し、嗚咽おとげの涙を流すカミーユ。だが、しばらくすると、冷静さをとり戻したかのように立ちあがり、エマに別れを告げる。

「エマ中尉、カミーユ・ビダン……いきます」。そう言うときカミーユは、いまだ終わらない戦場へと戻っていた。

そのころ、グリプス2内部に残っていた劇場へと逃れていたクワトロ・バジーナだったが、ハマーン・カンとパプテマス・シロッコに追撃され、危機に陥っていた。しかし、そこへカミーユがクワトロを助けに現れる。

カミーユが現れるとその場にいた3人の顔色が一斉に変わった。なぜならカミーユが、ここにいる誰よりも強いブレッツシャーを放っていたからだ。

やがてファ・ユイリイも救援に駆けつけ、クワトロとカミーユはこの場を脱出した。

そして、全員がモビルスーツに乗りこんだとはほぼ同時に、コロニーレーザーが作動しはじめる。シロッコとハマーンは脱出するべく、モビルスーツの稼動を急がせる。

だが、カミーユはタイムリミットがせまるこのときにおいても、シロッコとハマーンを相手にビーム・ライフルを連射して、果敢に戦いを挑む。たとえコロニーレーザーに巻き込まれても、この場でふたりを倒そうというのだ。そんな捨て身のカミーユに、クワトロは「新しい時代をつくるのは老人ではない!」と、この場を引くよう諭した。この言葉を聞いて、ようやくカミーユは撤退をはじめた。

その脱出する機影を見た強襲巡洋艦「アーガマ」の艦長ブライト・ノアは、コロニーレーザーの発射を命令した。発射された光は、多くのティターンズ艦隊を呑み



最期のときまでカミーユを叱咤するエマ。その死がカミーユの運命を決定づけたのか。



シャア、ハマーン、シロツコたちでさえプレッシャーを感じさせるカミーユ。まさしく最強である。

■魂が見せた奇跡の瞬間

こんだ。それは、この激しかった戦いを終結に導く光であった。これを見てシロツコは、ティターンズの敗北を悟り、ハマーンはここで消耗することの無意味さに気づき、アクシズの全艦隊を撤退させる。

こうして戦いは、ほぼ終息に向かう。しかしカミーユは、この戦いで絶対に逃してはいけない男がわかっていた。それは傍観者の名のもとに、戦争を遊びのように考えているシロツコだった。

この戦場から脱出しようと、母艦である木星航行船「ジュピトリス」へと帰投するシロツコのジ・O。そこに、ビーム・ライフルとビーム・サーベルのコンビネーションで挑むカミーユが現れる。「おまえだ！ いつもいつも脇から見てるだけで、人をもて遊んで！」。

「勝てると思うな、小僧！」。そういうと、シロツコもここが正念場と察したのか、ついにジ・Oの秘

密の武器である隠し腕を使ってきた。その予想外の動きに反応しきれないカミーユだったが、その刹那、エマの声を聞く。「焦りすぎよ、だからいけないの」。その声を聞いてカミーユは寸前でジ・Oのビーム・サーベルをかわす。

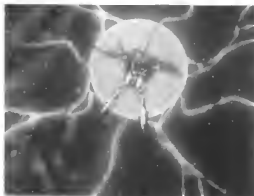
さらにはかつて戦った敵兵士、ライラ・ミラ・ライラの声も聞こえてきた。「パワーがだんちなんだよ、そんなときはどうしたらいい?」。その言葉にしたがって、カミーユは捨て身の攻撃を決意した。「俺の身体をみんなに貸すぞ!」。

やがてカツ・コバヤシも現れ、今度はレコア・ロンドが激励する。シロッコを守ろうとサラ・ザビアロフがカミーユを止めるが、わかりあえた人たちの心に壁はない。サラはロザミア・バダムとフォウ・ムラサメに諭され、カツの説得で納得した。

人々の魂をたくわえていくZガンダムを見て、シロッコは驚愕する。シロッコが理解できない力だったからだ。Zガンダムは真紅のオーラのようなものに包まれ、再びスペック以上の力を発揮しはじめる。その影響により、コントロールがきかなく



土壇場まで使わなかった必殺の秘密兵器、隠し腕。ほかにも隠し武器があった可能性もある?



カミーユというパイロットがいればこそZガンダムは、真の力が発動したのだ。

なってくるジ・O。「ジ・O、動けー！ ジ・Oー！ なぜ動かん!?」。シロッコの焦りをよそに、カミーユはZガンダムをウェイブライダー形態へと変形させる。そして渾身の力をこめて、ジ・Oのcockpitめがけて突撃を敢行する。「ここからいなくなれ!!」。カミーユの叫びが宇宙にこだまする。シロッコに最期のときがきた。

「私だけが死ぬわけが…貴様の心も連れていく、カミーユ・ピタン……」。そう言うとしロッコは、自分に残っている力をカミーユへとそそぐ。

すでに限界以上の精神状態だったカミーユは、その力を受けて、空気を入れすぎた風船が破裂するかのごとく、精神を崩壊させてしまうのだった。

こうして戦いは終わり、ファは宇宙空間を漂流するZガンダムを発見する。しかし、カミーユの安否を気にかけていたファが見たものは、精神を崩壊させ、まるで子供のようになってしまったカミーユだった。がく然とするファだったが、カミーユを伴い、アーガマへと帰投するのだった。

地球連邦政府の腐敗が招いた新たな戦乱の幕開け

宇宙世紀0087年に勃発した「グリプス戦役」を簡単に説明するなら、地球連邦の戦後復興が順調に進んだがゆえに起こった大戦だったといえるだろう。

人類の半数を失った先の大戦「一年戦争」終結から7年。その傷跡も癒えて、連邦は豊かになりすぎた。

その豊かさゆえに、政治は凄惨だった戦争から何ら教訓を得ることなく、以前のように腐敗した体制を維持してしまう。

そのため、地球連邦政府はジオン公国軍残党を掃討する目的で設立されたはずのエリート部隊「ティターンズ」が、スペースノイド（宇宙居住者）弾圧のための私兵組織へと変貌していくことを黙認してしまう。

さらに、このティターンズの横暴を許し続けたことにより、地球連邦軍内部に反地球連邦組織「エウゴ」を誕生させてしまい、争いの火種は徐々に大きくなって、ついに内乱といった形で噴出してしまふ。

むろん、その裏には軍需産業であるアナハイム・エレクトロニクス社の思惑があったことは否定できないが、それ以上に平和ボケしてしまった連邦議会の無能ぶりが

あげられるだろう。

一方で、モビルスーツ技術は飛躍的に進歩した。ムーバブル・フレイムやリニア・シート、全周囲モニターなどの新技術が積極的に量産され、生産ラインにのる。そして可変モビルスーツといった新機軸のマシンも誕生した。

他方その過程で、人間を道具として考える強化人間の研究という許されざる技術も進化していく。こうしてハード面はもちろん、ソフト面もまた急速に進歩していった。

そして最終的に、エウーゴとティターンズという地球連邦軍を真つぶたつに分けた戦いは、ジオン軍残党であるアクシズに漁夫の利を与えただけという状態で幕を下ろす。

グリプス戦役によって地球連邦軍が疲弊し、逆にジオン軍残党がスペースノイドの一部をとりこんで戦力を増強してしまったことが、その後の「第一次ネオ・ジオン戦争」を生んだばかりか、「第二次ネオ・ジオン戦争」をはじめとする、数々のジオン軍残党による戦いを招いてしまったのではないだろうか。

さらに、これほどの大きな戦争が続いても、その体制を変えることなく、腐敗した連邦政府が存続したため、それに絶望したスペースノイドが、打倒地球連邦に決起するという図式が引き続き続いてしまうのである。

第2章

機動戦士

ガンダム
Z
Z

ダブルゼータ

BATTLE

ティターンズの壊滅により「グリプス戦役」は終戦したが、戦力を温存していたネオ・ジオンは地球圏への侵攻を開始。エウーゴは人的にも物理的にも疲弊していたが、少ない戦力を駆使してこれに対抗することになる。

ところが、両軍とも一枚岩ではなかった。ネオ・ジオンでは叛旗を企てる一派が準備を進めており、エウーゴは地球連邦政府の上層部に疎んじられ、サポートが万全ではない状態が続く。そして戦況は進むたびに、混沌を極めていった。そんななか、成りゆきでエウーゴの強襲巡洋艦「アーガマ」で働くようになったジュード・アーシタは、本人の意思とは別に戦争に身を投じていくことになる。多くの人と出会い、さまざまな境遇の敵と戦うなか、彼は人間的に成長していき、自分なりの正義を見いだしていく。

Phraseology

■ ネオ・ジオン

ミネバ・ザビを擁し、小惑星基地「アクシズ」を本拠地とするジオン公国軍残党勢力が、正式に表明した組織名。わずか20歳のハマーン・カーンが実質的な指導者である。

■ エウーゴ

もともとは、反ティターンズの立場をとる宇宙移民者相互援助組織。「第一次ネオ・ジオン戦争」では、ネオ・ジオンに対抗する組織となるが、組織自体は弱体化している。

■ カラバ

エウーゴの地球上の協力組織。ハヤト・コバヤシはその一員である。

■ ガンダムチーム

強襲巡洋艦「アーガマ」が運用する特別チ

ーム。ガンダムタイプ4機で構成され、ジュード・アーシタたちがパイロットを務めている。

■ シャングリラ

ジュード・アーシタたちの出身地である、スペース・コロニー「サイド1」のひとつ。

■ ダカール

地球連邦政府の議会がある都市。ネオ・ジオンは連邦政府高官たちに恨国しし、この地を一時占拠した。

■ コア3

ジオン発祥の地、スペース・コロニー「サイド3」の中心コロニー。地球連邦政府との裏取引で、ネオ・ジオンに接収されている。

ジュード・アーシタが初めて戦略的に戦った一戦

Zガンダム VS. ズサ

■頭よりも体で覚えるパイロットII ジュード・アーシタ

歴代の「ガンダム」のパイロット、アムロ・レイとカミーユ・ビダンとは、どちらも親がガンダム開発に関わっていて、本人も趣味でメカに精通していた。

ところが、スペース・コロニー「サイド1」シャングリラ出身のジュード・アーシタは、このふたりとはかなり毛色が違う。

彼の両親はガンダム開発とは無関係で、出稼ぎのため不在。ジュードは妹とのふたり暮らしの生活費を稼ぐため、仲間たちといっしょにジャンク屋を営んでいた。

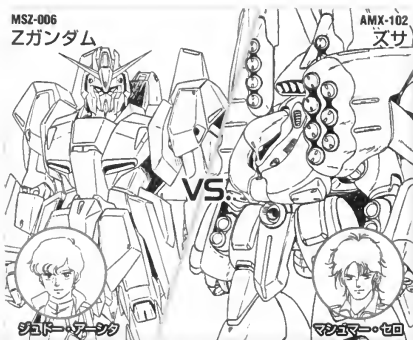
また、実地でプチモビルなどを使いこなし、ジャンクパーツの知識も得ていた。

つまり、考えるよりも先に行動し、経験のなかで体に覚えこんでいくような雑草タイプなのだ。

そんなジュードは、ひょんなことからエウーゴの強襲巡洋艦「アーガマ」に配備

第6話 「ズサの脅威」

強襲巡洋艦「アーガマ」で働くことに反発するジュード・アーシタだが、仲間たちのあと押しで「Zガンダム」に乗り、敵を迎え撃つ。



されている「Zガンダム」に乗りこむ機会を得る。

最初こそ操縦技術はメチャクチャだったが、経験を積むにつれて操縦にも慣れ、戦いかたも身につけていった。その成長ぶりをかいま見れるのが、アクシズの士官、マシヌモ・ゼロの乗る「ズサ」との対戦である。

■パイロットとしての成長

ある日、ジュードたちはアーガマに招待されて、豪勢なランチをご馳走される。

その味に舌鼓したつぽを打つものの、艦長のブライト・ノアからアーガマで働かないか、という話をもちかけられ

ると、ジュードは騙されたと思って反発し、ファ・ユイリイにくってかかる。

ところが、ファは涙ながらに、「いつも自分たちが本当にこんな食事をしていると思う？」と、訴える。

これまで何度もジュードに救われたファたちは、本当に彼の腕を買っていて、精一杯のもてなしをしたのだ。

そんな姿を見たジュードはバツが悪くなり、アーガマから飛び出してしまふ。

一方そのころ、巡洋艦「エンドラ」からは、またしてもマシユマーがアーガマ奪取のため、ズサを駆って現れる。

アーガマからは迎撃のため、ファの「メタス」、エンジニアのアストナー・メドツソが乗る「Zガンダム」が出撃するが、実力の差から勝負にならない。

たまたま現場にいたジュードは、ファや妹のリイナ・アーシタたちにたきつけられ、嫌々ながらZガンダムへと乗りこむことになる。

そのころ、一時現場を離れたズサが、味方機の「ガザC」2機を連れて戻って来



「借りをつくっておくのは嫌なんだ」。どうにも素直な言い方ができないジュードだった。



瓦礫の中に潜んで待ち伏せし、ガザCを瞬殺。ジュドーの戦士としての成長がうかがえる。

た。ジュドーにとって、複数の敵を相手にするのは今回が初めてだった。

当然分が悪いと踏んだジュドーは、13番地区にズサたちを誘うと、Zガンダムをジャンクパーツの山に潜り込ませる作戦に出る。

3機は付近を猛爆し、Zガンダムをいぶり出そうとするが、ジュドーはじつと息をこらえて潜んでいた。そしてガザCが近づくと、ジャンクパーツの中から突如現れ、ビーム・サーベルで頭部を一撃し、仕留める。

さらに、ズサに追いこまれた行き止まりでは、上空からダイブぎみに襲いかかる2機目のガザCをギリギリでかわすと、そのままの格好で抱え込んで一気に上昇。ガザCに頭部のバルカン砲を叩き込み、メインカメラを潰し無力化してしまう。

次に突攻を仕掛けるズサに対しては、ジャンクパーツの山が崩れて逃げ出すところをすぐさま追いかけて捕まえ、地面に押さえつけてしまうのだった。

最後こそ、メタスの助けで辛くも勝利するという幕切れだったものの、これまで運だけで勝ってきたジュドーが、初めて戦略を見せた一戦だった。

伝説の隕石斬りが炸裂したZZガンダムの初陣

ZZガンダムVS.ハンマ・ハンマ

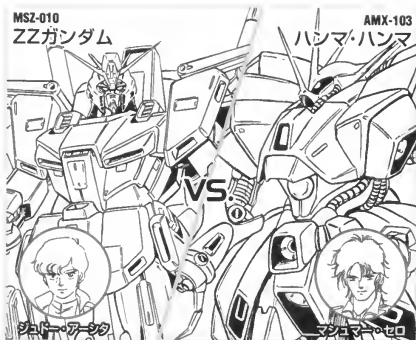
■新兵器を携えたマシヌマー・セロが、ZZガンダムに引導を渡す

ドック艦「ラビアンローズ」に向けて進軍する強襲巡洋艦「アーガマ」は、スペース・コロニー「サイド1」の「シヤングリラ」を出てもなお、アクシズの巡洋艦「エンドラ」の追撃を受けていた。

そんななか、先の戦闘においてアーガマの捕虜となってしまった敵艦の副官ゴットン・ゴーがイーノ・アッバープを人質にとり、小型戦闘機「ネオ・コア・ファイター」で脱走するという事件が起きる。ジュドー・アーシタは「ZZガンダム」で、ルー・ルカは戦闘機「コア・ベース」でこれを追うこととなった。ところが、途中のデブリ帯でネオ・コア・ファイターは岩に激突し、ゴットンもイーノもコクピットの外に投げ出されてしまう。そこへ、「ハンマ・ハンマ」で出撃したマシヌマー・セロが遭遇し、ゴットンは無事救出されるものの、イーノは行方不明となってしまう。

第11話 「始動! ダブル・ゼータ」

「ハンマ・ハンマ」は、新兵器を使い「ZZガンダム」を戦闘不能にする。そこへ援軍が現れる。新型「ZZガンダム」の登場だ。



マシユマーは助けたゴットンの情報をもとにさらにアーガマへと進軍したため、急遽Zガンダムたちは戻ることとなり、再びマシユマーとジュードは対決することとなった。

しかし、今回のマシユマーには秘策があった。ハンマ・ハンマの新装備、メガ粒子砲内蔵シールドは、盾でありながらメガ粒子砲を発射できる強力な武器でもあった。中型の隕石くらいなら木っ端微塵にしてしまうその威力のまえに、Zガンダムも押され気味となっていた。

そこでいったん距離を置いたZガンダムは、今度はビーチャ・オーレグたちが乗るネオ・コア・ファイターを捕まえていた「R・ジャジャ」

と対戦。ところが、R・ジャジャに乗るキャラ・ス
ーンは、モビルスーツに乗ると高揚してしまう性格
で、ZガンダムのシールドはR・ジャジャの銃剣付
きビーム・ライフルで斬り落とされてしまう。

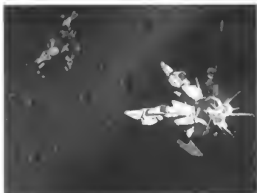
猛攻をかわすZガンダムだったが、そこへハン
マ・ハンマが現れ、戦況は1対2。

R・ジャジャに背なかから羽交い締めにされたZ
ガンダムは、メガ粒子砲の餌食となり、頭部を破壊
され、戦闘不能に陥ってしまうのだった。

■待ちに待った、新型ガンダムの登場

Zガンダムから脱出したジユドーは、ピーチャたちが乗っていたネオ・コア・フ
アイターへと乗り移って逃げるものの、追撃の手を緩めないハンマ・ハンマの猛攻
にさらされていた。そこへ、ラビアンローズから援軍が駆けつける。ラビアンロー
ズに救出されたイーノが乗る戦闘機「コア・トップ」と、ルーの乗るコア・ベース
だ。しかし、ハンマ・ハンマはなおもジユドーの背後にせまっていた。

ルーの指示で、3機はフォーメーションをとると、複雑な変形をしつつドッキン



グリプス戦役で活躍した名機Zガンダムも、マシュ
マーとキャラの奇妙な連携のまえに敗れてしまう。



ZZガンダムのハイパー・ビーム・サーベルは、隕石をまっがたつにする驚愕の威力。

グし、モビルスーツへと姿を変える。新型ガンダム、「ZZガンダム」の登場だ。ハンマ・ハンマは、ZZガンダムに向けてメガ粒子砲を発射するが、ZZガンダムは猛烈なスピードで一気に距離を詰めると、ビーム・サーベルを構えて一斬。ハンマ・ハンマはこれを避けようと巨大隕石の陰に隠れるが、ZZガンダムが振り下ろした切先は、なんとその隕石を一刀両断してしまう。

ZZガンダムの圧倒的な機動力と火力をまえに、さすがのマッシュマーも驚き、ハンマ・ハンマはメガ粒子砲を撃ちながらあとずさりしていく。

それでもZZガンダムは前進して、ダブル・ビーム・ライフルを発射すると、ハンマ・ハンマのシールドを破壊し、退けることに成功するのだった。

「グリブス戦役」以降、ろくな補給もなく、逼迫した状況が続いたアーガマにとって、待望の新たな戦力がくわわった。

たった一機とはいえ、ZZガンダムが初戦で見せた圧倒的な性能は、アーガマの戦力不足を補って余りある希望の光だったに違いない。

無邪気な少女のわがままにつき合わされたジュード・アーシタ

ZZガンダムVS. キュベレイ Mk II

■戦いも遊びも区別できない幼い女の子

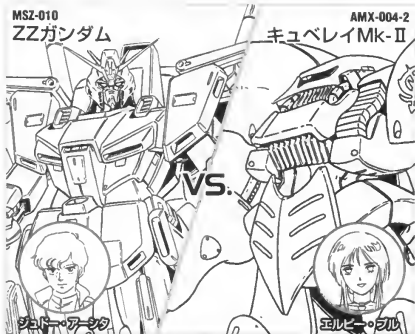
ジュード・アーシタがこれまで戦ってきた敵は、自分勝手な理屈で戦争に参加する、大人げない人間たちがほとんどだった。だからこそ彼は、大人に対して自分の子供らしい論理を素直に真正面からぶつけることができた。しかしそんなジュードのまえに、これまでとはまったく異なる敵が現れる。彼よりも幼くて、無邪気な少女、エルビー・ブル。彼女はまだ戦う意味すらわからないわずか10歳の子供だった。また、「キュベレイ Mk II」に乗るニュータイプのパイロットでもあった。

ブルとジュードが初めて出会ったのは、ジュードがアクシズにさらわれた妹、リイナ・アーシタを救おうと、小惑星基地「アクシズ」へと潜入したときのこと。ブルはこれにいち早く気づき、気配を追ってジュードに遭遇。初対面にもかかわらず、いっしょに遊ぼうとせがんで、チョコレートパフェを食べたり、おんぶして

第18話
ハマーンの黒い影

第19話
ブルとアクシズと

小惑星基地「アクシズ」へと潜入したジュード・アーシタは、敵パイロットだが無邪気な少女エルビー・ブルと出会う。



もらったりと、まとわりつく。

そのようすは幼く少女らしい、愛らしいものだったが、彼女に優しく接しながらも、妹を救う目的のあるジュードは、プルと別れる。

ところが、小型戦闘機「ネオ・コア・ファイター」で宇宙へと飛び出たジュードの前に、プルの乗るキュベレイMk-IIが登場。彼女はまたもいっしょに遊ぼうとせがみだし、応援に駆けつけた戦闘機「コア・ベース」たちに攻撃を仕掛けてきた。

これは彼女にとって、戦いでもない。ただ構ってほしいだけなのだが、そのわがままな振る舞いに、ジュードは怒り出す。ジュードの怒りの波動を感じたプルは、しお

れてしまい、乗っていたキュベレイMk・Ⅱも攻撃を止める。

その隙にジュードは「ZZガンダム」へ合体すると、ブルは「私は、ジュードと遊んでほしいだけなのよ」と再び攻撃を開始。

怒るジュードは、ダブル・ビーム・ライフルでキュベレイMk・Ⅱのファンネルを一掃してしまう。すると、いじわるされたと思ったブルは、泣きながらキュベレイMk・Ⅱを引きあげてしまふのだった。

■わがままが暴走して町を破壊

ところが、どんなに突き放されても、ブルは居心地のいいジュードと遊びほうとして、勝手な振る舞いをやめない。再びアクシズに潜入したジュードが港でグレミー・トトの「パウ」と戦闘した際にも、ブルのキュベレイMk・Ⅱが割って入ってきた。しかし今度は、ジュードの妹リイナを人質として捕縛していた。

ところが、ZZガンダムがキュベレイMk・Ⅱに追いついたときは、アクシズ居住区の町中。幼い子供たちも群がってきていたため、ジュードは必死に説得しよう



ジュードにつきまとうブル。こうして見ると、ただの無邪気な少女にしか思えない。



リィナばかり気にかかるジュードをブルは、町中だ
というのにファンネルで猛攻する。

と試みるものの、スネていたブルはなかなかいうことを聞こうとしない。さらに、リィナに近づこうとしたジュードを見たブルは、ジュードをとられると思い強烈な感応波を発動。ファンネルを飛ばして、町を次々と攻撃しはじめてしまう。

一方のジュードは、被害を広げまいとして反撃せず、ただ必死に逃げながらブルを説得しようとする。そんなとき、リィナの言葉がブルを突き動かす。「そんなわがままで人殺しをする、お兄ちゃん、本当にあなたを憎むわよ!」。ここでようやく、ジュードに嫌われることを恐れたブルは平静になり、キュベレイMk-IIも沈黙するのだった。

こうして見ると、実は二度の戦闘のなかで、ジュードはブルとまともに戦っていない。というのも、彼は彼女を終止説得しようとしていたからだ。ブルはこれまで、ジュードが相対した大人たちとは違う。ただ無邪気な子供なのだ。

ジュードの主張はいつだって一貫している。「大人の理屈で子供や一般人を戦争に巻きこむな」だ。彼のこの純粹な子供の理屈は、ブルとの出会いでますます強くなったといえるだろう。

ジオン公国復興に向けて動き出した砂漠戦のスペシャリスト

ZガンダムVS.ロンメル隊

■ 8年も潜伏していたジオン公国軍残党

ネオ・ジオン軍は、地球連邦議会のあるダカール市を占拠した。このため、アフリカに降り立った強襲巡洋艦「アーガマ」は、反地球連邦組織カラバと連携してダカールを挟撃するべく、ガンダムチームを先行させることにした。

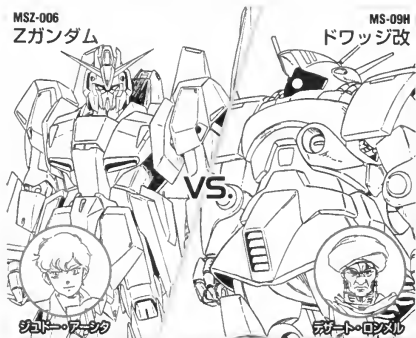
ところが、このアフリカの地は「一年戦争」が行われたとき、敗走したジオン公国軍が地球上で最後まで抵抗した地域で、今なお地下組織化した残党兵たちが潜伏するところだった。

デザート・ロンメルは、そんなジオン軍残党部隊隊長のひとりで、砂漠戦のスペシャリストとして名を馳せた人物だった。そんな彼のもとに、小惑星基地「アクシズ」からミネバ・ザビがダカールに入ったという情報が入る。

ジオン復興という夢を実現させるために、8年も潜伏していた彼らにとって、こ

第25話 ロンメルの顔

ダカール挟撃に向け、アフリカ大陸を先行して進むガンダムチーム。そこに、砂漠戦の精鋭であるジオン公国軍残党部隊が襲いかかる。



れは絶好の機会であった。

ロンメルは至急全部隊を集結させ、ガンダムチームを撃退しつつ、ダカールに合流しようと行動を開始する。

まずは、敵戦力の実態を推し量るべく、ロンメルの「ドワッジ改」とカラハンの「ディザート・ザク」が、ジュード・アーシタの「Zガンダム」とエルピー・ブルの「メガライダー」に対し攻撃を仕掛けた。

真下の砂漠から突然突きあげられて倒れたZガンダムを、ディザート・ザクがうしろから羽交い締めにする。ドワッジ改が唐竹割りで襲いかかる。Zガンダムはなんとかこれを振りほどき避けるものの、苦戦

を強いられる。足を砂にとられたり、砂煙で目くらましを受けたり、砂漠戦のスペシャリスト相手にこの地での戦闘は分が悪いといえた。

■時代にとり残され、砂漠に散る猛将

なんとかブルの機転でロンメルとの戦闘から脱したZガンダムだったが、ロンメル隊は次なる作戦を実行に移す。Zガンダムを確実に仕留めるべく、部隊を砂漠地帯に潜伏させた待ち伏せ作戦だ。

まずはロンメル隊のニキが乗るディザート・ザクがZガンダムを誘き寄せ、そこにバズーカ攻撃隊が先制。Zガンダムは一時空中へと逃げるが、砂上に降りたところを砂の中から現れたディザート・ザクがZガンダムの足を絡めとって、残りの部隊が砂上を滑らかに進軍して周囲をとり囲む。こうして、砂漠戦のスペシャリストならではの戦法が、Zガンダムを追いこんでいく。

ところが、そこへ残りのガンダムチームが駆けつけ、敵の連携に苦しむジュードーを救出する。Zガンダムはウェイブライダーに変形して、バズーカ攻撃隊まで進軍



ロンメルのドワッジ改は砂漠戦に長けた機体。砂上の戦闘に慣れないZガンダムは、大苦戦する。



8年間潜伏し、準備してきたロンメルは敗れた。彼の執念は、子供たちにとっては悲しみでしかない。

すると、空中と陸上からの二面攻撃によって次々と撃破していく。こうなると、ロンメル隊は総崩れとなり、旧型機と新型機の性能差も相まってロンメル隊は一方的な惨敗を喫する。残るは隊長のロンメルのみとなり、ドワツジ改はZガンダムと対峙する。顔をしかめるロンメルの前に、ジュードはコクピットから顔を出し、戦いをやめろとせまる。そのジュードの容姿を見て、ロンメルは、ひとりつぶやく。「8年、8年のあいだに、時代の流れにとり残されたというのか。祖国はまったく同じ

だったんだぞ。それを、こんな子供が……」。現実
に打ちひしがれた彼は絶叫して突攻するが、執念空
しくドワツジ改は一斬のもとに倒されてしまう。

「これが無茶でなくて何が無茶なんだよ。結果がわ
かってからわかるってのは本当に……」。勝利した
ジュードは、悲しみの涙にくれた。どんなに大人の
理屈で戦っていても、戦争では人が死ぬ。人が死ね
ば、あとに残された人が悲しむ。それをわかってい
るのに、大人は戦いをやめない。

ロンメルの執念は、少年のジュードには、ただた
だ哀しく思えた。

出世を夢みた武人が大人のプライドをかけて挑んだ勝負

百式 VS. ドライセン

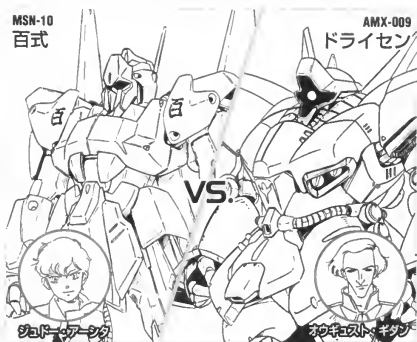
■ハマーン・カーンとグレミー・トトの狭間に揺れる

強襲巡洋艦「アーガマ」から飛び出したルー・ルカを無事回収したガンダムチームは、ようやく本隊と合流しようとしていた。塩湖を回りこめば、カラバの補給基地にいたアーガマにたどり着く。そんなとき、ビーチャ・オーレグが、ZZガンダムに乗って勝手に出撃する事件を起こす。ビーチャはジュドーがグレミー・トトの部下、オウギュスト・ギダンの「ドライセン」を見事迎撃して仲間たちからたたえられる姿がおもしろくなかったのだ。「ZZガンダムに乗れば、自分にだってあれだけの活躍はできるさ」。そんな嫉妬心から、彼はアーガマ敵襲の報を受けて出撃した。

一方、アーガマを急襲するオウギュストも、グレミーからヘッドハンティングの話を持ちかけられていた。彼はもともと、ハマーンがグレミー監視のために派遣し

第32話 塩の湖を越えて

カラバ基地に駐留する強襲巡洋艦「アーガマ」は、オウギュスト・ギダン隊の襲撃を受けた。ガンダムチームは応援に駆けつける。



た軍人である。グレミーのもとで忠実な働きをしていたオウギュストだが、グレミーがアフリカの砂漠で行方不明となると、彼は巡洋艦「ミンドラ」を指揮するという幸運な境遇にあう。しかし、その後グレミーは発見され、オウギュストはすぐに指揮官の地位から降ろされてしまう。そしてこの戦いの直前に、彼はグレミーから秘密の部屋を見せられたのだった。

それは、人工的につくったニュータイプのクローンのコードスリーブ室だった。しかも、グレミーは暗に自分がザビ家の血統であることを臭わせて、そのうえでオウギュストにハマーンをとるか、グレミーをと

るかをせまった。ニュータイプ部隊の量産とザビ家の血統。グレミーのこの秘密が、いかに重要かは彼にもわかった。オウギュストはグレミーに膝をつく。「強いものが正義だからです。その道を究めるためなら、命は惜しみません」。

■出世を夢見た男の最期

そういつたいきさつがあつたものの、オウギュストは戦いの最中に、ひとりつぶやく。「なにがブルツ」だ。なにがニュータイプだ。俺たち、大人の男がそんなに役立たずか!」。彼はある意味、純粹たる大人の思考を持つ人物である。戦場という仕事場で功績をあげ、出世したいだけの人間だ。ところが現場では、上司は若き青年士官で、戦力としては年端もいかない少女のクローンが量産されている。しかも、敵のガンダムチームは全員子供。まるで自分がバカにされているような現状に、彼は大人なる不満をもっていたのだ。

その不満をぶつけるかのように、オウギュストのドライセンはガンダムチームを相手に見事な活躍を見せる。空中ですれ違いざまに、飛びあがったZZガンダムに



長いものにまかれ、出世を目指すオウギュスト。彼の身の振り方は、いろんな意味で大人くさい。



Zガンダム、ZZガンダムを敗るものの、ジュードの乗る百式の前にオウギュストは敗った。

ビーム・ライフルを浴びせて湖にたたき落とす。さらに、ウェイブライダー形態の「Zガンダム」をビーム・トマホークで斬りつけ墜落させる。その流れるような空中戦でガンダム2機を撃墜した活躍ぶりは、まさに武人らしい戦いといえた。

そこへ、急速ジュードが乗った「百式」が駆けつける。「ド・ダイ改」から飛びあがり、空中で激しい鏖^{つば}ぜり合いを繰り広げる百式とドライセン。

オウギュストのドライセンは、ジュードにも食い下がったが、やはりパイロットの腕に歴然とした差があった。ドライセンは瞬く間に両腕を斬り落とされ爆発四散。出世を夢見た男の運はここに尽きた。

独断専行したビーチャは、悪態をつきながらも助けにきたジュードに感謝していた。ケンカしているようでいて、彼らの絆は深かった。一方で、子供がしゃしゃり出る戦場で、強さを求めた男はあっさりと果てた。ジュードとオウギュストの勝負は、強さだけで決まったわけではない。仲間を助けたい、戦争を終わらせたい。そんな信念で戦う子供に、出世と保身にかまけた大人がかなうはずはなかった。

凄惨を極める殺戮劇に、ジウドー・アーシタの怒りが爆発

ZZガンダムVS.ザクⅢ

■アーガマ決死の救出作戦

強襲巡洋艦「アーガマ」に、反地球連邦組織カラバのハヤト・コバヤシから驚愕の情報が告げられる。なんと、ネオ・ジオンは自軍の力を誇示すべく、スペース・コロニーをダブリンに向けて落とす作戦を実行しているというのだ。「コロニー落とし」。コロニーを物量爆弾として地球上に落とすという、かつてジオン公国軍が「一年戦争」で敢行した恐怖の非人道作戦が、今再びはじまろうとしている。

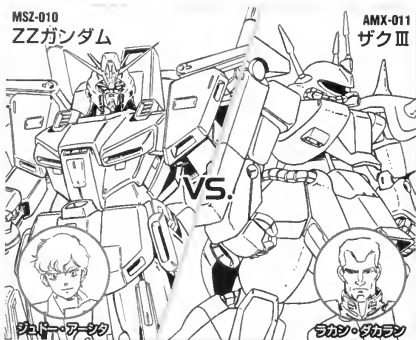
しかも、ネオ・ジオン軍はこの作戦の効果を高めようと、ハマーン・カーン特命のラカン・ダカランが、さらなる被害を出す作戦を行おうとしていた。さらに最悪なのは、地球連邦政府高官たちはこの事実を知りながら、情報を隠蔽し、自分たちだけ逃げようとしていた。そのためダブリンの救助活動は圧倒的に遅れていた。

味方であるはずの連邦軍も、この非常時にいたっては、敵に加担しているも同然

第35話
落ちてきた空

第36話
重力下のブルーツー

ダブリンへのコロニー落としをまえに、ジウドー・アーシタたちは民間人の救助活動にあたる。そこをラカン・ダカラン隊が襲撃する。



だった。

敵はおろか味方も民間人も救える組織がないため、アーガマとカラバは協力して避難民の回収に尽力する。搭載した全コンテナを投下し、全部隊を出撃させて避難民の警護へ回す。バックアップのない彼らにとって、今できることはあまりに微力だったが、手をこまねいているわけにはいかない。コロニー到着まであと4時間。切羽詰まったなかで、ジュドー・アーシタたちの救助活動は続いていた。

しかしラカンの「ザクⅢ」率いるネオ・ジオン部隊の行動により、事態はより深刻な方向に向かっていった。市外へと伸びる橋や道路、港は

ことごとく破壊され、避難民を乗せて出航した船舶ですら撃沈されてしまう。沖の彼方で光った閃光は、これから起こる殺戮劇の凄惨さを予感させた。

■天からのメギドの火が人類を焼き尽くす

あらゆる輸送手段を封鎖せんとするラカンの部隊は、ガンダムチームやカラバ部隊がいる空港へと進軍し、彼らと真つ正面から激突する。一進一退の攻防が続くが、防衛しながらの戦闘では、どうしても敵の数減らしには結びつかない。

コロニー落着まで1時間を切り、必死の救助活動も限界にきていたところで、敵を一掃せんとするジュドーたちは、ハヤトという大きな犠牲を払いながらなんとか「ZZガンダム」に合体。目の前でまた人が死んだことに涙しながら、彼は敵機を次々と撃墜していく。

「どうして、みんなで生きていけないんだ!」。そんな彼の必死の叫びのなか、最後まで残ったザクⅢとZZガンダムが激突する。

その刹那、ついにダブリンにコロニーが落着した。激しい閃光、強烈なまでの衝



非人道的な作戦、コロニー落とし。外部との通路は破壊され、被害は甚大となった。



目の前で罪もない人々が大量に死んでもなお、戦いをやめないラカンに、ジュドーの怒りが爆発する。

撃と風圧。町は押しつぶされ、コロニーからは無数の破片が崩れて、黒い細かな塵が雨のように降り注ぐ。そして衝撃が一段落したところで瓦礫の中からZZガンダムは起きあがった。その瞬間ジュドーの心の中に、多くの人のうめきや悲しみ、苦しみが一気になだれこんでくる。一度にあまりに多くの負の感情を受けとめた彼は、頭を抱えて号泣する。「こ、こんなひどいことなんて、あるもんかー!」。

そこへ、ラカンのザクⅢがまたもZZガンダムを襲撃する。こんな騒動のなかで、敵は戦いをやめようとしな。人の悲しみに触れ、怒るジュドーは、そんなラカンを許せなかった。彼の攻撃はかつてないほどの気迫を帯びており、歴戦の武人たるラカンもさすがに気圧され、ザクⅢは両脚を破壊され、戦線を離脱するほかなかった。

周囲は一面瓦礫の山、彼方には天高く伸びた巨大な円柱の物体。空は灰色の雲で覆われ、黒い雨が降り注ぐ。まさに地獄絵図である。どれだけの人が苦しみ、死んだのだろうか。

まだ14歳の少年が感じた悲しみの深さは、いかばかりであつたろうか。

ZZガンダムの前に立ちはだかる紫色の巨大な悪魔

ZZガンダム／キュベレイMkⅡ VS. サイコガンダムMkⅡ

■惨劇の町で出会ったふたりのプル

コロニー落としが遂行された直後、グレミー・トトの巡洋艦「サンドラ」はダブルン空域に侵攻していた。この混乱した戦況に乗じて、強襲巡洋艦「アーガマ」や「ZZガンダム」を撃墜しようというのだ。彼は秘蔵のニュータイプ、プルツーを冷凍睡眠から目覚めさせ、「サイコ・ガンダムMkⅡ」に乗せて出撃させる。

一方、被害空域から一時避難していたアーガマは、さらに避難民を救助しようと再びダブルンへと出航していた。その艦内では、敵の襲来を予見したエルピー・プルが重傷の身体をおして、出撃しようとしていた。そんなようすを見たブライトは彼女の指示に合わせてアーガマのハイメガ砲を発射させるが、サイコ・ガンダムMkⅡの損害は軽微だった。不気味に進軍する敵機との遭遇は、ガンダムチーム不在のアーガマにとって圧倒的に不利。結局プルは満身創痍の体をおし、解体中の「キ

第36話 重力下のプルツー

強襲巡洋艦「アーガマ」を仕留めんとするグレミー・トトは、プルツーに出撃を命じた。エルピー・プルは満身創痍の体で応戦する。



ユベレイMk・II」で無理矢理出撃する。

両者の交戦は、奇妙なまでに同調していた。キュベレイMk・IIがファンネルを放てば、サイコ・ガンダムMk・IIもビットで応戦。反射されたビームが襲いかかれば、キュベレイMk・IIはファンネルを盾にして防御する。まるで、鏡を見ながら戦っているかのようだ。そして、彼女たちはお互いに精神的にザラついた感覚を強烈に感じるようになっていく。不愉快な……あなたは誰？

■自分との戦い、そして決別

しかし、両者の攻防も長くは続かず、ついにサイコ・ガンダムMk・

Ⅱの猛攻のまえに、キュベレイMk・Ⅱは左腕を破壊されてしまう。そこへ、ようやくジウドー・アーシタのZZガンダムが救援に駆けつけた。ZZガンダム登場を目の当たりにしたブルツーは、サイコ・ガンダムMk・Ⅱをモビルスーツ形態に変形させると、標的をZZガンダムに絞る。

サイコ・ガンダムMk・Ⅱの性能は想像を絶するものがあつた。ビームはことごとく跳ね返し、メガ粒子砲の火線は猛烈を極めた。さすがのZZガンダムもエンジンが焼けつき、エネルギーも底をついてしまう。絶体絶命のピンチだ。

さらに眼前に立ち尽くす紫色の悪魔の鉄巨人から放たれたメガ粒子砲が、ZZガンダムを襲う。このとき、キュベレイMk・Ⅱが両者のあいだに割って入った。怪我をおして、ジウドーを救おうとしたブルが、ようやく敵の正体をつかんだのだ。この敵は、自分が戦わなければならない相手なのだ。

メガ粒子砲の猛攻を浴びながら、ブルは最後の力を振り絞り、キュベレイを強いオーラで包みZZガンダムを防ぐ。そして均衡は破られた。「私よ、死ねー!」。プ



お互いの行動を予測しているかのような動きをする、ブルとブルツー。



ブルの死に怒るジュード。それに呼応するように、ZZガンダムは超絶的な力を発動する。

ルは絶叫とともに、リフレクター・ビットのビームをキュベレイMk-IIに収束させると、巨大なエネルギーの塊となってサイコ・ガンダムMk-IIへと突攻を仕掛けた。魂の輝きにも似た閃光が、サイコ・ガンダムMk-IIを巻きこむ。ブルは命を犠牲にしてジュードを守ったのだ。

ところが、大きな犠牲を払ったにもかかわらず、サイコ・ガンダムMk-IIはまだ稼働していた。すると、ブルの死亡に怒るジュードのZZガンダムに強烈なオーラができ、ガス欠だったビーム・サーベルに不可思議なエネルギー帯が発生。その切先でついにサイコ・ガンダムMk-IIを両断し、ようやく撃墜せしめるのだった。

そして、なおも彼は逃げるサイコ・ガンダムMk-IIのcockピットを仕留めようとする。だが、ここでジュードが見たものはブルと瓜ふたつの顔だった。それを見て彼は脱力し、ZZガンダムは海へと落下する。ブルツはブルの双子、クローンともいわれるブルの攻撃的な性格を強調してつくられた兵士だった。あまりに酷い現実だった……。

戦渦に巻きこまれた悲しき強化人間との攻防

ZZガンダムVS.ゲーマルクVS.キュベレイMk II

■戦争の渦に巻き込まれ、自我が壊れゆく女性

一刻も早く戦争を止めようとするジュドー・アーシタたちは、ネオ・ジオン本国のスペース・コロニー「コア3」と資源衛星「キケロ」がドッキングするタイミンクを見計らって、コア3へ潜入しようとしていた。ここで彼は意外な人物たちと出会う。ひとりは、キケロで重労働を強いられる労働者たちをとりまとめているキャラ・スーン。かつてパイロットとして彼らの前に立ちはだかったが、強襲巡洋艦「アーガマ」に捕虜として捕まり、洗濯・掃除などを強いられていた女性だ。

以前と変わらないように見えたキャラに対し、ジュドーは坑内で労働者が暴動を起こした隙に説得を試みる。しかし、彼女は強化人間となってしまうため、過去の記憶がないまぜとなり、情緒が不安定になっていた。コア3の外でジュドーの「ZZガンダム」とキャラの「ゲーマルク」が戦闘した際も、ジュドーの言葉で

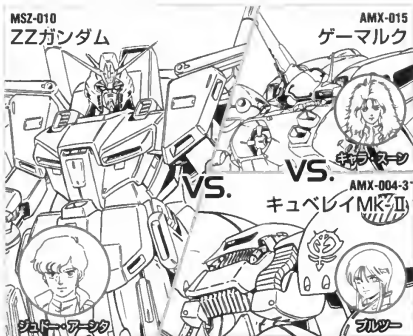
第42話

コア3の少女（前編）

第43話

コア3の少女（後編）

スペース・コロニー「コア3」に潜入したジュドー・アーシタは、反ハマーン・カーン派の労働者らと協力して暴動を起こす。



聞かたに彼女はキレルばかりで、コア3の近くで、全身のメガ粒子砲を一斉掃射させる。

この戦いはロイヤルガードの「ガズエル」「ガズアル」の制止によって中断するが、子供のようにはしゃぎ親しみやすかったキラの面影は今やまったく見られなかった。

■優しさに目覚めはじめた少女

もうひとり、彼に辛酸をなめさせたフルーだ。ジュドーの波動を感じた彼女は「キュベレイMk-II」に乗ってキケロへと進軍し、坑内を探索する。そこで彼女は、ひとりの少女と出会う。弁当の給仕に尽くしていた少女、ルチーナ・レビン

だ。通りがかったブルツは、なにげなく彼女の手伝いをしてしまうのだが、「ありがとう。あなたって本当にいい人ね」という言葉に、どことなく動揺をしてしまう。今まで戦士として扱われてきた彼女にとって、それは味わったことのない温かい言葉だった。この出会いが、のちに彼女を大きく突き動かす。

キャラとジュードが戦っているあいだ、ブルツはルチーナ、ルー・ルカ、エル・ビアンノを捕虜として捕らえ、ハマーン・カーンへと近づく。実は彼女にはグレイミー・トトの刺客として、コア3内で騒ぎを起こす目的があった。ほどなくしてブルツはキュベレイMk・IIで出撃すると、ハマーンのいる邸宅を攻撃。と同時に、グレイミーもアクシズへ攻撃を開始する。グレイミーのクーデターである。

キュベレイMk・IIの攻撃は苛烈を極めたが、立ちはだかったゲーマルクたちの頑張りもあって、ハマーン抹殺は失敗。キュベレイMk・IIもコロニーの外壁に穴を開け、一時宇宙へと飛び出すことになる。するとそこには、ルチーナたちを救ったジュードたちの姿があった。実はルチーナは、ブルツが独断で独房から逃がし



強化人間となったキャラの情緒は不安定。ジュードと会う度にその程度は、ひどくなっていった。



攻撃的な性格の強化人間、ブルツーだが、優しい心も持ち合わせており、ジュードの脱得に心が揺れる。

たため、その後紆余曲折あつて、なんとかほかのメンバーとともに無事脱出できたのである。

ここでジュードはZZガンダムに乗り換え、キュベレイMk-IIの前に仁王立ちとなる。ブルツーにとつては、待望のジュードとの再戦だ。しかし彼女は、ZZガンダムの姿になぜかブルの幻影を見て動揺してしまう。そしてジュードは問いかける。「なぜル चीナを助けたんだ」「それはブルを殺した懺悔じゃないのか」「本当は

お前は苦しいんじゃないのか」。ジュードの言葉は彼女を揺り動かし、ブルツーは苦しい胸のうちをかき消すかのようにファンネルを飛ばす。

だが、攻撃はかすりもしない。そこへキケロを救うべく巡洋艦「ネエル・アーガマ」のハイメガ砲が放たれる。巻き添えを食ったキュベレイMk-IIは大破し、脱出ポッドは宇宙の彼方へ消えていった。

ブル同様、ジュードはブルツーにも一切反撃していない。彼の説得によって、人との出会いのなかで変化したブルツーの心は激しく揺れる。戦闘マシンのような少女のなかに、葛藤という希望が芽生えた。

魂を暴走させた狂戦士、最後の戦い

ザクⅢ改 VS. ドーベン・ウルフ

■ハマーン・カーンへの忠誠を胸に、狂戦士出陣

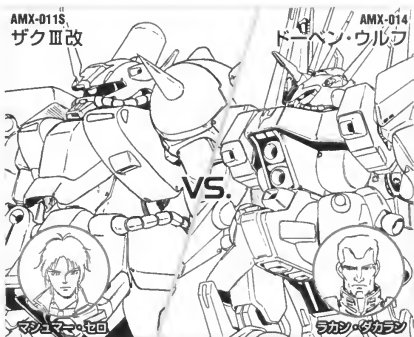
正当なザビ家の血統を背景に、グレミー・トトはついに決起し、小惑星基地「アクシズ」を占拠する。当初、グレミー軍に抵抗していたキャラ・スーンの艦隊に、ハマーンの艦隊も合流。ついに両軍の激突は本格的なものとなり、総力戦が展開される。

グレミー軍にはラカン・ダカラン、プルツーらが、ハマーン軍にはマシュマー・セロ、キャラらが属しており、どちらもエースパイロットが顔を揃えている。そのなかでも、特にマシュマーは強化人間として精神操作が強く、ハマーンへの忠誠を示そうと、士気はかなり高いものがあつた。そこにかつてのズッコケな姿は見る影もなく、妄執に駆られた狂える武人そのものといえた。

すでに戦場では多くの火線が走り、戦闘は激烈を極めていた。なかでも、プルツ

第45話 アクシズの戦闘

グレミー・トト軍とハマーン・カーン軍は総力戦となる。ハマーン軍のマシュマー・セロは、敵のラカン・ダカラン部隊に捕まる。



1の「クイン・マンサ」、ラカン率いる「ドーベン・ウルフ」隊と、キヤラの「ゲーマルク」、ロイヤルガードの「ガスエル」「ガスアル」の激突は、ともにエースパイロット同士の攻防とあって、一進一退であった。そこへマッシュマの「ザクⅢ改」も参戦し、クイン・マンサと剣を交えることになる。

クイン・マンサは全長40メートルの巨体で、大量のファンネルと大型のメガ粒子砲を装備した強敵である。しかし、ザクⅢ改はその強敵が繰り出すファンネルをいとも簡単にたたき落とすと、メガ粒子砲をかわして一気に距離を詰め、クイン・マンサの胸部に強烈な一斬をくわえ

る。あまりの気迫に気圧されて、あのブルツも後退するほどだから、その迫力は相当のものといえるだろう。

■果てた狂戦士の魂

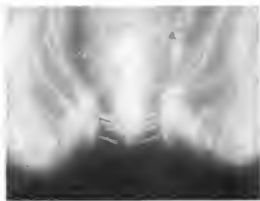
そんなようすを見たラカン率いるスペース・ウルフ隊は、隙を衝いてザクⅢ改の周囲を取り囲む。そして、波状攻撃で機を見るや、有線式のサイコミュー式ハンドを投げ縄の要領で伸ばしてザクⅢ改の四肢を捕縛してしまう。その姿は宇宙で磔むちうにされた罪人のようにも見えた。こうなると、さすがのマシユマー

もまともな抵抗はできず、コード伝いに流れる電撃による攻撃を受けてしまう。ところが、高いテンションのマシユマーは、そんな攻撃を受けても、「えーい、子供だましがい！」と、戦意を失わない。

とどめを刺そうと、スペース・ウルフ隊から発射されたメガ・ランチャーの集中砲火がザクⅢ改に降り注ぐが、ますます気力を高めるマシユマーの強化人間としてのオーラがバリアーとなつて、ビームをすべて跳ね返してしまう。



強敵クイン・マンサの猛攻を軽いなしてしまうザクⅢ改。マシユマーの気迫は恐ろしく凄まじい。



絶体絶命のピンチにあっても、マシユマーの高揚感
はとどまらない。そして、狂戦士の魂は果てる。

さらに、マシユマーは高揚。鬼神の様相を呈してきたザクⅢ改は、左腕を捕えていたドーベン・ウルフを、コードごとたくしあげて引きずり込むと、その頭部を握りつぶしてしまう。マシユマーの全身から溢れ出る戦意のオーラは、もはや人智を超えたパワーを発揮していた。「私はやられんぞ。このマシユマー・セロ、己の肉が骨から削ぎ取れるまで戦う！」。ザクⅢ改がまとった光は、徐々に膨張していく。

ついに臨界に達したマシユマーの魂は、強烈な爆光となつて戦場に輝き、砕け散る。その波動は戦場全体に響き渡り、ニュータイプたちは彼の死を感じとるのだった。

強化されたマシユマーは、ハマーンへの忠誠心だけを増幅した、偏った人物となつた。そして、ハマーンのためにと戦い、果てた。そんな彼の死に、ハマーンは冷徹にひとりつぶやく。「強化しすぎたか……。これで意のままに動かせるもち駒をひとつ失つたな」。マシユマーには、あまりにも無慈悲な言葉だが、ハマーンの真の孤独を感じさせる言葉であるともいえる。

呪縛を振りほどけなかった青年の最期

フルアーマーZZガンダム VS. クイン・マンサ

■思考と本心の狭間で苦しむブルツ―

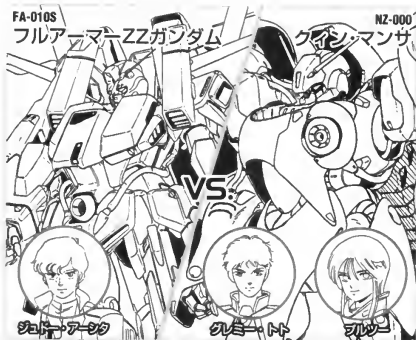
ネオ・ジオンの内戦は中盤にさしかかり、反旗を翻したグレミー・トト軍は、ニュータイプ部隊が駆る「量産型キュベレイ」部隊を投入。ブルツ―の「クイン・マンサ」とともに、サイコミュ兵器を駆使し、戦場を席卷していた。

そんな戦況にいらだつジュドー・アーシタは、装甲を強化した「フルアーマーZZガンダム」に乗って再出撃し、キャラ・スーンと、ブルツ―&ラカン・ダカランの戦いに割って入る。猛攻を仕掛けるラカンの「ドーベン・ウルフ」を新装備を駆使して追いつめたジュドーは、ついにドーベン・ウルフを撃破。さらにブルツ―を説得しようとするのだが、クイン・マンサはアクシズへと逃亡してしまふ。

実はブルツ―には先刻から異変が起こりはじめていた。それは、死んだブルの意識が、必死に彼女を止めようとしていて、ブルツ―は頭の中に入りこんでくるその

第46話 バイブレーション

エルピー・ブルの意識に諭されたブルツ―は、もがき苦む。彼女を救おうとジュドー・アーシタは、小惑星基地「アクシズ」に向かう。



声に悶絶していたのだ。

耐えきれなくなった彼女は、アクシズの中へ逃げこみ、参謀本部にいるグレミーのもとを訪れる。

そんな彼女を見たグレミーは、自らもクイン・マンサに乗りこんで、ブルツに「ガンダムを倒せば気分がよくなる」と、説き伏せる。グレミーの言葉に誘導されたブルツは、応援に駆けつけたルー・ルカの「Zガンダム」と、エル・ビアンノの「ガンダム Mk・II」に対し猛攻を仕掛ける。

周囲を破壊しながらの無差別攻撃はブルツの心のもがきを表すかのごとく苛烈で、ついにZガンダムは頭部を破壊され、ガンダム Mk・II

も稼働不能になってしまふ。

■救いの手を掴んだ少女、呪縛に沈んだ青年

そこへ、ようやくフルアーマーZガンダムがクイン・マンサのもとへ現れる。コクピットから出て、ジュードは必死にブルツを説得しようとし、彼女もまたそれを困惑気味に聞いていた。しかしそこへグレミーが割って入る。「お前こそ、正義なぞないのに、なぜ戦う!?」。思わず、言いよどむジュードだったが、彼の心に出会った仲間たちの言葉がよぎり、こう反論する。

「俺は間違いない、身勝手な人の独善に対して、みんなの意志を背負って戦っている」
「人間の可能性を、ちっぽけな自己満足のために潰されてたまるか!」。地球を愛し、平和を愛し、仲間を愛し、未来に向かって生きる。それが、彼が戦う理由だった。そして、その優しい魂の叫びは今、戦場だけでなく、地球圏にいるさまざまな人の心にまで届いた。

そしてジュードの思いは、ブルツの心をも大きく揺さぶった。



大義をかざすグレミーに対し、ジュードは自分なりの正義で反論する。



縛られた運命に固執するグレミー、幸せな居場所などない。だからプルツーは彼を見捨てたのだ。

しかし、あがくプルツーをグレミーは無理矢理クイン・マンサのкокピットに引き戻す。彼女の泣き叫ぶような感情の爆発は、クイン・マンサを動かし、メガ粒子砲の猛威はフルアーマーZZガンダムを吹き飛ばすが、ジュードはプルツーを救おうと突進を止めない。そんな彼の姿に気づき、プルツーはクイン・マンサのкокピットを開けて駆け寄り、ジュードの腕のなかに飛び込む。それは彼女が、やっと安住をつかみとった瞬間でもあった。

一方、グレミーはプルツーに見放され、茫然自失となりкокピットの前で天を仰ぐ。そこへ、閃光が走る。ZZガンダムのビーム・ライフルだ。

放ったのは皮肉にもグレミーを愛した女性、ルーだった。しかし、死ぬ瞬間、彼もまた解き放たれたような優しい顔をしていた。

もしかしたら、血統に翻弄され、野望にかられてしまったこの青年は、プルツー同様、自分にかみつく呪縛を誰かが断ちきってくれることを望んでいたのかもしれない。だから、愛した女性の手で死ねたことに、癒しを感じたのだろう。

ふたりの生き様が激突した最終決戦

強化型ZZガンダムVS. キュベレイ

第47話 戦士、再び

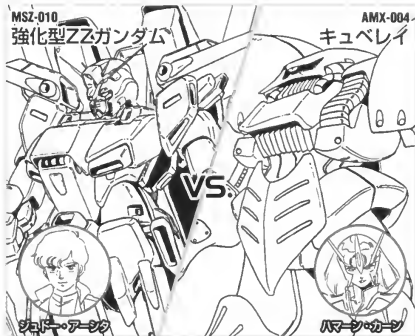
最終決戦が差しせまり、ジユドー・アーシタは、単機ハーマン・カーンと決着をつけるべくスペース・コロニー「コア3」へ向かう。

■激闘の舞台は、ふたりが出会った思い出の地

グレミー・トトが死亡し、ネオ・ジオンの内戦が終息するのは時間の問題だった。だが、ハーマン・カーンは、戦艦「ネエル・アーガマ」には一切攻撃せず、スペース・コロニー「コア3」の裏側で艦隊を陣どるだけ。明らかにハーマンは、ジユドー・アーシタと決着をつけたがついていた。それを感じたジユドーは、「強化型ZZガンダム」で戦闘空域へ出撃。そして、ハーマンも「キュベレイ」で出撃する。

ジユドーたちの対決は、一騎打ちとなった。決闘の舞台となったのはコア3の内。この地は、ジオン発祥の地であり、ふたりが初めて出会った場所でもある。

そんな地を決戦の場に残ったハーマンは、それまでの思いをぶつけるかのように強化型ZZガンダムに猛攻を仕掛ける。両者の攻防は激しく続いたが、ふいをつかれた強化型ZZガンダムは、キュベレイにうしろをとられ、ファンネルを正面に配



備される。

勝負が決まったかに見えた瞬間、ジュードは強化型ZZガンダムを分離させて攻撃をかわし、上半身だけでファンネルを斬り落とす。見事な切り返しだったが、すぐに小型戦闘機「ネオ・コア・ファイター」はキュベレイに吹き飛ばされ、トラブルを起こしてしまう。そこへ、とどめを刺そうとするハマーン。しかし、そこに戦争で死んでいった戦士たちの意志がジュードを守るように集結していく。

すると、動かなかったネオ・コア・ファイターが再び動きはじめ強化型ZZガンダムに合体するのだった。「人の思いが、人の意志が力と

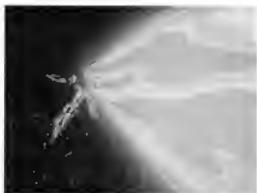
なっていくのか……」と、つぶやくハマーン。だが、人を信じられずに生きたハマーンが、それを肯定するわけにはいかなかった。

■孤独に溺れた女の、己を見つめる戦い

そんな彼女に説教するように、ジウドーは叫ぶ。「憎しみは憎しみを呼ぶだけだって、わかれ!」。そして、強化型ZZガンダムのハイ・メガ・キャノンが猛烈な光となってキュベレイにぶちあたる。

人の意志をエネルギーとするかのように、輝かしくも遅いそのビームは、あまりにも強烈で、ハイ・メガ・キャノンの砲門をも焼けただれさせる。「憎しみを生むもの、憎しみを育てる血を吐き出せ!」。「吐き出すものなど、ない」「自分の頭だけで考えるな!」。ハマーンは自らの意志のオーラで必死に防御していたが力負けし、コロニーの外壁へとぶつかってしまった。しかし、キュベレイは中破しながらも、まだ稼働していた。

強化型ZZガンダムは外へ逃げるようにして瓦礫の隙間を飛ぶ相手を追うが、隙間が途切れた先で、上方からキュベレイが猛然と襲いかかる。出合い頭の両者の斬



戦いの犠牲者となった人たちの意志が結集し、強化型ZZガンダムに強烈な力を与える。



ジュドーを強い子と表現するハマーンは、安らかな顔で最期を迎える。

り合い。戦慄が走り、静かなる刹那が訪れた。強化型ZZガンダムは左腕と左脚を失い、キュベレイは両腕と、下半身を失った。

ジュドーとハマーンは敵対しており、両者の考え方には大きな違いがあった。にもかかわらず、両者は憎しみあつたわけではない。なぜなら互いに、思うところを理解してくれる唯一の人物だと感じていたからだ。

ジュドーは当初大人に反発する生意気な少年だったが、人と出会い、人を信じることの大切さを学び、人間的に成長していった。一方のハマーンは、人が信じられない境遇に縛られ、すべての人を利用することしかできなかった。しかし心の中ではシャアの面影を追い求め、人にすることが、ことに渴望していた。

ハマーンにとって、本当はジュドーは理想の自分であつたのかもしれないが、それを認めることは今の自分を否定することになる。だから、潔く戦って負けたのだ。

彼女の最期の言葉は、安堵にも、懺悔にも聞こえる。「帰ってきてよかったよ……強い子に会えて……」。

ヤンチャ坊主の甘ちゃん正義が、大人を正す戦い

ジウドー・アーシタは、言動こそヤンチャな少年だが、もともと優しさに溢れた熱血漢である。彼の言動は一貫しており、目の前で困っている人は放っておけず、独善的な大人の汚さには徹底的に抵抗する。まさに典型的な正義漢だ。だが、当初それがどんな意味があるのか、なんてことは彼自身考えたりしたこともなかっただろう。しかし、戦場で多くの人と出会うことで、ジウドーは「こんな戦争は一刻も早く終わらせたい」と思うようになり、また自分なりの大義を見つけるようになっていく。みんなが争うことなく手を取り合えば、疲れきった今の地球だって救えるはず、と。彼にとって「第一次ネオ・ジオン戦争」という戦いは、彼自身を人間的に大きく成長させる茨の道であったと同時に、自分なりの未来を見つける旅路だったのだ。その道程のなか、彼はいつも、相手がわからず屋だと思えば敢然と抵抗し、説教し、怒りの拳をふりあげる。相手がわかりあえる、または戦争に翻弄された哀しい人だと思えば、たとえ敵であろうと救いの手を差し伸べる。それが彼の流儀である。

ジウドーがコクピットのハッチを開けて敵に生身をさらし、説得しようとした回数、アムロ・レイ、カミーユ・ビダンなどと比べると格段に多い。彼はブルやブルツ

ーだけでなく、はてはロンメルにまで救いの手を差しのべている。なんとも甘ちゃんな戦士だが、その優しさが彼の強さの原動力なのだ。

ところが、ジュードの言動や理屈は大人たちにとってみれば、実に子供っぽく稚拙で、現実を見ない理想論といえる。ジュードの言っていることはいわば正論なのだが、ときとして大人の社会ではなかなか受け入れがたい。ジュードが戦ってきたネオ・ジオンの人々は、特殊な環境のなかで性格が偏っていて、彼の正論を冷笑するような立場の人間ばかり。だからこそ、ジュードは彼らの前に立ちはだかる。間違っているのはどっちなのか。そういう問答の説法者的な存在として、ジュードはいるのだ。これは、彼の意識と共感しあうことができたハマーン・カインにとっても同じだった。しかし、彼女が自害に近い形で敗れたということは、彼女もどこかでジュードのピュアさを羨望していたということなのかもしれない。

そんなジュードは終戦後、軍人ではなく民間人として、木星の輸送船団という戦争とは無縁な職場に旅立つ。空港で、最愛の妹や仲間たちに見送られながら、彼は希望溢れる未来へと力強く歩み出す。つまり明るいハッピーエンドを迎えるのだが、そこに軍やニュータイプがどうこうという概念の入り込む余地はない。

なぜなら、ジュードの出した、単純明快にして、尊い答えにとつて、それらはまったく関係がないからだ。そう、人類はニュータイプでなくなつて、しっかりと地に足をつけて歩んでいけば、たくましく成長し、平和に生きられるのである。

第3章

機動戦士ガンダム

逆襲のシヤア

BATTLE

宇宙世紀0093年。地球近傍では度重なる戦火が繰り返され、宇宙には多くの難民があふれていた。しかし、増長し腐敗していた地球連邦政府は難民たちに目を向けることもなく、相変わらず地球に引きこもっていた。そんな彼らこそが戦争の源であると断じたシャア・アズナブル（本名、キャスバル・レム・ダイクン）は、新たな「ネオ・ジオン」総帥に就任。独自兵力を整備して地球連邦政府と対立していた。

一方、かつてザビ家の残党が組織したネオ・ジオンの残党狩りを目的に、連邦政府は外郭独立部隊「ロンド・ベル隊」を組織していた。

独自判断を許されているこの部隊はシャアの動きを察知し、独自の調査を行っていた。だが、その行動もむなしく、ネオ・ジオンの宇宙艦隊はついに戦闘行動を開始する。

Curasology

■ 5thルナ

小惑星地帯から資源採取のため、地球の衛星軌道に運ばれていた小惑星のひとつ。地球の寒冷化を図るため、ネオ・ジオンはまず、この小惑星を地球に落とした。

■ ネオ・ジオン

シャアが率いるネオ・ジオンは、かつて地球連邦政府に独立戦争を挑んだジオン公国、ならびにその残党が名乗ったネオ・ジオンと直接の関係はない。シャア・アズナブルが新たに建てた国といえる。

■ サイコ・フレーム

金属粒子サイズのコンピューターチップが封じ込められた新素材。コクピットのフレームに使うことで、サイコミュの機能をより高める働きがある。ネオ・ジオンで開発

されたものだが、アムロ・レイと対等に戦いたいと願ったシャア・アズナブルが、その技術をアムロの開発した新型モビルスーツ「ガンダム」に使われるように供与した。

■ サイコミュ

ニュータイプや強化人間の脳波を送受信することで、ある種の機動戦台であるファンネルやフィン・ファンネルを操ることができるシステム。

■ アクシズ

シャアが最後に地球に落とそうと試みた小惑星。もともとは小惑星帯に逃亡したジオン公国の残党が暮らしていた基地だが、ネオ・ジオンとして地球圏に帰還する際に使用した。

再び戦うことになった宿命のライバルの前哨戦

リ・ガズイ VS. サザビー

地球へ小惑星「5thルナ」を落とそうとするネオ・ジオン。アムロ・レイたち「独立部隊ロンド・ベル」はそれを止めようと戦う。

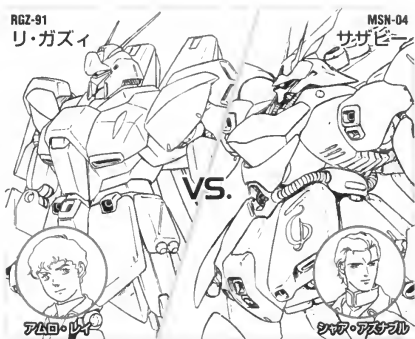
■宿敵との再会

資源採掘のための小惑星「5thルナ」の周辺では、5thルナを地球へ落とそうと目論むネオ・ジオン軍と、それを阻止しようとする地球連邦軍の外郭独立部隊「ロンド・ベル」とのあいだで、激しい戦いが繰り広げられていた。

ネオ・ジオンの総帥シャア・アズナブルは、これまでの経験から地球に住む人々の姿に絶望し、人類を強引に宇宙へあげてニュータイプとしての覚醒をうながそうと考える。

そして、新たにネオ・ジオンを結成すると、スペース・コロニー「スウィート・ウォーター」へ武力進駐し、地球連邦政府に宣戦布告。同時に、地球に隕石を落とすとして人が住めない環境にしようとする、「地球寒冷化計画」を発動したのだった。

5thルナを地球へ落とす作戦は、ネオ・ジオンにとって計画の第一段階にすぎな



かったが、シャアが生きていると信じていなかった地球連邦軍は完全に対応が遅れた。

戦いはネオ・ジオン軍が優勢に進めており、5ヵ所にとり付けられた核ノズルが点火。地球へ向けて加速をはじめてしまう。

そこでロンド・ベルのモビルスーツ隊を率いるアムロ・レイは、モビルスーツ「リ・ガズィ」で出撃。ネオ・ジオンの強化人間ギニュー・ガスが搭乗する「ヤクト・ドーガ」を、追い詰めつつあった。

しかし、リ・ガズィが放ったビーム・ライフルがヤクト・ドーガをとらえようとした瞬間、救援に現れた「サザビー」の放ったビームによっ

て撃ち消されてしまう。真紅に塗り上げた「サザビー」を見て、アムロはシャアの機体だと確信。牽制にモビルスーツ型のダミーバルーンを放出すると、サザビーに攻撃をくわえる。

一方、サザビーとヤクト・ドーガはり・ガズィに接近しようとするが、ヤクト・ドーガはダミーに仕掛けられていた機雷にかかって大きく損傷を受け、足止めされてしまう。

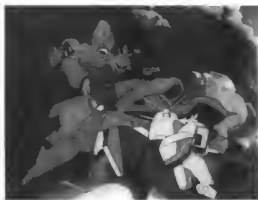
その間に、サザビーはり・ガズィと対峙。シャアとアムロ。かつては共闘したこともあるふたりの英雄は再び敵と味方に分かれて戦うことになった。

■あえてアムロ・レイを見逃したシャア・アズナブル

シャアの真意を確認するためか、隕石を地球に落とす理由を問いたですアムロ。しかし、シャアは「地球に住む者は自分たちのことしか考えていない。だから抹殺すると宣言した!」と返答し、決意を見せつけるかのようにり・ガズィに向けてビーム・ライフルを放つ。



り・ガズィは、「リファイン・ガンダム・ゼータ」のことでZガンダムの量産を目指した機体だった。



リ・ガズィがアムロにふさわしくないと判断したシャアは、サザビーで手を抜いた戦いをする。

なおも糾弾しつつビーム・サーベルで斬りかかるアムロに対し、シャアには本気でリ・ガズィを撃破しようという姿勢が見られない。

傷ついたヤクト・ドーガでサザビーを追っていたギユネイも、「大佐。何でファンネルを使わないんですか？」と、いぶかしげな表情を浮かべ、サザビーを援護しようとシールドの4連装メガ粒子砲を発射する。

しかし、メガ粒子砲はリ・ガズィにあたることなく逆に、ヤクト・ドーガは返撃を受けて被弾。シャアが気をとられた隙に、リ・ガズィは撤退していく。

シャアもまた、追撃をうながすギユネイに帰還を指示して戦いは一端終息する。

5thルナはチベットのラサに落下し、シャアの作戦の第一段階はひとまず成功した。

しかしシャアは、対等のモビルスーツに乗ったアムロと戦い討ち破ることを望んでおり、ここでは性能で劣るリ・ガズィに乗ったアムロをあえて見逃したのだった。

愛する少女を守れずに散った強化人間

レガンダムVS.ヤクト・ドーガ

■人質を使い、アムロ・レイに武装解除を迫る

ネオ・ジオン軍によって小惑星「5thルナ」が地球に落とされたのち、ネオ・ジオンの総帥シャア・アズナブルは地球連邦政府の高官と極秘会談を行い、偽の和平条約を結んだ。この会談はネオ・ジオンが武装解除を条件に、連邦政府より小惑星「アクシズ」を買いとるというものだった。無論、その真の用途は「地球寒冷化作戦」を完成させるべく、地球へ落下させるためのものだった。

しかし安穩とした連邦政府高官が、シャアの目論みを見破れるはずもなく、連邦軍の外郭独立部隊「ロンド・ベル」が、シャアの動きを独自に警戒するのみだった。結局、ネオ・ジオン軍は全艦隊をふたつに分けると、武装解除を装った艦隊を連邦軍の宇宙基地「ルナ2」へ向けるとともに、アクシズの攻略を行い、ルナ2とアクシズの両方を制圧してしまう。

小惑星「アクシズ」が地球へ落とされつつあるなかでの乱戦。そこでアムロ・レイはギュネイ・ガスと運命的な戦いを交わす。



ロンド・ベルはアクシズを奪還すべく急行するが、到着したときはすでに、ネオ・ジオン軍は地球に落下させるための核ノズルの調整を終えようとしていた。急ぎケーラ・スウの「リ・ガズィ」を先鋒にモビルスーツ隊を発進させるが、結局核ノズルは点火され、「アクシズ」は動き出してしまふ。

艦隊からのミサイル攻撃と同時に、モビルスーツ隊を発進させるロンド・ベル。対するネオ・ジオン軍もルナ2攻略に向かった部隊が応援に駆けつけ、乱戦の様相を呈す。

そんななか、ネオ・ジオン軍の強化人間ギニー・ガスが駆る「ヤクト・ドーガ」は、リ・ガズィを発

見。ただちに攻撃に移り捕獲に成功する。そして、遅れて現れたアムロ・レイの「**νガンダム**」に対し、ケーラを人質に武装解除してガンダムを放棄するよう要求する。

ケーラはリ・ガズイのコクピットを開いてアムロに戦うよう呼びかけるが、それが裏目にててヤクト・ドーガに掴まれてしまう。ケーラを握り潰さんという様子に、アムロは要求通りフィン・ファンネルとビーム・ライフルを放出するが、板状のフィン・ファンネルはギュネイの目には武器に見えない。「ふざけるな！ 放熱板がなんだっていうんだ！アムロは殺せ!!」と、νガンダムをワイヤーで捕らえていた2機の「ギラ・ドーガ」に電流を流させる。すると切り離れたフィン・ファンネルが、アムロの精神に感応してコの字型に変形しビームを発射。それに激高したギュネイはケーラの命を絶つ。

■ 2機でνガンダムを追いこむも撃破される

ケーラを死なせてしまった感傷に浸る間もなく、再び出撃するアムロ。一方のギ



ギュネイはシャアを倒し、クェスを手に入れるためにνガンダムを欲した。



今までになく大型のフィン・ファンネルは、その分稼働時間も長く、汎用性に富んでいたようだ。

ユネイもまた、ヤクト・ドーガに乗りこみ、モビルアーマー「^{アムロ}a・アジール」に搭乗したクエス・エア（クエス・パラヤ）とともに出撃した。

最初にVガンダムを捕捉したのはa・アジールだったが、まだ子供同然のクエスの攻撃はまったくアムロに通用しなかった。しかし、そこにギユネイのヤクト・ドーガが到着し、2機でVガンダムを攻め立てる。

「やられる!」。ヤクト・ドーガとa・アジール、2機のファンネルが一斉に襲い掛かったそのとき、フィン・ファンネルがVガンダムを包み込むようにバリアを展開。ふたりの攻撃を凌ぎきった。

その後も、ギユネイとクエスはアムロのVガンダムと交戦を続けるが、あくまで強気に攻めるクエスのa・アジールは被弾し、有線サイコミュ式メガ・アーム砲を破壊された。

ギユネイはすかさず援護射撃を行うが、アムロは攻撃をシールドで受けつつ、バズーカを置いて幻惑。ギユネイの注意がそれた瞬間を狙い撃ち、ギユネイは爆散するヤクト・ドーガとともに散っていった。

宿命のライバルふたりがすべてをかけた最後の激闘

レガンダムVS.サザビー

■アクシズをめぐる激しい攻防

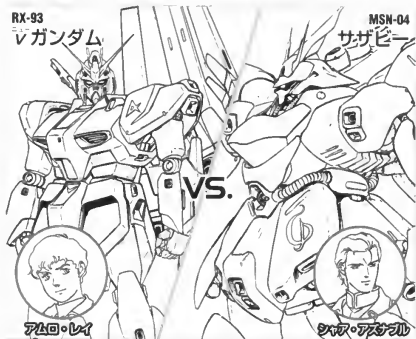
ネオ・ジオンの総帥シャア・アズナブルは、地球に人を住めなくする「地球寒冷化計画」の総仕上げとして、小惑星「アクシズ」を地球へ降下させようとしていた。シャアの企みに気づいた地球連邦軍の外郭独立部隊「ロンド・ベル」は、アクシズに急行してなんとかそれを食い止めようとしていた。

しかし、ネオ・ジオン軍も防衛体制を整えており、ついにアクシズの核ノズルが点火。地球へ向かって降下をはじめてしまう。

これまでの戦いで、ネオ・ジオン軍ではレズン・シュナイダーや強化人間ギユネイ・ガス、元民間人のクエス・エア（クエス・バラヤ）が、一方のロンド・ベル隊ではケーラ・スウやチェーン・アギなどが命を落としていた。

そしてアクシズをめぐる戦いは最終局面を向かえ、アムロとシャアの直接対決が

小惑星「アクシズ」落としを目論むシャア・アズナブルと、その阻止を図る独立部隊「ロンド・ベル」。ついに最後の戦いがはじまる。



今まさにはじまろうとしていた。

アクシズを破壊するために用意していた核ミサイルを、すべて迎撃されたロンド・ベル。旗艦「ラー・カイルム」の艦長ブライト・ノアは、アクシズ内部に爆弾を仕掛けて内側から爆破する作戦を立てると、艦をアクシズに乗りつけた。

一方、「Vガンダム」で出撃したアムロはギユネイの「ヤクト・ドーガ」撃破後に、外から核ノズルを破壊しようとしてアクシズ表面に接近。しかしそこへ、シャアの「サザビー」が現れる。

「アクシズのノズルには接近させん！」。ライバルであるアムロを見つけたシャアは、勇んで迎撃に向か

う。しかし、アクシズを止めることを最優先にしていたアムロは、まともにシヤアと戦おうとはしない。

アムロは遠隔操作によるバズーカでの射撃など、サザビーの攻撃をかわしつつ足止めして距離を離すと、不自然な位置に放置されているムサカ級軽巡洋艦を発見した。このムサカには、ネオ・ジオン軍が連邦軍の宇宙基地「ルナ2」を制圧したときに入手した、核兵器が搭載されていた。シヤアは、大気圏内でムサカを爆破することで、放射能によって地球を汚染しようと考えていたのだ。

「そうか！ シヤアめ！」。シヤアの目論見に気づいたアムロは、ビーム・ライフルを撃ちこむ。ようやく追いついたシヤアは、サザビーのファンネルを飛ばしてムサカの破壊を阻止しようとするが、時すでに遅くムサカは搭載した核兵器もろとも爆散するのだった。

巨大な核の爆発によって、再びνガンダム姿を見失うシヤア。その間に、アクシズの後方へ回りこんだνガンダムは核ノズルを破壊しはじめ。

ムサカばかりかアクシズの核ノズルまで止められはじめ、さらにラー・カイラム



シヤア専用開発されたサザビーとアムロ専用のνガンダムの激突は、白兵戦にもつれ込む。



アクシズ内部で生身で戦うふたりは、アムロはバズーカで、シャアは腰のランチャーを使った。

がとりついている。

「アムロ！ これ以上はやらせん!!」。この状況に、シャアはようやく本気になる。迎撃に出てきた5機の「ジェガン」を瞬く間に撃破し、νガンダムに襲い掛かった。ビーム・ライフルで応戦するνガンダムに対し、サザビーはビーム・トマホークを投げつけてビーム・ライフルを破壊。しかし、ビーム・サーベルを抜いて突進してきたνガンダムによって、サザビーもビーム・ショットライフルを破壊される。

ともに射撃武器を失った両機は接近戦を開始。サザビーは両手にビーム・サーベルを構え、高速で斬りかかる。νガンダムも巧みに防戦しながら二刀流で応戦しようとするが、左腕のビーム・サーベルを斬り飛ばされる。νガンダムはバルカンで牽制すると、身を翻して仕切り直しをはかるのだった。

■真っ向から激突するふたりの主張

アムロとシャアが激しく戦っていたころ、ブライトたちは爆弾の設置を終えて、アクシズの内部から退避。ラー・カイラムはアクシズから離れていく。

シヤアの目から逃れたアムロは、νガンダムを降りてアクシズ内部へ侵入。フライトたちが作業中かを確認するとともに、シヤアを誘いこんでバズーカでしとめようとするが、かわされてしまう。

無線機を利用し、シヤアに革命についての理を説くアムロ。「私は世直しなど考えていない!」。怒声とともに腰のランチャーを放つシヤア。

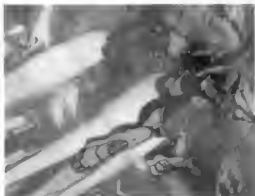
この攻撃でヘルメットを損傷したアムロは、νガンダムに戻って退避しようとするが、シヤアはサザビーですばやく追撃に入り、アクシズからの離脱を許さない。

しかし、2本のビーム・サーベルで斬りかかったサザビーは右手を破壊され、左手のビーム・トマホーク1本で戦うことになる。

互いに決定的な一撃を与えられないまま、両機はビーム・サーベルすら失って壮絶な殴り合いとなる。「貴様がいなければ!」。押されている状況に思わず叫ぶシヤア。しかし、劣勢を跳ね返すことができず、アクシズ表面に叩きつけられたシヨックでサザビーの脱出ポッドが飛び出してしまい、ふたりの勝負は決した。



νガンダムの拳の連打にサザビーは撃破され、コクビットごと脱出したシヤアはアムロに捕獲される。



敵味方関係なく、爆装しているモビルスーツまでが
νガンダムとともにアクシズにとりついた。

■ νガンダムという名の奇跡

アムロとシャアの勝敗が決したところ、アクシズ内部の爆弾が作動してアクシズは前後に割れはじめた。ところが、爆発の衝撃が強すぎたためにうしろの半分が地球へ落下することが判明。「ふははは、私の勝ちだな!」。脱出ポッドをνガンダムに捕らえられながらも、高笑いとともに勝利宣言をするシャア。

しかし、ここであきらめるアムロではなかった。アムロは、落下をはじめたアクシズの前面に回りこんでシャアの脱出ポッドをアクシズ表面にめりこませると、νガンダムで押し戻そうとする。

あまりの行動にアムロの正気を疑うシャアだったが、アムロはキツパリと言い放つ。「νガンダムは、伊達じゃない!」。これに呼応するかのように、νガンダムからサイコ・フレームの光が広がりはじめ、やがてアクシズを包みこむ。

そして、多くの人々が見守るなか、アクシズはゆっくりと地球から離れていくのだった。

外交・軍事力を駆使した戦いと、登場人物たちの魂の激突

アムロ・レイとシャア・アズナブルの雌雄を決した一連の戦い。のちに「第二次ネオ・ジオン戦争」といわれるこの戦いは、その被害の割に戦いの規模はそれほど大きくはなかったといえる。地球連邦政府にとって「ネオ・ジオン」の兵力は無視できるものではなかったが、麾下の外郭独立部隊「ロンド・ベル」一隊で押さえ込むことができたからだ。その証拠に地球連邦軍は、ロンド・ベル以外の兵力はほとんど戦闘に参加していない。ただそれはスペース・コロニーの各サイドに駐留している艦隊が、ネオ・ジオンの行動に呼応して叛乱が起きることを恐れていたからという側面もある。いずれにしても、官僚主義におちいった連邦政府や連邦軍高官の危機管理能力の低さがこの戦争の引き金になったことは否めないだろう。

ネオ・ジオンが前半有利な戦いができたのは、戦いがはじまるまえにシャアがつくり出した政治的な状況による。単に武力を用いて決起するのではなく、ネオ・ジオンをひとつの国家として連邦政府に認めさせ、外交交渉の場に引きずり出す。さらに小惑星「5thルナ」を地球に落としたうえで、連邦政府と交渉を行う。ここでネオ・ジオン艦隊の武装解除、大量の金塊による小惑星「アクシズ」の買収という好

条件を提示し、最低限の労力でアクシズ落としを敢行できる状況をつくる。

その結果、シャアは投降のふりをしてやすやすと小惑星「ルナ2」の連邦艦隊を撃破し、ルナ2に保管されていた大量の核弾頭を入手することに成功した。

これに対し、ロンド・ベルはあくまで地球連邦軍の一部隊にすぎない。部隊としてかなりの自由がまかされているとはいえ、その行動は後手後手に回るしかなかった。それでも、ロンド・ベル司令官のブライト・ノアはアデナウアー・バラヤ参謀次官の言葉をとり、独自の行動をとれるようにする。

ネオ・ジオンとロンド・ベル、双方ともに政治という見えない力で丁々発止の戦いを繰り広げていたのがわかる。

実際の戦闘は、5thルナ落としをめぐる戦い、先にあげたネオ・ジオン艦隊による連邦軍ルナ2艦隊への奇襲、そしてアクシズ落としをめぐる戦いと都合三度しか行われていない。これらの戦いは精鋭同士の激突ということもあり、激しい乱戦となった。だがその個々の戦いは単なる戦闘というより、各人が自身の主張を相手にたたきつける場と化していた感もある。

そのなかでとりわけ目立ったのは、初めてサイコミュを搭載したガンダム、「レガンダム」に乗りこんだアムロの活躍であろう。フィン・ファンネルでバリアーを張るなど、単にファンネルで敵を攻撃する以上の働きを見せ、最後にはアクシズの落下を阻止すらししてしまう。まさに「レガンダムは伊達じゃない」のである。

第4章

機動戦士ガンダム

F
91

BATTLE

宇宙世紀0123年。シャアの叛乱と呼ばれた「第二次ネオ・ジオン戦争」のあと、30年の時が流れ、地球連邦政府は腐敗の一途をたどっていた。

ある日、スペース・コロニー「フロンティアⅣ」は、突如飛来したモビルスーツ部隊に襲われる。貴族主義をかける「クロスボーン・バンガード」が、理想国家「コスモ・バビロニア」建国による地球圏支配を目標に決起したのだ。

実戦の経験を持たず、弛緩しきっていたフロンティアサイド駐留の地球連邦軍は、クロスボーンの精鋭部隊に、次々と撃破されていった。

連邦軍の練習艦「スペース・アーク」に逃げこんだシーブック・アノーは、搭載されていた「ガンダムF91」のパイロットとなり、仲間たちとともに生き延びるため戦うことになる。

Phrasology

■ フロンティアサイド

月と地球のあいだに位置するスペース・コロニー群のうち、「サイド4」に新設されたコロニー群の総称。

■ 小型モビルスーツ

この時代のモビルスーツは、サナリィ（海軍戦略研究所）の提唱により小型化が進んでいた。それによりジェネレーター出力比が大幅に向上し、余裕のできた出力を前提としたビーム・シールドとヴェスパーなどの武装が開発された。

■ シーブック・アノー

スペース・コロニー「フロンティアⅣ」に住む高校生。クロスボーンの侵攻により、試作モビルスーツ「ガンダムF91」の臨時パイロットに選任される。

■ クロスボーン・バンガード

マイッツァー・ロナを総帥とし、義理の息子のカロッソ・ロナ（鉄仮面）によって統率される戦闘集団。「コスモ貴族主義」を標榜、地球連邦政府の腐敗と一般市民の墮落をただし、高潔な貴族的責任感と正しい能力をもった人間による統治を、地球圏にもたらすことをめざす。

■ セシリー・フェアチャイルド

カロッソ・ロナの娘ベラ・ロナに与えられた偽名。継父シオ・フェアチャイルドのもと、普通の高校生としてシーブック・アノーと同じ学校に通っていた。クロスボーン侵攻の際、義兄ドレル・ロナによって理想国家「コスモ・バビロニア」建国の偶像となるべく、ロナ家に連れ戻される。

「貴族主義」をにかけて侵攻を開始したクロスボーン・バンガード

クロスボーン・バンガード部隊 VS. 地球連邦軍部隊

クロスボーン・バンガードは、スペース・コロニー「フロンティアサイド」へと侵攻。奇襲を受けた地球連邦軍がこれを迎え撃つ。

■平和なスペース・コロニーを襲う謎のモビルスーツ部隊

その日、スペース・コロニー「フロンティアサイド」に属する「フロンティアⅣ」に、コスモ貴族主義をかけるクロスボーン・バンガードの小型モビルスーツ部隊が静かに飛来した。

「敵だつて!」「反乱軍は万全の用意をしてきたんだろ? 抵抗は無理だよ」。突然攻撃を受けたフロンティアⅣの駐留地球連邦軍は、スクランブルをかけたが、30年もの平和におぼれ、実戦に不慣れだった。

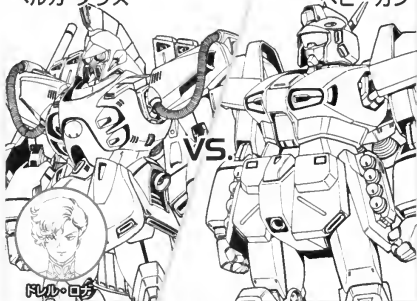
上空から急降下したクロスボーン部隊の「デナン・ゲー」は、自機よりひとまわり大きい連邦軍の旧式モビルスーツ「ジェガン」の頭を蹴り飛ばして沈黙させる。「デナン・ゾン」は連邦軍の小型モビルスーツ「ヘビーガン」の構えたビーム・ライフルを破壊、コクピットを槍状のショット・ランサーで貫く。

XM-04

ベルガ・ダラス

RGM-109

ヘビーガン



機動性に優れるクロスボーンのモビルスーツ部隊は、マイクで一般市民への攻撃はしないと呼びかけ、連邦軍のモビルスーツを爆発させないよう巧みに駆逐していった。

それに対して連邦軍は、モビルスーツをコロニー内に乗り入れて太陽光とり入れのガラス面を破壊したり、群衆の近くでモビルスーツの実弾兵器を使って人々を死にいたらしめたりと、やみくもな反撃で市街地を戦場化していく。

さらには「子供を盾にすれば、敵は攻撃してこない」と、民間人を盾にしつつ、資源エリアであるスペース・コロニー「フロンティアI」へと逃げこんでいった。

■攻撃大隊を率いる若き騎士

連邦軍はフロンティアへの侵攻を開始したクロスボーン部隊を殲滅するべく、月から援軍の艦隊を派遣してきた。対するクロスボーンは、総帥の孫であるドレル・ロナが「ドレル大隊は途中の妨害を無視して、隕石がわへ直進する。我のフラッグに続け！」と、愛機である「ベルガ・ダラス」の背にビーム・フラッグを翻すと、モビルスーツ大隊がこれに従って、正々堂々と正面から向かっていく。

「海賊ごときにフロンティア・サイドを好きにさせるなよ！」。連邦軍艦隊は艦砲射撃で応戦、ドレル大隊が牽制のため発射しておいたダミー・バルーンに命中する。

「早い！」。一瞬驚くドレルだったが、即座に頭を切り替えると、ビーム・フラッグをたたみ、敵防衛線の側面へ回りこむよう隊に命令を下し、自ら先陣を切ってスラストを噴かす。左腕に装備した高性能の盾、ビーム・シールドを展開し、回りこもうとするドレル配下のモビルスーツ大隊に、連邦軍艦隊からミサイルとビーム砲



武器としてではなく、自家の紋章をビームでかかげるモビルスーツ。貴族的精神とプライドの表れだ。



ジェガンに撃ちこまれたショット・ランサー。モビルスーツの装甲を簡単に貫通する威力をもつ。

撃の雨が降りそそぐ。一部の機体はビーム・シールドをすり抜け破壊されたが、鍛えあげられた大半の機体は、その機動力で砲火を抜けると作戦どおりの位置に到達。連邦軍艦隊に襲いかかった。ドレルは手近にいる敵戦艦に上空から3発のビーム砲を撃ちこみ沈めると、指揮する部隊に再度指示を下した。「モビルスーツ1機といえども逃すなよ、各員それぞれに手柄をたてよ!」。

先陣を任された若き貴族の指揮官は、その威厳をもった振る舞いで自らの部隊を鼓舞した。そしてベルガ・ダラスの背中にマントのようにとりつけられている高機能バーニア、シエルフ・ノズルの機動性を活かして、敵モビルスーツのあいだをすり抜けていく。

ドレル機に翻弄された連邦軍のモビルスーツ部隊に、ドレルの部下たちが射出したショット・ランサーが、騎士の突き出す槍のように次々突き刺さっていく。

高機動と重武装の両立を実現したモビルスーツを駆るドレル大隊は、その能力を存分に発揮、連邦軍の援軍艦隊を見事沈黙させてみせたのである。

高性能機ならではの緊迫した高速戦

ガンダムF91 VS. ビギナ・ギナ

■立場が違うゆえの戦い

クロスボーン・バンガードの襲撃により、駐留の地球連邦軍と民間人が逃げこんだスペース・コロニー「フロンティアI」は、小惑星上に建設された資源開発用コロニーで、円筒の片側は鉦山ブロックとなっている。

鉦山側の防衛線がクロスボーンに突破されたことから、フロンティアIの中に隠れていた連邦軍練習艦「スペース・アーク」は、シーブック・アノーを搭乗させた試作モビルスーツ「ガンダムF91」らを防衛のために出撃させた。

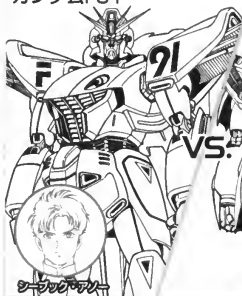
「なんでこんなところにくるんだよ!」。シーブックは、できればクロスボーンのモビルスーツとの交戦は避けたかったが、スペース・アークにいる妹や友人たちを守るためには戦わざるをえず、敵モビルスーツを撃墜していく。

そこへ破損機を守るように白銀の「ビギナ・ギナ」が突撃してきた。操縦者はシ

スペース・コロニー「フロンティアI」の地球連邦軍を掃討するべく突入したベラ・ロナは、シーブック・アノーと激突する。

F91

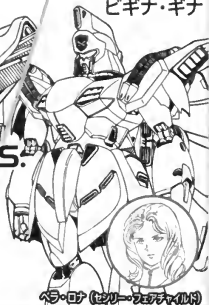
ガンダムF91



シーブック・アソー

XM-07

ビギナ・ギナ



ベラ・ロナ (ゼリー・フェアチャイルド)

■高性能機同士の高速戦

ーブックの同級生、セシリー・フェアチャイルド（本名、ベラ・ロナ）。ロナ家に連れ戻されたセシリーは本名であるベラ・ロナに名前を戻し、クロスボーンの偶像として、前線へ出てきていたのだ。シーブックとベラは、ともに相手が同級生とは知らずに戦うことになる。

眼前をかすめたビギナ・ギナを、シーブックはガンダムF91に搭載された可動式大型ビーム・ライフル、ヴェスパーで狙う。しかし、ビギナ・ギナは背から左右に4本ずつ伸びた高機能バーニア、フィン・ノズルで、ヴェスパーをすばやくかわし、

すかさずビーム・ライフルを3連射する。シーブツクはガンダムF91を厚い雲に飛びこませてそれをかわし、相手の予想外の方向から攻撃する。

「しまった!!」。ペラは裏をかかれたと知り、振り向きざまにビーム・ライフルを撃つが、逆にコクピットのハッチ・カバーをヴェスバーのビームに弾き飛ばされる。「くうっ」。衝撃に身をすくめつつ、ペラはビギナ・ギナを雲に隠す。

そのままビギナ・ギナを追うガンダムF91だったが、あまりの高速戦のために右側ヴェスバーは銃身がぶれ、トリガーを引いても射撃できない。シーブツクはガンダムF91の右腰部から予備のビーム・シールド発生器をとり出し作動させると、ビギナ・ギナへと投げつけた。ビーム・シールドを展開させて、回転しながら円盤のように飛んでいく発生器。ペラはそれに気をとられて撃ち落とす。

加速して間合いを詰めたガンダムF91は、ヴェスバーをビギナ・ギナのコクピットに突きつけた。「きゃあー!」。一瞬のことに、ひきつり悲鳴をあげるペラ。

「ペラ様ー!」。その窮地に、はぐれていた護衛の「デナン・ゲー」が死角から突進



右腰部装甲にひとつだけ収納されている予備ビーム・シールドを、展開して投げるガンダムF91。



ガンダムF91は、動力炉と直結した高出力ビーム・ライフル、ヴェスパーをビギナ・ギナに突きつけた。

してくる。ガンダムF91はシールド・アタックをまともに受けるが、ビーム・サーベルで反撃。構えた腕ごと腹部を斬られたデナン・ゲーは、地表に向かって墜落していく。

間一髪のことには息をつくシーブックの目に、ビーム・ライフルを構え、間近までセマッタビギナ・ギナが映った。死の恐怖がシーブックの顔をこわばらせる。

しかし、ガンダムF91に接触するだけで、ビギナ・ギナは攻撃をしてこない。「その息づかい、シーブックでしょ?」。不安げな声が呼びかけてくる。

シーブックが驚き向き直ると、ビギナ・ギナはハッチを開ける。そこには、ロナ家に連れ戻された同級生、セシリーがいたのだ。

セシリーはシーブックたちと離ればなれになった不安から、ベラ・ロナとして生きようとしただけだと告白する。

「私はまだ、セシリー・フェアチャイルドよ!」。その叫びに、シーブックは優しくセシリーを迎え入れるのだった。

「悪魔の花」を駆る鉄仮面との戦い

ガンダムF91／ビギナ・ギナVS.ラフレシア

■宇宙に咲く血の花、深紅の巨大殺戮兵器

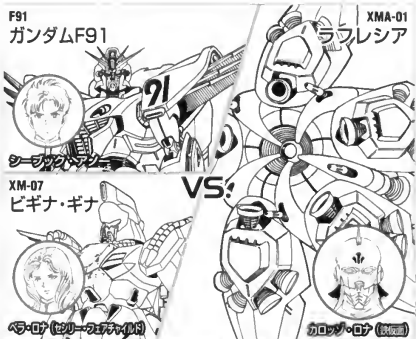
スペース・コロニー「フロンティア」での、無人機「バグ」による人間殺戮実験を、娘ベラ・ロナ（別名、セシリー・フェアチャイルド）に妨害されたカロッゾ・ロナ（鉄仮面）は、怒りを胸に巨大モビルアーマー「ラフレシア」で出撃した。

「来た!」。ラフレシアが自分たちを捕捉したと気づいたシーブックは、「ガンダムF91」でセシリーの「ビギナ・ギナ」を押しあげて上昇し、不意打ちのメガ・ビーム・キャノンの掃射をかわす。

その攻撃に父、鉄仮面の意志を感じとったセシリーは、シーブックの制止を聞かず突撃する。ビギナ・ギナの機動性を活かした回転飛行で、乱射されるメガ粒子砲をかわしながら、ビーム・ライフルとビーム・ランチャーをたたきこむ。

しかしラフレシアはビームの直撃を簡単にはじき、その動きを止めない。一旦後

極秘裏に開発されたクロスボーン・バンガードの超大型モビルアーマーが「ガンダムF91」と「ビギナ・ギナ」にせまる。



退するセシリー。

■人の道を外れた父に挑む娘

ビギナ・ギナとラフレシアのあいだに割りこんだガンダムF91に対し、鉄仮面はラフレシアの花びらのような5枚の装甲を広げると、その内側から触手型兵器、 TENTAKULAR・ロッドを伸ばして攻撃する。触手先端から撃ち出されるビームをかわすガンダムF91に、本体のメガ粒子砲を乱射するラフレシア。

ガンダムF91は破壊されたスベース・コロニーの中に入り、廃墟となったビル群の中に紛れこむ。ビルに阻まれながらも、ラフレシアは執拗にガンダムF91を追い回す。そのラ

フレシアをセシリーのビギナ・ギナがビル陰に隠れながら追う。

セシリーは感情を抑えるために強化人間となり、仮面をかぶって反人道的な作戦を遂行する父を許せないのだ。

「血縁は自分の手で断ち切る！」。セシリーはラフレシアが接近するのを待ってビル陰から飛び出し、ビギナ・ギナを鉄仮面のいるコクピット部へ急速接近させる。

「あそこがコクピット」。その名のごとく大きな花を模した巨大モビルアーマーは、コクピットが花びらの中央部にむき出しとなっていた。コクピットに座る鉄仮面を視認したセシリーは、「やはり。ならばこの手で！」と、ビギナ・ギナ左腕のビーム・ランチャーを投げ捨てると、ビーム・サーベルを抜き突撃をかけた。

接近するビギナ・ギナに気づいていた鉄仮面は、 TENTACULAR・ロッドでビギナ・ギナを弾き返すと、触手先端に装備された回転ノコギリでビーム・ライフルを持つ右腕と頭部センサー、左右下部のフィン・ノズル4本を斬り落とした。



その名の通り大輪の花のようなラフレシア。内側に125本の触手型兵器、TENTACULAR・ロッドをもつ。



テンタクラ・ロッドで身動きを封じられたビギナ・ギナを、回転ノコギリが襲う。

セシリーはテンタクラ・ロッドをビーム・サーベルで切り裂き応戦するが、多数のテンタクラ・ロッドを同時に振り回すという人智を超えた攻撃方法に恐怖する。ビギナ・ギナを打ちすえようと再び振り下ろされるテンタクラ・ロッド。それをビーム・サーベルで斬り落としたガンダムF91が、破損したビギナ・ギナをかばうようにラフレシアの前に立ちはだかる。

なおも攻撃しようとするセシリーのビギナ・ギナを守りつつ、ビーム・ライフルで応戦するガンダムF91だったが、戦場で拾いあげた敵モビルスーツ「デナン・ゲー」のビーム・ライフルでは威力に欠けていた。

「人がつくったものなら!」と、接近を続けるセシリーのビギナ・ギナだったが、ついにテンタクラ・ロッドに巻きあげられ身動きができなくなってしまう。そのままラフレシアのコクピット前へと運ばれるビギナ・ギナ。

祖父マイツァー・ロナの唱える「コスモ貴族主義」から外れた行いをしている父を非難するセシリに、「人類の十分の九を抹殺しろと命令されれば、

こうもなろう」と、鉄仮面は開き直るのだった。

■ガンダムF91の新たな力

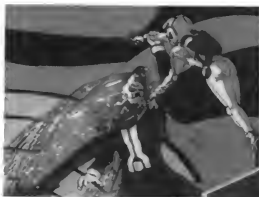
鉄仮面はビギナ・ギナのcockピット・ハッチを破壊、自らの手によってセシリーを宇宙へとつかみ出す。「つくづく女というものは御しがたいな」。

「なに!」。その状況を見て、焦るシーブツクの感情に呼応するかのように、ガンダムF91の肩部フィンが展開、マスクが開いた。高出力状態で飛びまわるガンダムF91の装甲表面が、熱により重金属分子の剥離現象を起こし、質量をもった残像をつくり出す。

ラフレシアのテナクラー・ロッドはその現象に反応できず残像を撃つ。

ラフレシアと一体化している鉄仮面は、ガンダムF91の残像をセンサーで捕らえ「何機いるのだ、敵は!」と困惑。驚きのあまりセシリーを宇宙空間に放り投げてcockピットに戻りガンダムF91を狙うが、テナクラー・ロッドでガンダムF91の右足を斬り落とすのがやっとだった。

セシリーの呼びかけで、ラフレシア近くを漂う無人ビギナ・ギナを狙撃したシー



サイコミュを搭載し、脳波コントロールで動くラフレシアと有線で直結されている鉄仮面。



ガンダムF91の高機動モードによる高速飛行。装甲表面の剥離現象が起こり、分身して見える。

ブックは、その核爆発でラフレシアの花びらの1枚を破壊することに成功する。混乱した鉄仮面は冷静さを欠き、残ったすべてのテナクラー・ロッドからビームを乱射してガンダムF91を追う。その攻撃にビーム・サーベルを持つ左手を撃ち落とされるが、シーブックは「なんとー!!」と、気迫をこめてラフレシアへと突撃。ガンダムF91をコクピットに座る鉄仮面の眼前にまで急接近させた。

「化け物か!」。目の前に現れたガンダムF91に怯え、排除しようとテナクラー・

ロッドが集まってくる。ガンダムF91はマスクを開くとさらなる加速で急速後退し、ラフレシアから遠ざかる。

しかしその動きを追いきれないテナクラー・ロッドは、ラフレシアのコクピット前に位置するガンダムF91の残像めがけて集中砲火をくわえ、コクピット部を鉄仮面ごと爆発させてしまう。

操縦者を失い、断末魔の咆哮のごとく、うねりながらビームを吐き続けるテナクラー・ロッド。

こうして巨大殺戮兵器ラフレシアは、宇宙に爆発光の花を咲かせたのだった。

「貴族」による地球圏統一をめざした戦争

人類が宇宙に移民し、スペース・コロニーを第二の大地としてから一世紀がすぎ、戦争の目的は地球からの「独立」ではなく、地球圏の「支配」へと変化した。

長い平和に腐敗と墮落を続ける地球連邦政府に絶望した者たちが「貴族」を名乗り、社会を正しく導くために起こした叛乱が「コスモ・バビロニア建国戦争」である。高貴なるものが手本となり大衆を導くという「コスモ貴族主義」をかけた口ナ家が、連邦政府打倒を目的に起こしたクーデターだ。

この戦争において、地球連邦軍はじめて明確に敗北する。これ以降、連邦政府の権威は失墜し、スペース・コロニーの自治権が独立国家並みに拡大。連邦政府の支配範囲は地球上のみに留まることとなる。

兵器の特徴としては、モビルスーツの小型化と搭載ジェネレーターの高出力化があげられる。連邦軍が配備している大半のモビルスーツは、前戦争から使い続けられている「ジェガン」であり、対するクロスボーン・バンガードの主力モビルスーツは「デナン・ゾン」。しかしそのデナン・ゾンはジェガンの胸ほどの大きさしかない小型モビルスーツである。にもかかわらずジェネレーター出力は高くなってスピード

は増し、余剰の出力はビーム・シールドという新たな装備に転用されている。

モビルアーマー「ラフレシア」でさえ、その頭頂高は37・5メートルしかなく、「一年戦争」時のモビルアーマー「ビグ・ザム」の59・6メートルに比べれば、超大型を冠するものはばれる大きさが、同作品に登場するほかの小型モビルスーツが約13〜16メートルであることを考えると超大型といっても差しつかえないのだろう。

連邦軍も小型化を進め、「ヘビーガン」「G・キャノン」といった小型モビルスーツを開発するが、クロスボーン系のモビルスーツに比べ性能は劣る。戦争中にロール・アウトした「ガンダムF91」が唯一クロスボーン系の性能を上回っているが、高性能モビルスーツ機では戦況をくつがえすことはできなかった。もっとも、ガンダムF91は、そのような最終兵器的な運用を目的とされていなかったのだから。

もうひとつの特徴が、最初にもふれた「貴族」の存在であろう。宇宙時代でありながらコスモ・パビロニアの生活様式や考え方は時代がかったものになっていて、それは戦闘でも同様である。

攻撃大隊を率いるドレル・ロナは騎士道精神で、正々堂々と連邦軍艦隊や駐留部隊と渡り合った。また、ロナ家に戻りベラ・ロナと名を戻したセシリー・フェアチャイルドも、祖父マイツァー・ロナの説く、身分の高いものには果たさねばならぬ義務と責任があるという「ノブレス・オブリージュ」という考え方に感銘を受けて、非人道的行為を行う父カロッゾ・ロナ（鉄仮面）に立ち向かったのである。

第5章

機動戦士

ヴィクトリー

Vガンダム

BATTLE

宇宙世紀0153年。地球連邦政府はすでに地球圏を統一するだけの実力と意欲を失い、その結果、群雄割拠の時代を迎えていた。

後世、この時代を宇宙戦国時代と呼ぶ。

このとき、スペース・コロニー「サイド2」の新興国家「ザンスカール帝国」は、ほかの地方政権とは比べ物にならないほどの軍事を保有していた。

ザンスカール帝国は、この軍事を背景に地球への侵攻を開始し、着々とその版図を広げつつあった。

一方、この状況に危機感を覚えたのが義勇兵の集まりともいえるべき組織「リガ・ミリティア」である。彼らは連邦政府との共闘を目指すと同時に、反抗の旗印ともいえるべき「Vガンダム」を完成させるのだった。

Phragmology

■ ザンスカール帝国

女王マリアを統治の象徴とし、ギロチンによる恐怖政治で台頭してきた新興コロニー国家。なお、その保有する軍隊を「ベスパ」と称する。

■ リガ・ミリティア

別名を神聖軍事同盟といい、ザンスカール帝国に対抗する民兵組織。

■ Vガンダム

リガ・ミリティアが開発したモビルスーツで、コア・ブロック・システムを採用している。上半身を「トップリム」、下半身を「ボトムリム」とそれぞれ呼称する。これらと頭部をもつ「コア・ファイター」が合体し、「Vガンダム」となる。のちに発展型の「V2ガンダム」もつくられる。

■ ウツソ・エヴィン

リガ・ミリティアに成りゆきから参加しながら、たちまちエースパイロットとなった13歳の少年。乗機は「Vガンダム」および「V2ガンダム」。父のハンブルグ・エヴィンと母のミューラ・ミゲルはリガ・ミリティアのメンバーであり、特に父は最高指導者であった。

■ ミノフスキー・ドライブ

ミノフスキー粒子の力場の反発力で推進力を得る、まったく新しい推進機関。原理的に亜光速までの加速が可能といわれている。「V2ガンダム」に搭載され、これを駆るウツソのたぐいまれなセンスと相まって、攻撃に防御にと、さまざまな形で応用され戦果をあげる。

スベシャルな少年、ウツソ・エヴィンの初陣

シャッコー VS. ズロ

■敵をおびき出すために森を焼くザンスカール帝国軍

テスト中のモビルスーツ「シャッコー」を何者かに奪われた事態に、ザンスカール帝国軍ベスパは、ゲリラ組織リガ・ミリティアの仕業と断定。雪辱すべくライオール・サバトの部隊を出撃させた。

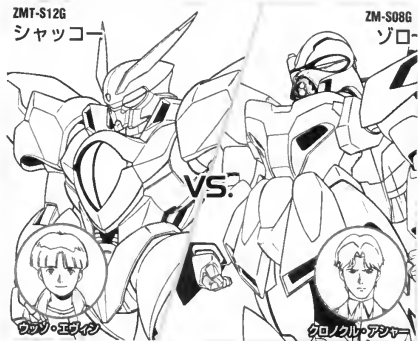
サバト隊はシャッコーを奪われた森林地域を爆撃し、リガ・ミリティアの輸送トラーラー「カミオン」部隊をあぶり出すことに成功する。だがそれは同時に弱冠13歳の少年、ウツソ・エヴィンの出撃をうながすことにもなった。

「これ以上は、行かせるもんか!」。幼なじみのシャクティ・カリンを、そして憧れの女性カテジナ・ルースを守るために、ウツソは成りゆきとはいえ、自身で奪取したシャッコーに乗りこむ。炎と黒煙を抜け、左腕部ビーム・ローターを回して上昇してきたシャッコーをクロノクル・アシャーが発見。「シャッコーが煙のなかから

第1話
「白いモビルスーツ」

第4話
「戦いは誰のために」

ザンスカール帝国軍ベスパの攻撃を迎え撃つべく、ウツソ・エヴィンは盗みだした「シャッコー」で反撃する。



ら飛び出した」と報告しつつ、自身もいち早く乗機である「ゾロ」を合体させた。

このゾロは2機の機体に分離合体が可能で、これによって重力下での柔軟な運用が可能となっていた。だが今回は、その機能が仇となった。

「2番、3番機、クロノクル機を援護しつつ、順次ドッキングしろ!」「了解!」。サバトの命にしたがった部下の1機が、ドッキングしようとした瞬間を、「させるか!」と突っこんできたワッツが銃撃。ゾロはなす術なく地上に落下する。

■死の寸前に生を拾う

しかしシャッコー1機に対し、敵

のゾロはクロノクル機を含め、3機も存在している。「だめだ、銃身が固定しないから、当てられない」。戦闘に不慣れなウツソは劣勢を強いられる。

そこへ、リガ・ミリティアの女性パイロット、マーベット・フィンガーハットが小型戦闘機「コア・ファイター」で出撃してきたため、ベスバの戦力は分断される。

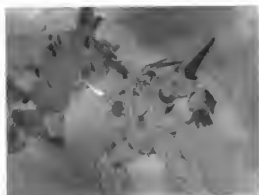
クロノクル機とドッグ・ファイトとなったマーベット機をウツソが援護しようとした隙に、「脇がら空きのテスト機なんぞ!」とサバトのゾロがせまる。

ウツソは森のなかへと追いこまれるが、幸運にも

そこはカミオン部隊が対ベスバ用の罠を仕掛けた一帯だった。

ウツソはビーム・ライフルを手にとると、木々のなかをジャンプして攪乱つつ、サバト機に対して果敢に発射する。しかし「小型のビームは当たらんよ」。サバトは急降下するゾロのビーム・ローターを射出して目くらましにすると、ビーム・サーベルを抜き放った。

追いつめられたウツソであったが、とっさにショルダー・ガンを発射し、同時に



初陣でありながら、モビルスーツの核エンジンを破壊しないよう配慮するウツソはたしかに特別だった。



シャッコーを盗まれた怒りで、クロノクルはウツソの乗った緊急脱出ポッドを狙い撃った。

ビーム・サーベルを構えた。シオルダー・ガンでビーム・サーベルごと左腕を焼かれたサバト機は、体勢を立て直すこともできず、そのままコクピットをビーム・サーベルで貫かれるしかなかった。「なんだ、なにが聞こえたんだ?」。自分がもたらした敵の死を感じとり、恐怖におちいったウツソは「助けてよ、母さん、父さん」と、行方も知れぬ両親を呼んだ。

敵はそんなウツソを見逃しはしなかった。マーベットのコア・ファイターを退けたクロノクルのゾロが、逃げるシャッコーの右ひざを吹きとばし、「次はコクピットを狙うぞ、パイロット!」とビーム・ライフルを向ける。

ウツソはシャッコーのビーム・ローターを回して直撃を避け、「エマーゼンシーだ!」と脱出ポッドを射出。クロノクルはなおも狙い撃つが、ウツソは脱出ポッドから飛び出すことで、間一髪逃れることができた。

「あの高さ、助かるまい」。クロノクルは死んだと思いきや、ウツソは木の枝をクツション代わりにし、九死に一生を得ていたのであった。

ウツソ・エヴィンの優れた格闘センスが光る戦い

Vガンダム VS. トムリアット

■カミオン部隊を襲うアルベオ・ピビニーデン隊の猛攻

リガ・ミリティアのメンバーが、ベスパにギロチンで公開処刑される様を目の当たりにしたウツソ・エヴィンは、その衝撃のあまり「Vガンダム」のパイロットを辞め、幼なじみのシャクティ・カリンを連れて自宅に戻ってしまう。

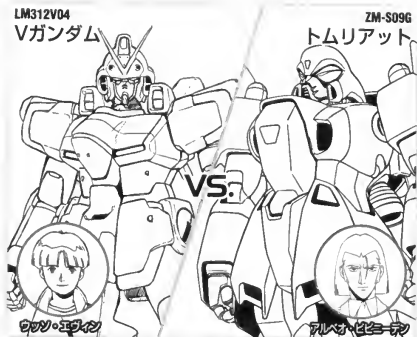
だが遠くの空のかすかな光に、リガ・ミリティアのカミオン隊が、ベスパの攻撃にさらされていることを直感したウツソは、その窮地を見捨てることができず、思わず駆けだす。

新たにカミオン部隊追撃の命を受けたアルベオ・ピビニーデンとその部隊は、6機の新型モビルスーツ「トムリアット」を駆って波状攻撃を仕掛けていた。

狡猾なピビニーデンは、自らの隊が6機編成であることを悟られぬように装い、相手のミスを誘うという戦術をとった。

第8話 「激闘！ 波状攻撃」

一度は部隊を離れたウツソ・エヴィンであったが、カミオン部隊の危機を知り、その窮地を救うべくパラグライダーで参戦する。



「ウツソじゃなくて、もともとのパイロットはあたしなんだから!」。
Vガンダムで出撃したマーベット・フィンガーハットは、自らのプライドをかけてトムリアットに立ち向かう。だが、ビーム・ライフルの撃ち合いのなかで、廃墟のビルにぶつかったVガンダムは、「もらった!」とトムリアットからビーム・トマホークを振り下ろされてしまう。

辛くも避けたVガンダムに、トムリアットは左脚部ミサイルで追い打ちをかける。

それをビーム・シールドで防ぐマーベットは「ウツソ、あなたの凄さって、よくわかるわ」と、たった1機で敵部隊を相手に勝利してきた、

ウツソの力を再認識するのだった。

■危機を脱し反撃するVガンダム

ビル陰に隠れたVガンダムを、うしろの壁をやぶって不意をつき、はがし締めにするトムリアット。

「生け捕りなど……バカにしないで！」と、マーベットはVガンダムの上半身「トップ・リム」を放棄してなんとか逃げ出す。追撃するトムリアット。

小型戦闘機「コア・ファイター」と下半身「ボトム・リム」が合体した重戦闘機「ボトム・ファイター」で戦わざるを得なくなったマーベットは、満足な反撃を行うことができない。

必死の抵抗もむなしく、ビビニーデン機に背後をとられて、マーベット機が被弾したそのとき、2機のあいだに音もなく1基のパラグライダーが舞い降りる。「なんだ、こんなところで?」。あぜんとするビビニーデン。

「ウツソ!」「マーベットさん!」。ウツソはマーベットと交代すると、放棄されていたトップリムと合体、Vガンダムとなってビビニーデン隊に戦いを挑む。



ウツソは山の斜面を下って一気に清空、マーベットのボトム・ファイターに接近して乗り移った。



モビルスーツの格闘戦にも優れたセンスを発揮するウツソの操縦技術は、ベテランに優るほど。

まずは3機のトムリアットの円陣から強引に脱出。追撃してきたトムリアットに横蹴りをくらわせて水に倒すと、もろくなっていたビルにビーム・ライフルを乱射して、トムリアットの上に倒壊させる。「恐いだろ、恐いだろ、いっぱい恐がるんだ」。直後、水煙にまぎれてビーム・ライフルを発射し、さらに1機を撃墜する。

「白いヤツ、よくやった。だがこれまでだー」。さすがのウツソもビビニーデン指揮による、トムリアット4機の波状攻撃をかわしきることはできず、はがし締めになれてしまう。

ウツソの命運が尽きかけたそのとき、リガ・ミリティアの機動部隊、シユラク隊長であるオリファ・イノエが新たなボトム・ファイターで救援にかけた。

ウツソはこの機を逃がさず、背後のトムリアットの喉元にビーム・サーベルを突き立て、行動不能にする。

こうしてウツソの巧みな攻撃によって、機体の半数を失ったビビニーデン隊は、不本意ながら退却せざるを得なかった。

全人類の宝を守り切った女戦士たちの戦い

シュラク隊 VS. メツメドーズ／リカール

■戦火にまみれるアーティ・ジブラルタル

リガ・ミリティアはベスバの目を避けるために、引越し公社の名を騙った輸送機で移動していた。公社のマスドライバ―施設のあるアーティ・ジブラルタル接収のために乗りこんでいたベスバのファラ・グリフォンは、これを口実に武力介入を決行。女性パイロット主体のシュラク隊は、「ガンイージ」で応戦する。「ヘレンの吊い合戦をやらせてもらってんだよ！」。

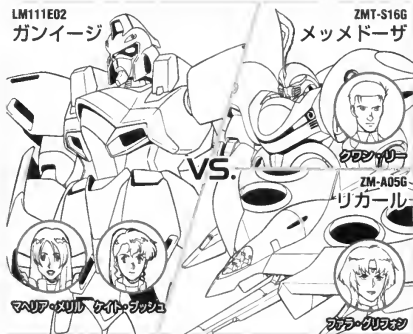
戦死した戦友の仇討ちに燃える女性パイロット、マヘリア・メルルは、巧みなフオーメーション攻撃で、ヘリコプター形態の「トムリアット」部隊と互角以上の戦いを繰り広げていく。

「白兵戦から離れた敵機を狙い撃てばよい」。ファラはベスバの指揮官機であるモビルアーマー「リカール」で、海上からビーム砲撃をくわえようとする。これに気づ

第13話
「ジブラルタル空域」

第14話
「ジブラルタル攻防」

非武装中立のマスドライバ―施設を接収しようとするベスバのまえに、ウツソ・エヴァンとシュラク隊の女戦士たちが立ちはだかる。



いたウツソ・エヴィンの「Vガンダム」は、マスドライバーのトンネルを抜けて不意打ちをくらわす。しかし、リカールのコクピットに座るフアラたちをじかに見てしまったウツソは引き金を引けず、リカールの離脱を許すばかりか、その隙をトムリアットに狙われてしまう。

それを救ったのが、マヘリアのガンイージだった。「墜ちりゃあいなんだよ!」。トムリアットの右肩にビーム・サーベルを突きたてるガンイージ。だがトムリアットは左腕のビーム・ローターを回転ノコギリのように使って、ガンイージのコクピットを斬り裂き、さらにそこへ致命的な飛び蹴りをくわえた。「まだま

だよ！」。押しつぶされたコクピットでマヘリアは叫び、ビーム・ライフルでトムリアットを撃墜する。だが、直後にマリア機も爆発。ヘレン・ジャクソンにつぐ、シュラク隊ふたり目の戦死者となってしまう。

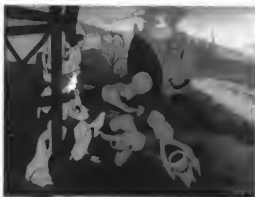
■誇り高き女戦士の最期

ウツソたちがマヘリアを失った悲しみにひたる間もなく、ベスパによるアーティ・ジブラルタル総攻撃が開始された。公社のマスドライバー施設は全人類の宝といふべきものであり、この破壊は許されない。にもかかわらず海上から長距離ビーム攻撃を行う、ファアラのリカール。これに向かったウツソのVガンダムは、巧みな動きで同士討ちを誘い、護衛のトムリアット2機を無力化、リカールを追い詰める。

陸上ではシュラク隊、ケイト・ブッシュのガンイージが、ベスパのクワン・リーが操る「メツメドーザ」と激戦を繰り広げていた。マスドライバーの支柱にビーム・ローターをぶつけたメツメドーザに、ビーム・ライフルを連射するケイト。「調子に



シュラク隊のマヘリアは、戦死したヘレンの仇討ちと気負い、トムリアットと相討ちになる。



マストドライバーを支え、無防備となったケイトのガンイージを無情にも貫くメッメドーザ。

のつてえ!」。クワンは左右下腕部のビーム・シールド2基を、手裏剣のように投げつけた。この予想外の攻撃に驚いたケイトは、1基は撃ち落としたものの、残りの1基が背後のマストドライバーの支柱を破壊してしまう。

「これは壊しちゃならない!」。ケイトは、自機を柱代わりにマストドライバーを支えるが、クワンはそこに乗じて無情にも「機体はそのまま、パイロットは死んでもらう」と、ビーム・サーベルをコクピットに突き刺した。ケイトの死を直感したウツソはリカールに背を向け、メッメドーザに猛進する。「おまえか! ケイトさんをやったのは!」。ウツソの恐ろしいまでの気迫に、気後れするクワン。その差は戦闘にも表れ、メッメドーザは何ひとつ攻撃することができずに沈黙した。

Vガンダムから逃れたリカールも、小型戦闘機「コア・ファイター」を駆るマーベット・フィンガーハットの攻撃により大破。残る機体も後退した。

こうした多大な犠牲を払いながらも、リガ・ミリティアは全人類の宝であるマストドライバー施設、アーティ・ジブラルタルを守ったのであった。

敵艦隊の裏をかいたロベルト・ゴメスの奇襲作戦

リンホース vs. スクイード

第21話
「戦略衛星を叩け」

戦略衛星要塞「カイラス・ギリ」の脅威を未然にとり除くべく、リガ・ミリティアの戦艦「リンホース」は突撃を敢行した。

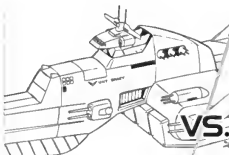
■カイラス・ギリに猛進するリンホース

宇宙にいたウツソ・エヴィンは、地上からきた戦艦「リンホース」やリガ・ミリティアに協力する地球連邦軍の重巡洋艦「ガウンランド」と合流。戦略衛星要塞「カイラス・ギリ」攻略作戦は開始された。リンホースの艦長ロベルト・ゴメスは、無線操縦にしたガウンランドを盾兼囑としてカイラス・ギリへと進撃、「シュラク隊とガンダムに、ガウンランド前方空域をカバーさせろ」と命令した。

ウツソはオーバー・ハング・キャノンで武装強化した「Vダッシュガンダム」で出撃していた。しかし「うわ、核爆発に巻きこまれた」とひるんだところを、ベスパの「ゾロアット」に襲われ、ビーム・ライフルの銃身を斬り落とされてしまう。続くビーム攻撃を、なんとかビーム・シールドで防ぐウツソ。

「ウツソのやつ、組織戦はまだまだだな」。シュラク隊長オリファア・イノエは、

戦艦
リオンホース



ロベルト・ゴスヌ

戦艦
スクイード



ダンロ・ガゴ

VS.

ジュンコ・ジェンコに援護を命令。ジュンコの「ガンイージ」は、ウツソを追いつめるゾロアットの横にある岩を、ビーム・ライフルで破壊。破片にひるんだ敵機コクピットを狙撃して沈黙させた。

「いつもの覇気はどうしたの?」「いつもと同じ!」「シャクティって子だって、敵艦に救われている可能性だってあるんだよ」。戦闘で艦から宇宙に投げ出され、いなくなったシャクティ・カリンを心配するウツソ。そんな彼を励まそうとしたジュンコの言葉はウツソの心の響き、「当てないと死んじゃう。シャクティに会えない!」と、射程の短いビーム・ピストルでゾロアットを撃破す

る。

「ウツソのやつ、ビーム・ライフルを持ってないぞ」。小型哨戒艇「ツノーベ」（愛称、魚の骨）仲間の少年たちがウツソに新しい武器を補給する。

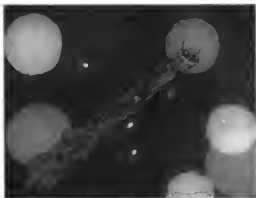
補給されたビーム・スマートガンの攻撃でゾロアットを消滅させたウツソは、次に八つ手ビーム・サーベルを用いて展開した強力なビーム・フィールドの罠で、敵の小型艇数隻を撃沈し、宇宙空間に巨大な火の玉を生じさせた。こうしたウツソらモビルスーツ部隊の奮戦にも勇気づけられ、リーンホースは、敵陣深く斬りこんで行く。

■カイラス・ギリの陥落

「わが空域に敵艦を入れただと?」。カイラス・ギリを防衛するタシロ・ヴァゴの艦隊は、リーンホースの奇襲による混乱からようやく立ち直りかけていた。にもかかわらず旧式艦と見てガウンランドに不用意に近づいたため、ベスパのモビルスーツ部隊や艦艇は、遠隔操作で行われたガウンランドのメインエンジンの自爆に巻き



ウツソは友から心意気とともに託されたビーム・スマートガンを発射。その威力は凄まじかった。



ガウンランドの自爆の炎を突っ切り、対空砲火にも耐えスクイード1に接触するリン・ホース。

こまればほとんどが大破した。

こうして宇宙の戦場を大爆発が襲ったときには、リン・ホースはタシロが座する艦隊旗艦「スクイード」に肉薄する距離にまでせまっていた。

「はじめのガウンランドはタミーだったのか」。タシロはスクイードの艦橋でノーマルスーツを着用しながら、機銃や小型火器での迎撃を命令する。「陸戦になるぞ」「ええ!? 陸戦でありますか?」「陸戦だ」。ゴメスも「総員に陸戦の用意をさせろ!」

と、リン・ホースをスクイードに接舷、クルーを突撃させた。少数兵力のリガ・ミリティアがタシロ艦隊を破るには、敵中枢への電撃的奇襲以外にはなかったのである。

一方このときタシロが徹底抗戦に出ず総員退避を命じたのは、自艦隊にマリア女王の娘と判明したシヤクティがいたからだだった。帝国の次代を担う姫を、むざむざと危険にさらすわけにはいかない。

そう、リン・ホースによるカイラス・ギリ攻略が大成を収めることができたのは、シヤクティという不確定要素があったからなのだ。

戦士の掟をたたきこまれた「人食い虎」との死闘

Vダッシュガンダム VS. アビゴル

第22話 「宇宙の虎」

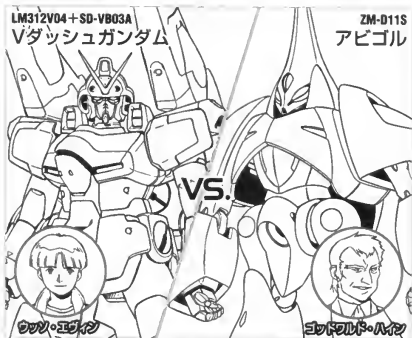
一度は命を助けた敵に再び
まみえたウツソ・エヴィン
は、大切な仲間を守るべく
「Vダッシュガンダム」で
立ち向かう。

■「人食い虎」との再会

ウツソ・エヴィンは「Vガンダム」で哨戒任務に就いていたが、その最中にベスのモビルスーツ小隊に捕まってしまう。「一度お会いしましたね」「なに!」。ベスの小隊長ゴッドワルド・ハインは、かつて宇宙ゴミの吹き溜まりに漂着していたところを、ウツソが予備の酸素ボンベを与えて救った人物だった。

意外な成りゆきに怒り、驚き、嘆くゴッドワルドであったが、「坊主、宇宙で戦う戦士の鉄則を教えてやる。それはな、目の前の生き残るチャンスを逃さないことだ」と放免する。しかしウツソが機体に戻った途端、ゴッドワルドは「では行くぞ、リガ・ミリティアのパイロット!」と、可変モビルスーツ「アビゴル」を駆り、手加減なしの猛攻を加えてきた。

モビルアーマー形態では、加速力とメガ粒子砲の火力を活かして突撃。それをか



わすべくVガンダムが宇宙に浮かぶ残骸の陰に入ると、モビルスーツ形態に変形して白兵戦を挑んでくる。「人食い虎」の異名を持つゴッドワルドの腕は確かだった。「ゾロアット」を駆る部下を呼び、Vガンダムをビーム・ストリングスで拘束させると、すかさずアビゴル独自の武器である、ビーム・サイス（鎌）でVガンダムの左膝下を切断する。

救援に駆けつけたジュンコ・ジェンコの「ガンイージ」が、Vガンダムを拘束していたゾロアットの右肩をビーム・サーベルで貫かなければ、ウツンは敗北していただろう。ゴッドワルドは行動不能におちいた部下の機体をかばって撤退した。

■ ウツソ・エヴィンを追いつめた驚異的な粘り

武装を強化した「Vダッシュガンダム」で再出撃したウツソだったが、2名の部下を率いたゴッドワルドの攻撃は激しく、Vダッシュガンダムはゾロアットにより、またも脚部をからめ取られてしまう。

やむをえず下半身の「ボトム・リム」を切り離したウツソは、重戦闘機「トップ・ファイター」形態となつて一時退却をはかる。「あれは私の標的だ」と、アビゴルで猛追撃するゴッドワルド。

熾烈なドッグファイトのなか、より狭いビルのあいだに入つて距離を稼ごうとするウツソだったが、ゴッドワルドは部下に回りこむよう指示すると、自らは小回りのきくモビルスーツ形態に変形して追いつめる。

しかしウツソはその圧力をはね返すと、アビゴルの投げたビーム・サイスをゾロアットの眼前で避けて同士討ちをさせる。さらに「やらないと、やられる!」と、切り離れた脚部を呼び戻してアビゴルの背後から奇襲させ、その隙に合体した。

「正面がとれてしまった……」。ためらい、アビゴルに向けたビーム・スマートガン



独特の武器、ビーム・カタールを脇に構え、Vダッシュガンダムめがけて突撃するアビゴル。



炎上したアビゴルから脱出し、生身でVダッシュガンダムを奪おうとするゴッドワールド。

の引き金を引けずにいたウツソに、残ったゾロアットが襲いかかる。そのゾロアットを辛くもオーバーハング・キャノンで撃墜するが、形勢は逆転。「お前に戦士の資格はない!」と吠えるゴッドワールドによって、廃墟の端に追いつめられてしまう。

窮地のウツソを救ったのは、近くに隠れていた民間の小型宇宙艇「アイネイアース」から、オデロ・ヘンリークたちが射出した燃料タンクだった。ウツソはそれを撃って目くらましにすると、ビーム・カタールを振りかざしたアビゴルの脇を逃れた。「やってやる、やってみせます!」。ウツソはアビゴルに対し、今度はためらうことなくビーム・スマートガンの引き金を引いた。

しかしゴッドワールドは爆発炎上するアビゴルから間一髪脱出、Vダッシュガンダムにとりつく、「このモビルスーツをもらう!」とコクピット・ハッチを開けてきた。必死のウツソは、とっさに手にしたワイヤー・ガンを撃つ。

弾き飛ばされたゴッドワールドは、「やったな、小僧!」とウツソを認める言葉を残し、爆炎のなかに消えていった。

憧れの女性が強敵として現れた衝撃の一戦

Vガンダム VS. コンテイオ／リグ・シャッコ

■憧れの女性が敵になっていた

本隊とはぐれてベスバの捕虜となった、ウツソ・エヴィンとマーベット・フィンガーハット。ふたりは、ザンスカール帝国に反発する者への見せしめとして広場でギロチンにかけられることになったが、オデロ・ヘンリークたち友人の助けを借り、なんとか窮地を脱することができた。

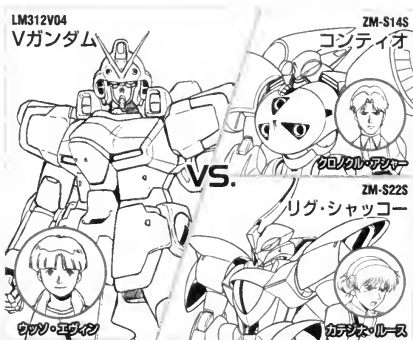
そのとき、広場に敵の「リグ・シャッコ」が攻撃をしかけてきた。ウツソは「Vガンダム」を動かすが、隙を衝かれ懷に飛びこまれてしまう。攻撃されると思ったその刹那、二丁ライフルを腰だめに構えたリグ・シャッコは静止した。

「なんだ？ このモビルスーツは迷っている」。ウツソは、そのわずかな隙に乗り、脱出することに成功する。だがリグ・シャッコの追撃が地上を直撃し、次々に建物や人々に当たるのを見たウツソは、ビーム・サーベルを抜き再びリグ・シャッコ

第26話
「マリアとウツソ」

第27話
「宇宙を走る閃光」

ザンスカール帝国のギロチンから辛くも脱出したウツソの「Vガンダム」を、カテジナの駆る「リグ・シャッコ」が追撃する。



ーに向かっていく。

「ウツソくんさえ追いかけてこなければ、あたしだってこうはならなかった」 「その声はカテジナさんですか!」。ウツソは眼前の敵が憧れの女性カテジナ・ルースと知り、驚愕する。ザンスカール帝国の思想に共鳴したカテジナは、初陣ながらすでにマーベットの駆る「ガンイージ」を簡単にあしらうだけの実力を備えていた。

ウツソは分離したVガンダムの下半身「ボトム・リム」を、リグ・シャッコーにぶつける捨て身の戦法に出たが、それでもカテジナを退却させることはできず、逆にウツソとマーベットのほうが退却をせまられる

こととなった。

追撃してきたリグ・シャッコーが宇宙港から脱出した、シャクティ・カリンたちの小型哨戒艇ツノーベ（愛称、魚の骨）と合流したVガンダムに、ビーム攻撃をかける。「シャクティたちまで巻きこまなくてもいいだろう!」。怒るウッソは重戦闘機「トップ・ファイター」形態で立ち向かうが被弾、爆発する上半身「トップ・リム」からドッキング・アウトして逃れた。

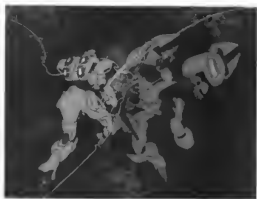
だが小型戦闘機「コア・ファイター」は、体勢を崩したところをカテジナに狙われる。「さようなら、ウッソ」。この窮地を、身を呈して救ったのが「ガンブラスター」を駆るジュンコ・ジェンコだった。自分を助けて負傷したジュンコを回収し、ウッソはリガ・ミリティアの戦艦「リーンホースJr」に帰還する。

■Vガンダムを襲うコンビネーション攻撃

新たなトップ・リムとボトム・リムを得て、ウッソはVガンダムで再び出撃し、



激しく敵機と斬り合うウッソは、そのなかで敵が僅れのカテジナであることを知り驚愕する。



ウツソを襲ったクロノクルをジュンコは阻み、さらにそこへカテジナが乱入して混戦となった。

瞬く間に敵モビルスーツ4機を撃墜する。しかしカテジナとクロノクル・アシャーの息の合ったコンビネーションに苦戦し、カテジナのリグ・シャッコーにビーム・ストリングスで金縛りにされ、クロノクルの「コンティオ」の格好の的となる。その危機を救ったのが、負傷を押して再出撃したジュンコのガンブラスターだった。ビーム・ライフルでコンティオの右手に直撃をくらわせ、ウツソへの射撃を止めると、今度は突撃してビーム・サーベルで両脚をなぎ払う。

「もらった!」。ジュンコが振り下ろしたビーム・ライフルを、カテジナのリグ・シャッコーが間一髪受けとめる。「大尉を殺させはしない!」。カテジナの振るったリグ・シャッコーのビーム・ファンで、ジュンコのガンイージは行動不能にさせられる。するとウツソのVガンダムが、ボトム・リムをリグ・シャッコーにぶつけてそれを救う。

カテジナのリグ・シャッコーは右脚部を損傷しながらも戦い抜き、戦略衛星要塞「カイラス・ギリ」の外装上でジュンコと生身の銃撃戦を繰り広げたクロノクルを回収すると、急ぎ戦場をあとにした。

混乱する戦場に颯爽と登場した「光の翼」

V2ガンダムVS.ゲドラフ

■ウツソ・エヴィンの脱出劇

スペース・コロニー「サイド2」の「マケドニア」コロニーに拿捕された戦艦「リ
ーンホースJr.」のクルーは、ベスバの威力偵察に乗じて、捕虜収容所からの脱走に
成功。艦に戻って脱出した。

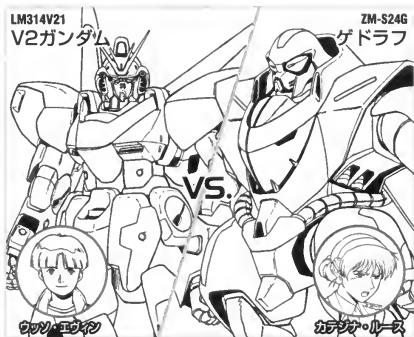
これは囷となったウツソ・エヴィンの働きがあったからで、そのウツソも、一度
はカテジナ・ルースに拉致されたものの、なんとか脱出していた。

「あの子は、また成長している」。カテジナはウツソを泳がせ、リーンホースJr.の居
場所を探ろうとしていた。

ボロボロになった小型戦闘機「コア・ファイター」で宇宙に出たウツソは、「見え
ないけど、つけてきているのか?」と、自分を尾行する「ゲドラフ」の気配を感じ
とる。だが、さらなる緊急事態が起こった。「空気がもれてる!?!」。あり合わせのも

第29話 「新しいスーツV2」

ベスバの厳しい追撃に苦しめられたウツソ・エヴィンだったが、最新鋭モビルスーツ「V2ガンダム」に乗りこむと反撃に出る。



ので、なんとかコクピットの空気も
れを止めようとするウツソ。

しかし懸命な努力もむなしく、し
だいに空気は薄くなっていく。ウツ
ソの忠実な友であるベットロボット
「ハロ」は、この窮地を敏感に察知
すると、救難信号を発信した。

それを受信したリーンホースJr.の
艦長ロベルト・ゴメスは、「マケド
ニアの軍とベスバが動いたとなれ
ば、リーンホースも動くしかない！」
と、シユラク隊とともに、身を隠し
ていたコロニーの陰から出撃する。

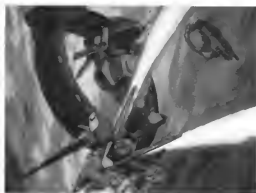
■超性能を見せるV2ガンダム

さらには予想外の援軍も到着し
た。小型戦闘艇「ホワイトアーク」

と最新鋭モビルスーツ「V2ガンダム」である。救出され、V2ガンダムに乗りこんだウツソは「コンソールはまったく同じ」と、すばやく出撃準備をととのえる。そして「長い間世話になったコア・ファイターだけど、まだつき合ってもらうよ」とV2ガンダムの小脇に抱えると、光の翼をひらめかせて皆が待つ戦場へと加速した。「くうっ」。その猛加速はさしものウツソが一瞬、顔を歪めるほどで、勢いもそのままに戦線に突撃すると光の翼を展開。すれちがいざまに、その翼でルベ・シノのゲドラフの右腕を斬り落した。「ばかな!?」驚愕するルベ・シノ。

ウツソはそのままマーベット・フィンガーハットの「ガンイージ」とカテジナのゲドラフのあいだに割って入ると、懂れていた女性に「僕の前にはもうこないでください!」と訣別の言葉を叫び、ビーム・サーベルを振り下ろす。

なんとかその一刀を受け止めたカテジナは、巧みに車輪型サポートメカ「アインラッド」のタイヤをV2ガンダムへの盾にする。本来、アインラッドは強力な防御力を誇り、モビルスーツのビーム・サーベル程度ではびくともしない。



ミノフスキー・ドライブの光の翼は余剰エネルギーだが、ビーム・サーベルのように斬ることもできる。



V2ガンダムのビーム・ライフルは、一撃でコア・ファイターとゲドラフの両機を破壊した。

だがV2ガンダムの光の翼はこれをやすやすと両断すると、間髪入れずもう一度ビーム・サーベルを叩きつける。左腕を切断されたカテジナのゲドラフは、やむをえず撤退するしかなかった。

リーンホースJr.も到着し、ウツソがこれで一息つけると思ったのも束の間、上空から憎悪が雄叫びをあげて襲ってくるのを感じとった。ウツソを追撃してきた最後の1機、アジス・バギが駆るゲドラフだった。ビーム・ライフルを乱射しながら「性懲りもなく白いモビルスーツが!」と、急降下攻撃を敢行してくるアジス。

だが、落ちていくアジス機の攻撃を回避したウツソは、「憎しみだけの心は、自分を殺すぞ!」と、射撃照準用デバイスをセット。コア・ファイターを放り投げると、ゲドラフと重なった瞬間にビーム・ライフルの狙いをつけ、一撃で両機を撃ち抜いた。

コア・ファイターとゲドラフ両機の核融合炉は大爆発を起こし、その光と熱を目くらましにして、リーンホースJr.は無事、サイド2領域を脱出したのであった。

非道な作戦を阻止するためにオリファ・イノエ決死の突撃

リガ・ミリティア部隊 VS. モトラッド艦隊

■ バイク型艦隊をめぐる攻防戦

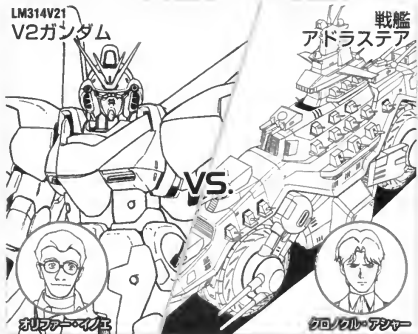
新たに「地球クリーン作戦」司令官に任命されたクロノクル・アシャーは、月の溪谷で、バイク型戦艦「アドラステア」を旗艦とした、モトラッド艦隊を編成していた。地球クリーン作戦とは、モトラッド艦隊の巨大なタイヤにより、地球上の建造物を住人ともども踏み潰すという非道なものだ。

これを察知したリガ・ミリティアは、「V2ガンダム」搭乗のオリファ・イノエ率いるシュラク隊を発進。艦隊の出撃を阻止すべく動き出していた。シュラク隊は新メンバーにフランチェスカ・オハラを迎え、さらに機体を新型モビルスーツ「ガンブラスター」に交換しており、戦力を拡充させていた。シュラク隊はモトラッド艦隊に攻撃を開始。「排除しろ」とクロノクルはモビルスーツ部隊を投入する。

ガンブラスターは「ゾロアット」「トムリアット」と交戦、マーベット・フィンガ

第31話 「モトラッド発進」

月面から地球に向けて出撃せんとするベスノウの新たな力、モトラッド艦隊を阻止すべく、新勢力のシュラク隊が出撃した。



「ハットの駆る「Vガンダムヘキサ」は「ゲドラフ」と激しい戦いを繰り広げる。

しかし、ベスバの最新鋭バイク型艦を攻略することは困難を極めた。バイク型艦最大の特徴である巨大なタイヤは、車輪型サポートメカ「アインラッド」と同様、ビーム攻撃に対して強固な防御力を有していたからだ。「あれが旗艦だ」。オリファアは、動きはじめたアドラスティアに目標を定め、「旗艦を止めれば、艦隊は崩れる!」と、小型戦闘機「V2コア・ファイター」で参戦したウツソ・エヴィンに指示。

「飛び立たせないためには、車輪を狙ってことですよ」。オリファア

の意図を理解したウツソは、タイヤ部分に集中攻撃を仕掛ける。

さらにオリファアは、V2ガンダムを自分よりもうまく使えるウツソに託すため、V2コア・ファイターをウツソ機と入れ替える。「使えー」。ウツソのV2ガンダムはアドラスティアのタイヤにビーム・ライフルを連射するが、戦艦は止まらない。

そこへカテジナのゲドラフが横槍を入れてくる。ウツソはこれを軽々とかわすと、ゲドラフの右ビーム・シールドをビーム・サーベルで貫き、蹴りをいれてアインラッドから落とす。しかし、カテジナはひるまず、ビーム・ライフルで反撃してくる。

■愛する者を守るために突攻するオリファア・イノエ

こうしてウツソは、結果的にカテジナに引きつけられてしまうが、その間もオリファアのV2コア・ファイターはアドラスティアへ果敢に攻撃をくわえる。

「貴様たちは地球に行かせんと言っただろうー!」。V2コア・ファイターでは火力が



アインラッドに乗るゲドラフのビーム・シールドに、ビーム・サーベルを突きさすV2ガンダム。



自分の子を宿しているマーベットを守るためにアドラステアに突攻したオリファア。

足りぬと考えたオリファアは、機体そのものをタイヤにぶつけるという、捨て身の攻撃を敢行する。「避ける。体当たりをかけられて、奴のエンジンが爆発すれば、我が艦もダメージを受けるぞ!」。クロノクルは叫ぶ。だが、アドラステアの砲撃をかくぐり、V2コア・ファイターは突っこんでいく。

「マーベット、俺たちの子供をたのんだぞ」。最愛のマーベットの中に新たな生命が宿ったのを確信していたオリファアは、命を捨ててもそれを守ろうとしたのだ。

アドラステアの前輪に激突し、爆破炎上するV2コア・ファイター。その激しい輝きはオリファアの命を呑みこんで溪谷を、宇宙を照らし出す。

しかし、オリファアのこの攻撃でさえもアドラステアの進軍を止めることはできなかった。アドラステアは前輪を失い、バランスを崩して僚艦「リシテア」を小破させながらも、地球目指して月面を飛び立っていく。

ただ、アドラステアの損傷も小さくなく、地球を目の前に補修を余議なくされた。オリファアの行為は決して無駄ではなかったのである。

巨大タイヤ艦との苛烈な戦いのすえに奪われた母の命

V2ガンダムVS.モトラッド艦隊

第34話
「巨大ローラー作戦」～

第36話
「母よ大地にかえれ」

地上を巨大なタイヤで踏み潰していくモトラッド艦隊。それを阻止する戦いのなか、ウツソ・エヴィンの母が人間の盾とされる。

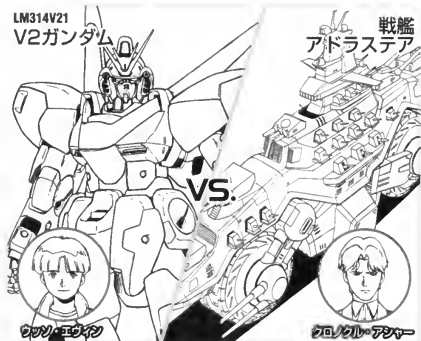
■地球を地ならしするモトラッド艦隊

ザンスカール帝国のクロノクル・アシャーは、ついに地球に到着し、「地球クリーン作戦」を開始した。町や村々を、無慈悲に踏み潰していくモトラッド艦隊。

「V2ガンダム」を駆るウツソ・エヴィンは、無力な子供すら巻きこむ残虐非道な行為に怒り、叫んだ。「火薬を使わず、人を踏みつぶして町を壊すんじゃ、ギロチン以下じゃないですか!!」。

地球上では暗黙の了解のもと周囲の被害を考慮し戦艦はもとよりモビルスーツ相手でさえ、核融合エンジンを傷つけずに行動不能にするという戦い方が求められてきた。それに対してモトラッド艦隊は、「我がほうは、かまわん。撃破してよし」と、リガ・ミリティアへの攻撃を躊躇しない。

それでもマーベット・フィンガーハットに率いられるシユラク隊の面々は、あき



らめることなく不利を承知で戦いに挑んでいく。

■戦艦内に捕らわれていた母

「接近戦しかないでしょう!」。ウッソも危険を顧りみず突撃し、バイク型戦艦「アドラスデア」に対してビーム・サーベルによる白兵戦を仕掛け、砲塔をひとつずつ沈黙させていく。

しかし、アドラスデア内に母ミューラ・ミゲルの気配を察したウッソは、一瞬動きを止めてしまう。その隙を狙われたウッソを救ったのが、「アインラッド」に乗って出撃してきたオデロ・ヘンリークと、トマーシュ・マサリクの「ガンブラスタ

」だった。

「このタイヤも、ウツソが使え！」。オデロからインラッドを譲り受けたウツソのV2ガンダムは、そのバリエーション性能を活かして、敵旗艦アドラステアに突進する。「正面のインラッドは、白いヤツだ！」。クロノクルは、左右のバイク型揚陸巡洋艦「リシテア」を前に出す。

ウツソはリシテアの砲塔をインラッドでつぶして乗り越え、アドラステアにせまる。「白い奴が狙いにくる。ブリッジ下げろ」と、クロノクルは艦橋を艦内に収容させる。そこへマーベットの「Vガンダム」が飛来、ウツソを止める。「先発の艦隊は、次の中部の町を踏み潰そうとしているのよ。第3波もあるかもしれない」「一挙に止めるか、進路を変えさせるしか、ないんじゃないですか」。

ウツソは破壊された町に放置されていた地球連邦軍のモビルスーツ「ジャベリン」を回収。これの核融合エンジンをアドラステアの至近距離で誘爆させ、敵艦隊の足を止めるといふ戦法に出た。結果V2ガンダムによる狙撃はカテジナ・ルースの「ゾ



バイク型艦に踏み潰され、倒れてきた建物を支えるV2ガンダム。足元には逃げ遅れた子供がいる。



地球クリーン作戦を行うモトラッド艦隊に、果敢に攻撃を仕掛けるシュラク隊のVガンダム。

リディア」に阻まれたが、「Vガンダムヘキサ」を駆るシュラク隊のユカ・マイラスがジャベリンを撃ち抜き、核爆発を起こす。だが、地球環境汚染にもつながりかねないこの危険な行為も、結局リシア1隻の動きを止めたにすぎなかった。アドラストアとほかの僚艦は空中に浮上、戦場を離脱していった。

■母の生命は謀略の果てに消えた

こうしたことからリガ・ミリティアは一計を案じ、先の戦いのまえに捕虜にしていたベスパの兵士ゴズ・パールをわざと脱出させ、それに乗じてバイク型艦に乗りこみ、内部から破壊することで事態を開きようと試みる。

アドラストアに潜入したウツソとオデロは、捕虜となっていたウツソの母ミューラと再会。破壊工作用の爆弾をミューラに託し艦内で数々爆破させ、その混乱を利用してシャクティの救出に成功した。

だが、クロノクルに行く手を阻まれ窮地におちいったウツソらを救ったミューラは、再び虜囚となっ

てしまう。その後、ベスバのアルベオ・ビビニーデンは、ミューラがウツソの母親であると知り、これを利用する作戦を立案。クロノクルに「ゴズ・パール」という男をそちらにやる。彼の独断的な行動を、黙って見ていてくれ」と頼んだ。

ゴズの操るゾリディアは、左手にミューラを握って人間の盾としつつ、ミューラ救出のため出撃していたV2ガンダムの前に現れた。「あのノーマルスーツは、母さん!」。動けないウツソ。「母さんを助けながら、攻撃するなんて」。

攻撃できないウツソを追いつめるゴズ機だったが、それをカテジナのゾリディアが止める。「やつてはいけない作戦というのがあります!」。

味方からの反発という予想外の事態に、自分の意にそわない人質作戦を遂行していたゴズは混乱してしまう。「寄るな寄るな、俺に近づくな!」。

「モビルスーツ乗りなら、正々堂々と戦ったらどうなんだ!」。ウツソのV2ガンダムはビーム・サーベルでゴズ機の両脚を切断。続いてマーベットのVガンダムが胸



捕われている母を傷つけぬよう、細心の注意をはらってゾリディアに攻撃するウツソ。



戦闘後、ウツソが見つけた母の遺品・遺体は、手にしたヘルメットと中の頭部だけだった……。

部中央を刺し貫いた。だがゴズは最後のあがきを見せ、損傷したゾリディアをアドラステアの前部二連装主砲のあいだに着艦させ、そのまま動かなくなってしまう。ウツソはそこから母を助け出そうとするが、クロノクルの命を受けたカテジナに阻まれてしまったことと、敵機が着艦した位置の悪さから、シュラク隊の援護を受けてもなお、救出することができないでいた。

そのとき、アドラステアを守るべく前方に回りこんでいたリシテアが、オデロラの放ったビームの爆発跡に車輪をとられ、後方に大きくバウンド。その後輪が、ウツソの母を手にしたゾリディアもろとも踏み潰し、アドラステア前部上で停止した。

「母さん!!」。母を失ったウツソは、がむしゃらにアドラステアを攻撃するが、折も折、地球連邦政府とザンスカール帝国のあいだに休戦協定が結ばれた。これを受けてアドラステアは白旗を掲揚する。

いかにゲリラであるリガ・ミリティアといえども、これを攻撃することはできない。ただ、荒野の彼方に去るモトラッド艦隊を見送るしかなかった。

戦わずして小部隊を無力化させた光の翼の新たな使い方

V2ガンダムVS.ゾロ改

■質より量で攻めてくるゾロ部隊

小型戦闘艇「ホワイトアーク」を山向こうの湖に残し、ウッソ・エヴィンら子供たちはカサレリアに一時帰郷した。

だが、ウッソ不在のホワイトアークは、「ゾロ」部隊に襲われる。それは停戦協定に従わずベスバのラゲーン基地から脱走した、マチス・ワーカーの部隊だった。

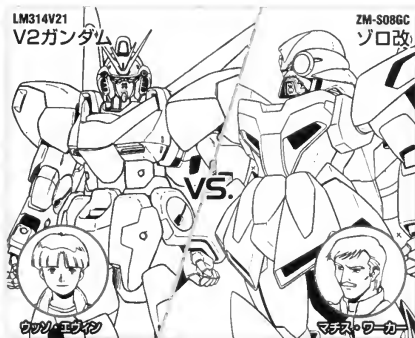
「ラゲーン基地としては恨みがある。白いヤツは叩く!」。彼らはリガ・ミリティアに報復すべく、行動を起こした。

この奇襲に対し、指揮官であるマーベット・フィンガーハットの命令のもと、留守組は応戦する。

バラグライダーで急ぎ帰還したウッソは、「V2ガンダム」で出撃するものの、牽制で撃ったつもりのビーム・ライフルでゾロを大破させてしまったことに驚きを隠

第39話 「光の翼の歌」

停戦協定の監視という名目でカサレリアに帰還したウッソ・エヴィンたち。だが、小型戦闘艇「ホワイトアーク」が襲われる。



せない。「ゾロってあんなに弱い機体だったの？」。

ウツソは敵が練度の低い弱兵であることと、ゾロの意外なまでの低性能を知ってしまったために、攻撃できなくなってしまう。

また下手に攻撃すれば、自分の故郷ともいべきカサレリアを、放射能で汚染してしまいかねない。

気後れするウツソに代わり、トマーシュ・マサリクの「ガンブラスター」がゾロの左足を斬り落とす。

「僕だってできる！」。逃げるゾロを深追いしたトマーシュは、待ちかまえていたゾロ編隊の総攻撃を受ける。マチスは畏を張っていたのだ。

ウツソのV2ガンダムがトマーシ

ユの援護に現れると、マチスは、「リガ・ミリティアのシンボルは前のみ!」と、V2ガンダムとマーベットの「Vガンダム」、ホワイトアークに攻撃の目標を定めた。

さらに玉砕覚悟の突撃を開始した編隊には、ガトリング・ガンで武装し大量の爆弾を搭載した、無人のゾロの下半身「ボトム・ターミナル」がくわわつていた。これらに対し、ホワイトアークはミサイルとメガ粒子砲で応戦する。

■光の翼の新たな使い方

しかし、地球環境の汚染につながるようなことをしたくないウツソは、V2ガンダムのさらなる力を解放した。

「死ぬもんか、みんなも死ぬなー!」。地に機体を伏せたまま、ミノフスキー・ドライブの光の翼を最大出力にして空に上げると、そのあいだを抜けようとしたゾロやボトムターミナルは行動不能となり、ほぼ全機が墜落、無力化した。

光の翼のあいだに充滿した高エネルギー状態のミノフスキー粒子が、精密機器に



光の翼のあいだには高出力のミノフスキー粒子などが充滿しており、精密機械はダメージを受ける。



V2ガンダムを柔軟に用いて、ゾロ改の突きを止めたウツソ。このセンスには感心する。

深刻なダメージを与え、ビーム・ローターにも干渉、作動不良を引き起こしたのだ。こうして形勢は逆転し、残るはマチスの「ゾロ改」のみとなったが、ここで彼は逃げることなく最後まで戦うことを選ぶ。

上空から急降下してくるゾロ改に、「まだ強い人がいる」と集中するウツソ。ボトムターミナルを切り離してマーベットのVガンダムをかわしたマチス機は、上半身だけでV2ガンダムに斬りかかる。ウツソはこの振り下ろしを避けると、胸部に突きを入れた。

「簡単には死ねんのだ!」。それでも止まらぬゾロ改は、V2ガンダムにシオルダー・アタックをきめると、ビーム・サーベルを逆手に持ち変えた。

だがウツソは敵機の下腕部を押さえ、この突きを防ぐ。

この戦いのあと、ウツソらは戦死した仲間、母のミューラ・ミゲルやシユラク隊隊員たちの墓標をカサレリアの丘の上に立てた。

そしてそのなかには、マチス・ワーカーの墓標もくわえられていた。

戦場に鳴り響く鈴の音を秘策で封印

V2ガンダムVS.ザンネツク

■魔性の女、ファラ・グリフォン

リガ・ミリティアは、とうとう地球連邦軍主力艦隊との大規模な共闘を実現させ、これによってザンスカール帝国の巨大サイコミュ要塞「エンジェル・ハイロウ」を攻略することとなった。しかし、これを防衛するベスパ艦隊の布陣は予想以上に厚く、その中には長距離精密砲撃を得意とする「ザンネツク」もいた。

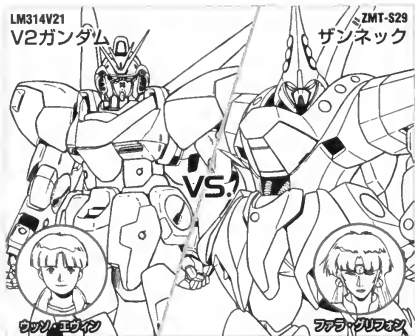
鈴の音で戦場を翻弄するザンネツクのパイロットは、元ラゲーン基地司令のファラ・グリフォン。だが今のファラは心眼と称する、センサー以上に鋭敏な感覚を備えた異能のパイロットとして復帰していた。

ザンネツクは両肩の粒子加速器で威力を高めたビームを細くして、長距離から乱戦のなかの白いモビルスーツ「Vガンダム」を正確に狙い撃つ。

Vガンダムのミリエラ・カタンは、ビーム・シールドで防御したものの、その威

第43話 「戦場の替星ファラ」

強力なザンネツク・キャノンを装備するファラ・グリフォンの「ザンネツク」に対し、ウツソ・エヴィンは作戦をもって立ち向かう。



力で脚部を吹きとばされる。さらに続くビームを上空のウツソ・エヴィンが「V2ガンダム」のメガ・ビーム・シールドで防がなければ、コクビットさえ危なかった。

ウツソはミリエラ機を後退させ、「長距離キャノンなら、V2だって!」と、メガ・ビーム・ライフルでザンネックに向かっていく。

ファラは決着をつけるべく、主戦場から離れた空域にウツソを誘いこみ、V2ガンダムの眼前でザンネックを棒立ちにさせると、コクビットから丸腰の宇宙服で飛び出した。生身でV2ガンダムに向かってくるというファラの行動に、ウツソは恐怖すら覚え、引き金を引くことができ

ない。

「あはー!」。ウツソの恐怖に満足したファラが、腰のバーニアで急上昇すると、ザンネックに同乗していた兵士キル・ダルトンが、V2ガンダムめがけてザンネック・キャノンを発射した。

ウツソは反射的にメガ・ビーム・シールドを展開。V2ガンダムへの直撃はまぬがれたが、至近距離からの強力なビーム攻撃に、メガ・ビーム・シールドと左腕部を失ってしまう。

ザンネックに戻ったファラが、V2ガンダムにとどめを刺そうとしたとき、連邦軍主力艦隊旗艦「ジャンヌ・ダルク」の「ジャベリン」部隊が到着。ウツソは間一髪でザンネックから逃れる。

■鈴の音を蹴散らす波状攻撃

ウツソは破損したV2ガンダムの上半身「トップ・リム」を交換すべく母艦「リオンホースJr」に帰還すると、同時に「ボトム・リム」をありったけ射出するよう



メガ・ビーム・シールドを展開し、ザンネック・キャノンの直撃に耐えるウツソのV2ガンダム。



無人のボトム・リムに突撃をさせる戦法は、鈴の音でパイロットの心を惑わすファラには有効だった。

要請する。ブリッジからの質問にウツソは、「マチスさんの戦法でやります！」。

ビーム・ライフルで武装したボトム・リム7機が連続発進するのを見て、その戦術を瞬時に理解したシユラク隊や小型戦闘艇「ホワイトアーク」の面々はウツソの援護に回り、ウツソはジャベリン部隊を蹴散らしたザンネックに再度攻撃を仕掛ける。そしてザンネック・キャノンの高出力ビームを光の翼で相殺、霧消させると、ボトム・リムにビーム・ライフルを乱射させつつ突撃させた。ウツソに気をとられていたファラは、無人のボトム・リムの直撃をくら

い、ザンネックは左腕部と粒子加速器1基を失う。

これに乘じ、爆炎のなかを突破して肉薄したV2ガンダムは、さらにザンネックの右腕部も切断。そして胴体に強力な蹴りを入れて、その体勢を崩す。

「沈めーっ」。とどめにビーム・ライフルの集中砲火をたたきこむウツソ。

たとえ自分を窮地に追いこんだ敵の戦術であろうと、よいものは吸収して力とする。ウツソの長所が遺憾なく発揮された攻撃だった。しかし、敵パイロットのファラは脱出して母艦へと帰還した。

火力強化したV2ガンダムを追いつめる「光の刺」

V2バスターガンダムVSゲンガオゾ

■強化したV2ガンダムでも苦戦

巨大サイコミュ要塞「エンジェル・ハイロウ」をめぐる戦線は膠着していた。ウツソ・エヴィンは、攻撃力を強化した「V2バスターガンダム」（略称、V2バスター）で出撃。スプレー・ビーム・ポッドで敵モビルスーツ「ゾロアット」「ゲドラフ」を一蹴、メガ・ビーム・キャノンで敵巡洋艦を一撃で沈める。

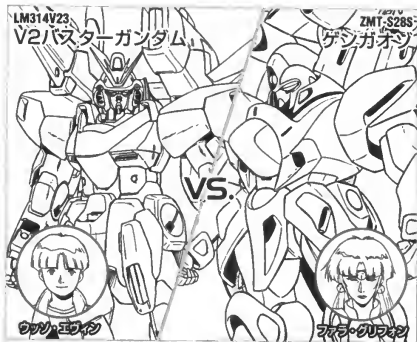
そこに鈴の音とともに、ファラが新たなモビルスーツ「ゲンガオゾ」に乗って飛来した。5門のマルチプル・ビーム・ランチャーの砲撃を、ウツソはビームをぶつけて拡散させ、メガ・ビーム・キャノンで反撃する。

「そんなお荷物を持つていれば、あたしの敵じゃない」。V2バスターに接近したファラはビーム・メイスで殴りかかった。ビーム・サーベルでこれを受けたウツソだったが、ビーム・メイスの光の刺が伸びて、右肩のメガ・ビーム・キャノンの砲身

第46話
「タシロ反乱」

第47話
「女たちの戦場」

火力を強化したウツソ・エヴィンの「V2バスターガンダム」の前に、ファラ・グリフオンの「ゲンガオゾ」が立ちはだかる。



を斬り落とされてしまう。

ウツソは、ひとまずゲンガオゾから逃れようと主戦場に向けて飛び立つが、ファラの追撃は執拗だった。

鈴の音の気配で砲撃を避け、逆襲のタイミングをはかっていたウツソは、スプレー・ビーム・ポッドの斉射でゲンガオゾを遠ざけると、ビーム・ライフルの照準を合わせる。だが予想外の方角から攻撃がきた。「敵が上下に割れた!？」

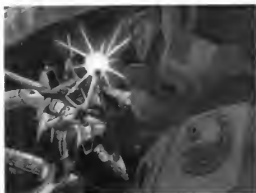
ゲンガオゾは、マルチプル・ビーム・ランチャーを搭載したバックエンジン・ユニットを本体から切り離して、あたかもサイコミュ兵器のごとく自在に操ることができたのだ。再び接近してビーム・メイスを振る

うゲンガオゾの機内では「坊や、本当に可愛いよ」と、ファアラが舌なめずりをしていた。怖気立つウツソは、まえと同じビーム・メイスの光の刺で、スプレー・ビーム・ポッドを破壊されてしまう。

■マーベット・フィンガーハットの協力で辛くも倒す

だが、ウツソはあきらめず果敢に攻める。両脚のミサイル・ポッドを切り離し、爆雷代わりにして、ゲンガオゾのバックエンジン・ユニットを小破させ、分離したユニットの体当たりを受けとめると、殴りつけて破壊した。しかしファアラの猛攻はやまず、ウツソはとっさに下半身「ボトム・リム」を分離させてゲンガオゾにぶつけ、重戦闘機「トップ・ファイター」で逃げようとするが、ゲンガオゾに回りこまれてしまう。窮地のウツソを救ったのは、「Vガンダム」に乗ったマーベット・フィンガーハットが放った、ビーム・ライフルの一撃であった。

彼女はドッキング・アウトすると、上下のパーツをウツソに武器として託し、自身は小型戦闘機「コア・ファイター」で援護にまわった。本来ならばバルカン砲し



ゲンガオゾのビーム・メイスは、球体ビーム部分の刺を自在に伸ばすことが可能だ。



激しい戦いの末、とどめの一撃をファラのゲンガオゾに突き立てるウツソのV2ガンダム。

かもたぬコア・ファイターでは、ゲンガオゾにかなうべくもなかったが、ファラはこのとき、マーベットの胎内に宿るもうひとつの生命を感じとっていた。

「ひとつの命の中に、ふたつの命があるというのか!」。女性が子供を宿すという自然なことがファラを混乱させた。その隙に、ウツソは右手にビーム・サーベルを持たせたVガンダムの上半身「トップ・リム」の左手を持つて振り回した。

ビーム・サーベルのリーチを伸ばすという想定外の攻撃で、ゲンガオゾは両脚部と左腕部を斬りおとされる。ファラは捨て身の突撃をかけるが、下半身「ボトム・リム」のミサイル・ポッドがそれを阻み、最後はV2ガンダムのビーム・サーベルがゲンガオゾの胸部を貫いて大爆発させた。

爆発の直前、ファラをギロチンの家系に呪縛していたであろういくつもの鈴が弾け飛ぶと、彼女は優しい表情をとり戻した。こうして解放されたファラは、アーティ・ジブラルタル攻防戦で己をかばって死んだ副官、メツチエ・ルーベンスの名を呼びつつ、光のなかに消えていった。

妄執にとらわれた狂戦士との対決

V2ガンダム VS. リグ・コンティオ

■崩れゆくエンジェル・ハイロウで因縁の対決

ザンスカール帝国は女王マリアを失ったが、地球上空に浮かぶ巨大サイコミュ要塞「エンジェル・ハイロウ」はなおも稼働し、サイコ・ウェーブを発散していた。

これを止めるために、ウツソ・エヴィンはシャクティ・カリンを乗せた「V2ガンダム」で要塞の中核に乗りこみ、事態の鎮静化を図る。

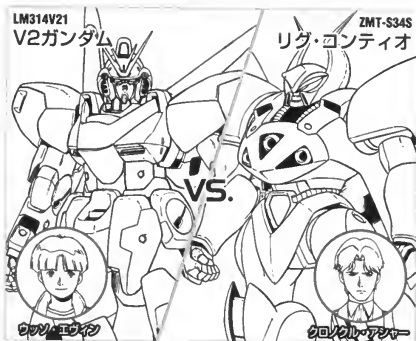
シャクティの祈りによって、再び統御されたサイコ・ウェーブの波動に、カテジナ・ルースは憤り、クロノクル・アシャーを召喚。ここにウツソとクロノクル、ふたりの最後の戦いの火蓋が切って落とされた。

「見つけたぞ、カテジナにつきまとい、ことごとく私のゆく手を阻んでくれた少年!」。クロノクルは「リグ・コンティオ」の右肩に装備された、ヴァリアブル・ビーム・ランチャーを発射、V2ガンダムのメガ・ビーム・シールドを破壊した。

第50話
「憎しみが呼ぶ対決」

第51話
「天使たちの昇天」

V2ガンダムのウツソ・エヴィンを、憎しみをたぎらせたクロノクル・アシャーが戦場に狙う。そして、最終決戦の幕が開く。



ウツソはビーム・ライフルで反撃するが、リグ・コンティオは回避。左肩のショット・クロウからビーム・サーベルを伸ばして、ビーム・ライフルを寸断する。

対するV2ガンダムは、ビーム・サーベルでリグ・コンティオのヴァリアブル・ビーム・ランチャーを斬り裂き、使用不能にさせる。

「あなたの弱さがカテジナさんを迷わせたのが、まだわからないんですか!?」。ウツソとクロノクルは、生の感情をぶつけあう。

だがその戦いは、援護に入ったオデロ・ヘンリークには、憎しみにとられ、互いのエゴをぶつけ合うだけにしか見えなかった。

■憎しみだけで戦った男の最期

「憎しみだけで戦っているんなら、いっしょに死ぬぞ!」と、親友で兄貴分のオデロがさとす。

しかし、ウツソは生の憎しみをぶつけてくるクロノクルとカテジナに、どう対処すればいいのかわからない。

実はこの決闘に前後する形で、リガ・ミリティアの中心であった戦艦「リーンホース Jr.」はモトラッド艦隊を、また、地球連邦軍主力艦隊旗艦「ジャンヌ・ダルク」は、ザンスカール帝国軍旗艦「ダルマシアン」を、それぞれ道連れにして散っていた。

それは己を殺して他を活かす戦法だったが、憎悪と疑心暗鬼にとらわれたクロノクルには理解できず、目の前の事象を曲解するしかなかった。

「すべてがわかった。ウツソ・エヴィン。キイ・ルームのシャクティとともに、我らを排除しようとする魂胆!!」。クロノクルはさらなる憎悪を燃やし、左肩のシヨツト・クローを発射。無線で自在に操り、ビーム・ライフルを乱射する。



V2ガンダムとリグ・コンティオは、エンジェル・ハイロウの前で激しく斬りむすんだ。



妄執にとらわれたクロノクル機に、光の翼の一撃をくわえるウッソ。勝負はこのときについていた。

だが、再びオデロにさとされ自分を、そしてシャクティを守りたいという気もちをとり戻していたウッソは、その二段構えの攻撃をビーム・シールドで防ぐと、体をさばいて無線式ショット・クロローをミノフスキー・ドライブの光の翼で破壊する。そして、リグ・コンティオに突撃すると、光の翼で両膝から下を切断した。

「荒んだ心に武器は危険なんです、クロノクルさん!」。そう叫ぶとウッソは二刀流のビーム・サーベルを最大に伸ばし、バランスを失って無防備なリグ・コンティオに必殺の斬撃をくわえる。

爆発し、機体の大半を失ったリグ・コンティオは、エンジェル・ハイロウのパーツ外壁に叩きつけられ、もんどりうって落下していく。

コクピットから放り出されたクロノクルは、姉にして帝国の女王たるマリアに助けを求め、すがった。だが、マリアの幻影は笑って手をさしのべても、決して歩み寄ろうとはしなかった。

落下しながら、それでも姉を呼ぶクロノクルであったが、パーツ外壁に後頭部を強打して絶命するのだった。

愛する男を奪われた悲しき女戦士の最期

V2アサルトガンダム VS. ゴトラタン

■敵味方なく暴走するカテジナ・ルース

戦局は混戦の態をなしてきた。「リゲ・コンティオ」で出撃した、クロノクル・アシャーによる艦橋へのピンポイント攻撃で、地球連邦軍主力艦隊旗艦「ジャンヌ・ダルク」は沈黙し、その一方でモトラッド艦隊のアドラスティア級戦艦も、ウツソ・エヴィンが駆る「V2アサルトガンダム」（略称、V2アサルト）の光の翼にブリッジを両断され、撃沈した。

こうしたなか、ウツソに守られたシャクティ・カリンは暴走する巨大サイコミユ要塞「エンジェル・ハイロウ」を制御し、事態の収拾を図る。

だが、シャクティに導かれ平和を願う歌となったサイコ・ウェーブは、カテジナ・ルースの心をささくれさせ、凶暴化させてしまった。

見境をなくしたカテジナは、「ゴトラタン」のメガ・ビーム・キャノンでエンジェ

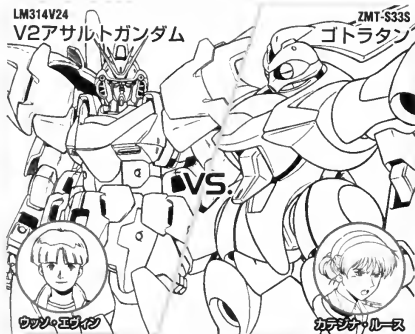
第50話

「憎しみが呼ぶ対決」

第51話

「天使たちの昇天」

自壊するエンジェル・ハイロウのただなかで、至んだカテジナ・ルースが、ウツソ・エヴィンの最後の敵として立ちはだかる。



ル・ハイロウを砲撃し、それを見て近寄ってきたフランチェスカ・オハラらシュラク隊の新規メンバーも「とち狂って、お友だちにでもなりにきたかい？」と葬り去る。

それでもなお、いらだつカデジナは、エンジェル・ハイロウ内に潜入し、サイコ・ウェーブを止めるべくシャクティのもとへ急ぐ。

その暴走を止めようと、ウッソはV2アサルトを降りてゴトラタンの前に立ち、必死に説得を試みる。しかし、心を閉ざしてしまったカデジナには、ウッソの言葉もシャクティの心の声も届かない。

「あたしは、クロノクルという巣を見つけたんだ。なのに、おまえとシ

ヤクティはそれを笑った」。ウツソにビーム・ライフルを向けるカテジナ。

ウツソはビーム・ライフルをよじ登り、さらに説得を続けるが、カテジナはそれを振りはらう。

それを見たベットロボット「ハロ」は、まかされていたV2アサルトの頭部バルカン砲を撃つてウツソを救い、ゴトラタンの頭部ビーム・カッター攻撃もしのいで脱出した。

■歪んだ心に宿った恐るべきパワー

カテジナはウツソを追撃。さらにクロノクルを呼び、ウツソと戦わせることで、女としての虚栄心を満足させようとした。

「この戦いはね、ふたりの男があたしを賭けて戦っているんだ。だから邪魔はさせないんだよ!」。ウツソの援護に入ろうとした、最後のシュラク隊であるコニー・フランシスの「Vガンダムヘキサ」を撃墜するカテジナ。そして、自分はクロノクルに加勢しウツソを攻撃する。

そこにウツソの援護でオデロ・ヘンリークの「ガンブラスター」が駆けつけるが、



ゴトラタンはメガ・ビーム・キャノンの砲身で、Vダッシュガンダムを横殴りにして撃破した。



オデロの瞬間の戸惑いを見逃さず、必殺の攻撃を繰り出すカテジナは、非情の戦士そのものだ。

カテジナのゴトラタンは機体を蹴りあげ、ビーム・トンファアを振り下ろす。最後は腹部に強烈な横蹴りをくわえて爆散させた。

だが、加勢したクロノクルも、心の自在をとり戻したウツソの猛攻を受けカテジナの眼前で地球の空に散った。

彼女なりに愛し、頼りにもしていた男を失ったとき、カテジナの心はウツソを殺すことだけが目的となってしまうた。スペシャルと称され、優秀なパイロットとし

て敵味方双方から認められているウツソ。そのウツソと互角の戦いをカテジナはしている。

このあいだまでウーイックの深窓の令嬢であったことを考えると、この力はもともとあつたのものか、それとも心が歪んでしまったからこそ発現した力なのか……。

こうしてウツソとカテジナが戦っているあいだに、戦局は大きく動く。リガ・ミリティアとザンスカール帝国の最終決戦は双方の司令官の戦死と、エンジエル・ハイロウが自らブロック単位に分解し、飛び去るという不可思議な現象が起こったことによって、

なし崩し的に終息しようとしていた。

■ 怨念の矢は光の翼で弾かれる

ゴトラタンとの格闘戦中、「V2ガンダム」は、集合するエンジェル・ハイロウのパーツに脚部をはさまれ、身動きがとれなくなってしまう。

それを見たカテジナは、ゴトラタンでV2ガンダムを組み伏せると、コクビットから出て、言葉巧みにウツソを誘い出す。「あたしはクロノクルを愛してしまつたから、君と抱き合うことはできない。だから殺してちょうだい」。ウツソもコクビットから出て、「死ぬことなんてありませんよ。もう戦争は終わつたはずなんです」と説得する。それも聞かずカテジナは、君の手で殺してほしいと、ウツソに飛びつく。そして抱きしめるふりをして、「甘いよねえ、坊や」と、隠し持ったナイフでウツソの脇腹を刺すのだった。

だがそれは致命傷にはならず、そのことにいらだつたカテジナは、ビーム・ライフルでとどめを刺すことにも失敗し、V2ガンダムを見失ってしまう。しかし、ウ



V2ガンダムに最接近するゴトラタン。この直後、カテジナはウツソをだまし討ちにしようとする。



ミノフスキー・ドライブのパワーは、ゴトラタンの
メガ・ビーム・キャノンすら真正面から受け止めた。

ッソがシャクティを助けるべく、エンジェル・ハイロウのセンターブロックに侵入すると読んだカテジナはそこでウッソを待ち伏せる。
エンジェル・ハイロウ内で探すウッソだったが、死せるリガ・ミリティアの勇士らの思念に導かれカテジナの目論見を悟り、決着に向かう。そして、再び対峙するふたり。

構えもせず、自然体のV2ガンダムに、こけにされたと怒るカテジナであったが、その瞳に映ったのは、死してなおウッソを守る人々の幻像であった。

「まやかすなー!」。それらを振り払うかのように、メガ・ビーム・キャノンを発射するカテジナ。しかしウッソは焦らず、両腕部のビーム・シールド発生器で背部の光の翼をとりこむと、V字を描く光強力な防御体勢をとった。

さしものカテジナの一撃もこれには通用せず、ゴトラタンは大出力ビームと光の翼の守りが激突した際に生じた、まばゆいまでの光の奔流のなかに消えていった。

人類絶滅の野望を阻止した義勇軍

人類のゆるやかな絶滅を企てるザンスカル帝国に対抗すべく、義勇軍リガ・ミリティアが開発した新型モビルスーツこそ「Vガンダム」である。

この機体の最大の特徴は、分離合体が可能な「コア・ブロック・システム」である。このシステムは高コストであったが、その反面パイロットの生存率向上や、工場の分散化による秘匿性の向上に役立っている。また、機体の一部が損傷しても、当該ブロックを排除することで、性能の低下を招かないという、抜群の戦闘継続能力を有していた。

事実、被弾してもパーツさえ確保できれば、それを丸ごと交換することで、修理の時間も必要とせず戦線に復帰することが可能であった。リガ・ミリティアの若き撃墜王たるウツソ・エヴィンはこれを利用して、下半身に相当する「ボトム・リム」を爆弾代わりに使用、敵を撃退するという戦法を編み出している。

このほかにもリガ・ミリティアでは、非変形モビルスーツ「ガンイージ」「ガンブラスター」も独自に開発しているが、こちらは性能を犠牲にしつつも共通規格の部品を使用するなどして、生産性を高めた機体であった。

このように義勇兵であるリガ・ミリティアが自前で兵器開発に乗り出さなければならなかったのは、地球連邦軍の装備が旧式化しており、敵対するザンスカル帝国の機動兵器に1対1では歯が立たなかったという背景があった。

数で対抗できるならば旧式機ばかりの連邦軍でも十分に勝機はあるが、数に劣るリガ・ミリティアでは、その戦術上、高性能機は必要不可欠だった。

しかしながら、このあたりの事情はザンスカル帝国も同じであり、連邦軍と比して物量で劣るからこそ、自軍の兵器の高性能化を推し進めていたのだ。

そこには最新鋭の技術が惜しげもなく導入されており、その結果がモビルスーツに重力下での巡航飛行能力を付与した「ビーム・ローター」であり、攻防一体の車輪型サポートシステム「アインラッド」だったのである。

こうしたザンスカル帝国の思想がもつとも顕著に表れたのが、巨大サイコミュ要塞「エンジェル・ハイロウ」で、これによって地球の全人類は幼児化ともいべき退行現象を強制され、緩慢に死に至るはずであった。

この「寡兵で大軍を制する」を具現化したようなエンジェル・ハイロウを打ち破る魁（もろもろ）となった機体が、一騎当千の能力を秘めた「V2ガンダム」であったのは戦争の皮肉（くさめ）というべきであろう。

光の翼をもつV2ガンダムを駆るウツソの八面六臂の活躍がなかったら、「ザンスカル戦争」の果てに、人類は死に絶えていたかもしれない。

編集	株式会社レッカ社 齊藤秀夫 安川溪
ライティング	サデスパー堀野 池上隆之 加々美利治 神北恵太 しろむらゆり 土屋俊一郎 野村昌隆 破勢天輝 桃原郷
本文デザイン	和知久仁子
DTP	Design-Office OURS
プロデュース	越智秀樹 (PHP研究所)
協力	株式会社サンライズ

【主な参考文献】

『NEWTYPE 100%COLLECTION 7 機動戦士ガンダムZZ PERFECT EDITION』、『NEWTYPE 100%COLLECTION 10 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア GUNDAM CHAR'S COUNTERATTACK』、『NEWTYPE 100%COLLECTION 21 機動戦士Vガンダム VOL.1 ÜSO'S BATTLE』、『NEWTYPE 100%COLLECTION 23 機動戦士Vガンダム VOL.2 SHAHKT'S PRAYER』、『The New Century-UNIVERSAL CENTURY 123-153/CORRECT CENTURY 2345 機動戦士ガンダム エピソードガイド vol.5 新世紀編』(以上、角川書店)／『別冊アニメディア 機動戦士ガンダムZZ PART.1』、『別冊アニメディア 機動戦士ガンダムZZ PART.2』(以上、学習研究社)／『ケイブンシャ大百科445 機動戦士ガンダム GUNDAM F91大百科』、『機動戦士Vガンダム大百科』(以上、劉文社)／『テレビマガジン特別編集 機動戦士ガンダム大全集 Part II』、『GUNDAM OFFICIALS U.C.0079-0083 機動戦士ガンダム公式百科事典』菅川ゆか、『Official File Magazine 機動戦士ガンダム ヒストリカ01〜10』、『Official File Magazine 機動戦士Zガンダム ヒストリカ00〜12』、『総解説ガンダム事典 ガンダムワールドU.C.編』菅川ゆか(以上、講談社)／『機動戦士ガンダム画報(竹書房)』／『ENTERTAINMENT BIBLE 35 機動戦士ガンダムMS大図鑑 PART.5 コスモ・バビロニア建国戦争編』、『B-CLUB SPECIAL 機動戦士ガンダム新MS大全集 Ver.3.0』(以上、バンダイ)／『DENGKICOMICMS データコレクション4 機動戦士Zガンダム 上巻』、『DENGKICOMICMS データコレクション5 機動戦士Zガンダム 下巻』、『DENGKICOMICMS データコレクション6 機動戦士ガンダムZZ』、『DENGKICOMICMS データコレクション7 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』、『DENGKICOMICMS データコレクション8 機動戦士ガンダムF91』、『DENGKICOMICMS データコレクション12 機動戦士Vガンダム』、『Dセレクション 機動戦士ガンダムMS大全集 2003 MOBILE SUIT Illustrated 2003』(以上、メディアワークス)／『ラポートデラックス 機動戦士ガンダム GUNDAM F91』、『ラポートデラックス 機動戦士Vガンダム大図鑑』(以上、ラポート)

本書は、書き下ろし作品です。

編著者紹介

株式会社レッカ社 (かぶしきがいしゃ れっかしゃ)

編集プロダクション、1985年設立。ゲーム攻略本を中心にサッカー関連、ファッション系まで幅広く編集制作する。代表作としてレトロバイブル『大百科シリーズ』(宝島社)や、シリーズ計600万部のメガヒット『ケータイ着メロ ドレミBOOK』(双葉社)などがある。『永遠のガンダム語録』(カンゼン)をはじめ、ガンダム関連本も多数編集制作。現在『ジュニアサッカーを応援しよう!』を雑誌、ウェブ、ケータイ公式サイトで展開中。

PHP文庫 ガンダム合戦伝Ⅱ

グリプス戦役からザンスカール戦争まで

2009年7月17日 第1版第1刷

編著者	株式会社レッカ社
発行者	江口克彦
発行所	PHP研究所

東京本部 〒102-8331 千代田区三番町3番地10

文庫出版部 ☎03-3239-6259(編集)

普及一部 ☎03-3239-6233(販売)

京都本部 〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11

PHP INTERFACE <http://www.php.co.jp/>

印刷所	図書印刷株式会社
製本所	

© 創通・サンライズ 2009 Printed in Japan

落丁・乱丁本の場合は弊社制作管理部(☎03-3239-6226)へご連絡下さい。

送料弊社負担にてお取り替えいたします。

ISBN978-4-569-67290-8

ガンダム「武器・防具」伝

株式会社レック社 編著

モビルスーツにとって不可欠な存在である武器と防具。ガンダムシリーズ6作品に登場する163アイテムをエピソードを中心に徹底解説。

定価680円
(本体648円)
税5%

ガンダム合戦伝

一年戦争からデラース紛争まで

株式会社レック社 編著

ガンダムシリーズの見所であるモビルスーツ同士の対決シーン。シリーズ6作品の中から記憶に残る名バトルをエピソード中心で振り返る！

定価600円
(本体571円)
税5%

ガンダム合戦伝II

グリップス戦役からザンスカール戦争まで

株式会社レック社編著



RHP文庫

ガンダム合戦伝Ⅱ

グリプス戦役からザンスカール戦争まで

株式会社レッカ社 編著



PIIP文庫



ISBN978-4-569-67290-8

C0179 ¥590E



定価：本体590円(税別)

ガンダム合戦伝Ⅱ

グリプス戦役からザンスカール戦争まで

株式会社レッカ社 編著

ジオン公国との戦いが終結して7年。宇宙に再び戦乱が起ころうとしていた。本書は「Zガンダム」をはじめとする一年戦争後を描いた宇宙世紀5作品の中から52の代表的戦闘をピックアップ、その発端から結果までを詳細に解説している。カミーユVS. ジェリドの熾烈な争いからシャアVS. アムロの宿命の対決、ウツソVS. カナジナの因縁の戦いまで、魂を揺さぶるバトルの内幕が明らかに！ 文庫書き下ろし。



PHP文庫

ね
2
13

株式会社
レック
力社
編著

ガ
ン
ダ
人
合
戦
伝
説



P
H
P
文庫

590

株式会社レヅカ社
編著

ガンダム
ムササビ
合戦伝
II



P
H
P
文庫